



部報

力漕

創刊号

WILD ROVER CREW

同志社大学ボート部

SEKISUI



積水化学には、
人と人、人と技術が
出会う広場がある。

たとえば、そのひとつが、積水化学京都技術センターです。日本でも有数のプラスチック総合技術開発センターであると同時に、人と人、人と技術の出会いの広場として数多くの交流が生まれ、新しい時代の新しい可能性が次々と育っています。積水化学は、まっすぐ21世紀に向けて、これから出会うあなたの夢を実現する、たくさんの広場を用意しています。

新技术で、21世紀をおもしろく。

積水化学工業株式会社

〒530 大阪市北区西天満2-4-4

日 次

年次創刊にあたって

部報

力漕

現役部員活動報告

現役越前

新人感想

卒業生のこぼれ話

お知らせ

卒業生のことば

名鑑

設備一覧

会計報告

活動内容に関する附資料

新規登録

会員登録

積水化学には、
人と人、人と技術が
出会う広場がある。

目 次

年誌創刊にあたって

(ごあいさつ)

年誌創刊にあたって 1

年誌から「お便り」が手元に届く。それが年に一度の「年誌」。そこには部員の

寄稿 3

の投稿記録として大きく育てて、現役部員 4

きて、私がボート部長になると新入部員紹介 20

タ・開西選手権などかなりの数のレポートを送りました。しかし、いまに何をもう見ていいのか
よく分かりません。次第に力が抜けて、遅れています。これまで開かれていた会議はもう聞かなくなっています。

現役部員活動報告 (1) 1993年度活動内容 22

見るのもなかなか難しい。出漕クルー一覧 24

ことになっています。年間成績一覧 25

会計報告 43

長官長のスポーツ教室が何で設備一覧 44

方の実例をやってましたか。活動内容に関する諸資料 45

今年のインカレ決勝では、100m自由形決勝に決勝進出。最終組を走った甲子園決勝では、

ついでさすでにきました。「最高すぎない」と言ったところが「中央には余裕がありますね」とは

卒業生のことば 56

の余裕などもぱり見えました。中央もすごいけど、外もすごいやつだと感じました。

私に分かるのは、勝っても、負けても、諦めないとやつた。といった程度のことです。でも

お知らせ 65

前にあって、改善しています。技術面の成長にむけた努力が反映される船の動きが見えてきました。

名簿では、結果や勝敗同志社艇友会会員名簿 69

学生と一緒に一喜一憂する現役名簿 88

もっと楽したい、もっと面白くなりたいと思いつづいています。ボートにはそれだけの価値があることを

始めています。それよりも競争に挑戦される日々諸先輩のサポートを頼んでいるのが寂しい。

そこで、あなたが私は競争優位のコツをご教示下さいよいか。どうぞよろしく頼ります。どうぞ

お恵みをせんか。

年誌創刊にあたって

《ごあいさつ》

一歩前進するための世界の情報収集と分析による知識創造を目的とした情報技術開発と、その実用化による社会貢献をめざす、岡本博士の公私を通じた活動の軌跡。

今回から『力漕』が年誌に生まれ変わりました。これを機に内容が一層充実し、ボート部の活動記録としての意義はもとより、部員諸君の青春記録として、さらには諸先輩やご父母の方々とボート部の交流記録として大きく育ってくれることを願っています。

さて、私がボート部長になってからかれこれ7年が経過しました。この間、インカレ・朝日レガッタ・関西選手権などかなりの数のレースを見てきました。しかし、いまだに何をどう見てよいのかよく分かりません。先輩方からボートを漕ぐのは難しいという話はよく聞かされ、そして、昨年の学年レガッタで始めてフォアに乗艇してみて、なるほど漕ぐのは難しいものだと実感しました。しかし、見るのもなかなか難しい。こうして私の頭の中は、ボートというのは見ても漕いでも難しい、ということになっています。

泡の開きで艇速が分かると言われてそのつもりで見たこともあります、どうも要領を得ません。N H K のスポーツ教室か何かで、ボートが取り上げられたことがあり、そこでいい漕ぎ方、悪い漕ぎ方の実例をやってましたが、素人目には違いがさっぱり見えません。

今年のインカレ決勝で私は1000M地点にN君といました。目の前を東北大が中央大にかなりの差をつけてすぎていきました。「東北すごいな」と言ったら、N君が「中央には余裕がありますね」と言いきりました。結果はゴール前で中央の大逆転でしたから、N君の言ったとおりでした。私には中央の余裕などさっぱり見えませんでした。中央もすごいけどNもすごいやつだと感心しました。

私が分かるのは、勝ってる、負けてる、差が開いた、いや縮まった、といった程度のことです。でも、この程度でも、最近は、なかなかおもしろいもんだと思っています。戸田のコースを自転車と一緒に走って、興奮しています。琵琶湖の薰風にたゆたいながら疾走する艇を眺める気持ちよさも知りました。

部長としては、結果や勝敗にはこだわらずにおこうと心掛けています。素人して漕艇競技を楽しみ、学生と一緒に一喜一憂することで十分だろうと思います。しかし、この頃は少し欲も出てきています。もっと楽しみたい、もっと面白くみたいと思い始めています。ボートにはそれだけの価値があると考え始めています。なによりも観戦に来られるOB諸先輩のボートを楽しんでいる姿が羨ましい。

そこで、どなたか私に競漕観戦のコツをご教示下さいませんか。どこかに「やさしい観戦の手引」などありませんか。

《年誌「力漕」に寄せて》

昭和14年卒 高橋 宗

部報「力漕」1号が発刊されたのは昭和60年であったと思う。残念ながら私の手元には2号からしかない。編集委員に奥谷、阿江、末瀬君等の名がある。故小石先生と当時監督の荒井君の発案でポート部の現状を先輩諸氏に報告し、よく理解していただき御支援をお願する趣旨であったと思う。以来16号平成4年6月発行で上っている。その間部長先生も岡本先生に、監督も横山君に代りました。又平成3年には同志社ローイング100年記念の大事業を諸先輩と現役部員の総力をあげての結集で見事に遂行しました。この先輩と現役部員の交流を一層深める為「力漕」を部の現況報告のみならず諸先輩のご意見等を掲載し、年誌と発行することになりました。どうか先輩諸氏私達の愛する同志社大学ポート部の発展の為ご指導ご意見を寄せられ、充実した年誌として毎年発刊しようではありませんか。

「叫び」 対校クルーは本年はどうしても勝って欲しかった。

本年は朝日レガツタ、関西選手権に優勝し、全日本学生選手権は決勝進出、それが私の願だった。朝日は強いクルーは出漕せず、関選も全日本に優勝した東レは出漕しなかった。何故か朝日で二分五十三秒の最高タイムを出しながら三位に終わり、更に関選、全日、迄日数がありながら全然進歩もなく、むしろ退歩した感さえする。殊に全日の二千米レースのタイム落ちは何故なのか、言うまいと思うが言いたくなる。私は君達の練習を他の先輩よりよく見ているだけに理解のある一人であると思っている。十二月のアルバイトをしながらの練習、一月の試験最中の練習している姿を見ては感激し感謝してきた。ただ本年は監督、コーチ、君達がなんとか欲しいと云っていた待望のエンバフラー艇を諸先輩に無理にお願いして買っていただいたことの結果と、春シーズンの好タイムを夏に向って成果をあげ得なかったことが残念でたまらないのだ。部員諸君どうか自分の力不足を自覚し、互に競争し合い鍛錬を積み更に他に負けない練習を重ねて欲しい。来シーズンの成果を待っている。頑張れ。

「ボートの後輩」

私は昭和21年8月ルソン島より復員して以来瀬田に住みついた関係から戦後のポート部の先輩達をよく知っています。もう還暦を過ぎた人達も居ます。戦地帰りの若さにまかせて川岸や唐橋の上から怒鳴ったものです。或いは自転車に長男と次男を後と前にのせて川岸をボートについて走りました。もう此頃は行きませんが、早朝から合宿に行き予定通りの練習をしていなと怒鳴って起したものでした。だから若い先輩の中には私が艇友会の会長をやっているから会費や寄付金を出さない人もあるのでせう。又一方私の顔を立てて、余分に出してくれる人もあります。しかし言えることは文句を言って居た人達は概して非協力であることです。それと現役時代あれだけ先輩の世話になりながら後輩の為に会費を出さない人の心情が私には解りません。最後にボートの人達との喜怒哀楽の中で今日79才の今まで生きてきました。交じわってきた先輩後輩に感謝しなくてはなりません。本当に有難うございました。

寄稿

監督 横山基嗣

平素はO Bの皆様には物心両面にわたり、お世話になりありがとうございます。

マネージャーの念願でありました年誌（力漕）が、発行されることとなりました。これも学生達が、一生懸命取り組んだ結果だと、大変喜んでいます。

これを継続することが大切でありますし、その為には、今までの何倍も努力が必要です。今後途絶える事がないよう頑張って欲しいと思います。

私が監督をさせていただいて、はや5シーズンが終わりました。反省ばかりの5年間でした。1年目は、インカレ4位全日4位とまずまずの成績を収めました。2年目はインカレの決勝に手のとどく所におりながら準決勝で負け非常に悔しい思いをしました。3年目、この年は100周年の年で、それなりのプレッシャーを感じていました。しかし結果はインカレ準決勝敗退。ただ同志社大学ポート部創部100年で初めて6分を切ったという事が、せめてもの救いになりました。この年の最大の出来事はヘンリーレガッタに出漕させていただいた事です。5年目に至っては予選で負けるという最悪の結果になりました。私はポート部がどんな状態に置かれても、絶対に予選敗退は許されないと考えていました。学生達はよくやってくれました。練習もよくやり必死に取り組んでくれました。その中で我々コーチングスタッフがやらなければならない事ができなかった、それが最悪の結果を招く原因になったと思います。これは監督である私の責任だと深く反省しています。5年間、関東等のクルーを見て感じた事は、体力、技術（漕歴）、精神力全ての面で劣っていると言うことです。普通に練習をやり、普通の気持ちで取り組んでいてはいつまでたっても、よくて準決勝止まりです。

ただエイトに関していえば8人+コックスです。技術面で多少劣っていても9人で戦うことで可能性は充分あると思います。

今シーズンは我々も原点に戻ってもう一度やります。

私が監督をひきうけた時最初に言いました、日本一の練習量と質。科学的な練習は勿論、非科学的な練習を含め必死にやって行きます。これから陸トレ、乗艇練習で精神面、体力では絶対負けないクルーを作り、ポート部全員で日本一を目指してやって行きますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

《現役部員寄稿》

昨シーズンの反省

今シーズンに期待すること

四回生 前主将 堀内 昭宏

同志社大学ボート部の目標は、自分の目標だったはずだ。それは間違いない。インカレ決勝に出場すること、主将として、それを、言葉にして部員全員に話さなければならない。4年間、対校エイトに乗り続けた自分には、言葉に出したくなかった。ほんの二言三言でかたづけてしまえるような言葉には思えなかったからである。対校としての4年間は、艇の上でも、陸の上でも、その想いを燃やし続けさせてくれたのだと思う。言葉よりも、それを自分のオールに伝えたかった。艇が勝つためには艇の上で考えることが必要だと思っていたからだ。自分のストロークで、どれだけ艇を前へ進めることが出来るのか。部のまとまりであるとか、練習の内容であるとかよりも、原点はただそれにつきると4年間、想い続けてきた。こんなことを言うと主将失格になるかもしれないが、それを、自分なりに、言葉よりもオールで、艇の上でみんなに伝えたかった。主将として、部を、見渡すよりも、自分は、ただ、艇の原動力として、艇を前へ前へ進めたかったと思う。それが正直な気持ちだった。「追い求めるのはそう決めたからだ、決めたからにはやるしかない。」この言葉が自分の支えだった。辛くとも、苦しくても、嫌になっても、自分の決めたことを、やめてしまう理由なんてどこにもないはずだ。自分の決めたこと、それが、インカレ決勝出場だった。部の目標であり、自分の目標、自分の想いであったことには違いない。残念ながら、その想いを実現させるチャンスが自分にはないけれど、まだ漕ぎ続けている人達には、時間もチャンスもあると思う。なぜ負けたのかを考えるより、どうしたら勝てるのかを考えてほしいと思う。技術、体力だけではかたづけられないものが、艇のどこかに眠っているのだと思う。精神論だと言ってかたづけられるかもしれないが、熱い想いが、部員一人一人にあれば、目標がどうであれ、練習の内容がどうであっても、艇は全体に走ってくれると思う。エイトは、9人のハートを乗せて走ってくれる。オールは、ハートの分だけ、水をつかんでくれる。全てはそこから。ハートだけで走ったら苦労しないと思われるかもしれないが、全てはそこから。主将として、部を上手くまとめることができなかったけれど、選手として言わせてもらうと、想いをオールに伝えてほしい。想いを艇に伝えてほしい。次期主将の小吹には、想いを部員全員に伝えてほしいと思います。

四回生 前副将 喜多栄太

今シーズン我々学生が決めた目標は学生主体で部を作っていくことと、学生日本一になるという2つであった。前者については学生スポーツなのだから当然そうあるべきであるが、過去数年については必ずしもそうではなかった。ということで今シーズンからは練習メニュー、合宿日程などについて学生の意見を尊重しよう、自分たちが話し合い、納得したことをしていくことになった。このことによって漕手、マネージャー、トレーナーがそれぞれの役割に対する責任感を増したことが言える。反省としては4回生が自分たちで決めた練習内容、合宿日程その他諸々の事柄についてそれがどうゆう結果をもたらしたか、その成果がどうであったかについて話し合う機会が少なかったことがある。決めた事柄の過程、成果についてもっと話し合い、後輩の意見も話し合いの中に取り上げてあげられる、そういう場をもっと増やすべきであったと思う。

私は3年半オールをにぎり続け最後の最後に勝つ喜びを味わいました。この1年間果してこれで勝てるのかという不安も心に持ちながら、ただやみくもに練習してきたような所もありました。その結果Jrはオッ盾決勝で準優勝することができました。漕手、マネージャーにとても大きな自信となったはずです。これを機会にもっと強いクルーを作り上げて下さい。もっと強いクラブを作って下さい。そして自分にとってこのクラブとは何なのか考えて下さい、話し合って下さい。そうすることで合宿生活がただつらく厳しいものではなく新たな意味を持ったものになるはずです。ボートもスポーツである限り苦しみを伴いこそそれ楽しくなければなりません。今までの私たちに足りなかつたのは水の上で楽しむというこだったと思う。ただ楽しみにもレベルがあります。自分たちがどのレベルの楽しみを求めているのかをよく考えそれに向けて努力して下さい。

今シーズンの抱負

三回生 新主将 小吹悟

ボートほど負けて悔しいチームスポーツはない。他のスポーツではチームプレーの中にも個人成績を残すことができ、たとえ、チームが負けたとしても個人の成績・プレーには納得がいくこともあるだろう。しかし、ボート、ことにエイトは違う。いくら個人の技量が優れていようが結果はチーム成績ひとつしか残らない。ひとりの力ではどうにもならない。個々の華やかプレーというものが存在しない。ヒーローというものが存在しない。たがら、チーム成績は8人がいかに連帯感をもち、ひとつになれるかにかかるくる。94年のシーズンで我々が輝けるには、部員が同じ気持ちひとつで結ばれなければならない。言いかえれば、全員が互いに信頼し合える状況をつくりねばならない。そして、目標はあくまで勝利することである。だからと言って結果を残そうと躍起になるのではなく、勝利するまでの過程をきちんとやることが一番大切なことである。つまり、勝てる要素をつくり、負ける要素を消し去ることである。幸いなことにボート部は年の大半を合宿している。練習の時だけでなく、日常生活も一緒に送れることは互いの理解・信頼を深めるには好都合である。そこで個人には責任あ

る行動をとることが要求される。生活面において自分に責任のもてない者は、艇に乗ってもマイナスになるだけである。今シーズンは艇に乗る以前の事をまずしっかりと行うことから始めねばならない。当たり前の事ができないチームはレースでも当たり前のように負けていく。互いの信頼なくして艇は走らない。

昨シーズンは、Jr.が目立った年であった。自分は対校のメンバーとして実に悔しい夏であった。Jr.が羨ましい限りだった。今年の夏に輝けるよう関東のクルーに匹敵する実力を身につけたい。常に

今シーズンの課題と目標

三回生 新副将 金 咲 越 郎

「自主性」。この言葉が今シーズンの同志社大学ボート部のテーマであるとした。「自主性」と一言で言っても、その意味するところは容易にとらえることのできるものではない。解釈のしかたによっては方向を誤るということも考え得る。正しい認識が必要だ。

今シーズンは学生主体の部の運営、現役の学生自らが部を動かしてゆく。毎シーズン、このことは考えられているにはちがいないだろうが、まだまだ目標とする域まで達していない。勝つためには自分達が何をすればいいのか。どうすれば関東のトップクラスのクルーに十分太刀打ちできるだけの実力を身につけることができるのか、と絶えず自分達自身で考えていかねばならない。やらされているうちは到底関西にとどまる。これより同志社大学ボート部が真に強くなるためには、学生各々のもうとレベルの高い意識の下による取り組みが必要であると考えている。日頃の練習はただこなすだけではなく、常に効率というものを考え、中身のあるものにしてゆく。アップ体制も「めりはり」の出せばたが、部の人間による正しい理解、そして協力、団結が要求される。「自主性」とは下手をすれば「甘え」へと変ずる。すべては学生次第なのである。その意味で今シーズンは選手一人一人を尊重し「甘え」へと変じる。自分は同回生、後輩諸君を信頼している。

確実にこの「自主性」というものを自分達のものにできたならば………いちいち書くまでもないか。このクラブを見て思うことは、まず選手が練習に対してかなり受身であるということである。この

ことは選手が本当にレースに出て勝つんだという意識をもって練習に望めば、あるはずのないことである。勝つ意識をしっかりと持つには中途半端な意識では持つことはできない。その点を考えるとボート部は精神的な弱さ、甘さが目立つ。どんな練習をする時でも、練習の意義を考え、目標を置き、その目標を達成することが重要なことであると思う。レースに勝つために何をすべきかを考え、また、勝つことへの執着心を今まで以上に燃やして欲しい。クルーについても同じようなことが言えると思う。ボートをやるからにはまず楽しんでやることが大事である。苦しい練習のほうが多いとは思うが、小さなことでも良いから喜べる事、楽しめる事を発見して欲しい。苦しくて、つらい練習をしなければならないことは当然なのだから、やる前からその練習を受身にってしまうのではなく、積極的に望めるような意識をもっていて欲しいと思う。一つのクルーの中には先輩、後輩、また、技術に優れている者、劣っている者が一緒に乘ることがあると思うが、この二者の立場の違いにとらわれてひけ目を感じてはならないと思う。実際、自分が乗ってきたクルーでもあったことだが、乗艇中に声を出す者が限られていて、声を出している者のワンマンクルーのように思われることが多くあった。クルーの中の一人ということを考えて、クルーの中に自分の存在をもっとアピールすべきであると思う。クルーのムードメーカーに徹しても良いと思うし、最低でも一人分の責任があるのでその責任を果たして欲しいと思う。力だけを分かれているだけの者になるのではなく、一人一人がクルーをまとめる者であって欲しいと思う。

練習内容とその目的

ボート競技では、どのようなトレーニングをすべきかを、主に陸上トレーニングの面から書いていこうと思います。陸上トレーニングの最大の目的は運動するためのエネルギーをどれだけ効率よく作り出すかという能力を発展向上させることにあり、具体的にいうと、運動するためのエネルギーはアデノシン3リン酸（ATP）がアデノシン2リン酸と1リン酸に分解する時に発生し、再びATPを作り出し、先に書いたような分解が行なわれることによって、運動はくり返し行なわれるようになります。つまり、陸上トレーニングではこのATPを作り出す能力を発展向上させることです。それでは、ボート競技は、体内のどのような過程でATPが作られているかを考えると、有酸素系過程が全体の70%、残り30%が無酸素過程という内訳になっています。有酸素系過程は陸上の長距離走、無酸素過程は、短距離走で体内におこるATPの発生過程です。

そして、これら2つの過程を発展向上させるために、トレーニング種目を①心肺機能持久系②筋持久系③最大筋力系に分け、①②は有酸素過程③は無酸素系過程として、トレーニングを行い、①は例えば、うでたて→スクワット→腹筋→背筋→大また→バーピージャンプなどを連続して行い、心臓、

肺の機能を高め、②はウエイト器具を用いたサーキットトレーニングで例えば、ベンチプレス→スクワット→デッドリフト→ペントロウ→シットアップなどを連続して行い、筋肉が長時間の運動に耐えられるようにし、③はヘビーウエイトであり、筋肉の絶対量を増やすために行います。さらに、エルゴメーターを使用し、実際の ROWING につなげていきます。

以上、かなり適当にトレーニングの方法について書いてきましたが、それ以上に大切なのが、トレーニング1つ1つについて、なぜするのかを常に漕手1人1人が考えながらすることであり、単に量だけはいいという考え方では、開車のクルーに勝てないという事を頭に置いておくべきです。

ポート部の合宿所

三回生 森田徳教
東海道線の長い長い旅路をおえて（京都から15分）、石山から唐橋をこえるとそこにやけに日に焼けた人間が住んでいる。合宿所だ。彼らはそこで朝早く日がのぼるまえから、そして日の沈むころにも船をこいでいるという変な人達だ。しかも彼らはボートで心と体を鍛え、学校でバッチャリ勉強して頭を鍛えるという、どこかのモーターボート協会のジジイも顔負けの生活をしているのだ。

彼らのことを荒行をする法師に例える人もいるというがそうではない。彼らは頭にはきちんと毛が生えているしなんといっても楽しそうだ。たしかに試合前には緊張し、試合中にはマジな顔して漕いでいる。しかし終わって勝利したときには純粋に喜んでいる学生の顔がそこにたくさんあるのだ。

彼らは何を目指しているのだろう。ひたすら勝利を目指している人もいるであろうし、そうでない人もいるだろう。人間は多様なものであり考え方人柄もそれぞれである。だがやはり心の中には勝利を目指し充実した学生生活を送ろうとする人がやはり多いのだろう。ある人が、「ボートを漕ぐ人間に悪い人間はない」というのを聞いたことがある。悪くないという人間が往々にして悪人なのだが真偽のほどは定かでない。しかし、「ボートが漕げる人間にマスケナやつはない」というのは真実ではないだろうか。目標に向かって全力投球できる人に墨か者がいるはずがない。

以上さまざまなことを書いたが、これみんな人から聞いた話である。キザなことが多く書いてあるが、年誌の一部分にもこんなのがあってよいだろうとするある人物からの依頼でこれを書いたのだが、それを加えて筆をおくことにします。

二回生 四家 雄一郎

ポート部の朝は早い。学校のある日には4時半ごろには起床コールがかかる。何度も聞いても嫌なものである。早朝ランニングはしんどいが楽しみがないわけでもない。冬場だけなのだが、頭上には宝石のごとく輝く満天の星空を眺めることができる。上を見ながら走ると、ただでさえ眠けと疲労でフラついてる足どりがますます不安定になるが、北極星を探しながら走るのも風流である。（だが冬のランニングは寒いから、やっぱり大嫌いだ。）さらに冬の早朝の乗艇はまさに幻想の世界だ。早朝の気温が瀬田川の水温より低くなり、水蒸気が水面いっぱいに広がるのだ。朝もやの中を矢のように疾走する艇も仲々風流である。（でも冬の乗艇も寒いから、やっぱり嫌いだ。）さらに、早朝モーション後の朝食はとてもうまい。要するに私が言いたいのは「早起きは三文の得」ということである。（でも低血圧の私としては、早起きはやっぱり嫌いだ。）

二回生 岡本和彦

私が1回生で初めて合宿所で食事をした時に驚いたことがいくつかあります。それは、牛乳をみそ汁やご飯のおわんで飲むこと、「ゲロ箱」と呼ばれている青い物体、みそ汁が「しる」と呼ばれていたことなのです。まあ、今ではすっかり慣れてしまったのですが…。

さて、味の方はと言いうと、私は毎日、ほとんど朝晩、美味しいと思いながら食べさせてもらっています。たまに、とんでもない味の時もありますが、人間に失敗は付きもの。合宿所での食生活には本当に満足していますし、感謝しています。

PS. 100g 80円の牛丼はもうイキナです。限界です。もう少し下がるといいなと思います。

僕がこのボート部に入ったのは、高校で部活をやっていなかった自分にとって、初心者の多いこのクラブが最も楽だろうという安易な考えからだった。ところが入部してみると次第に練習はきつくなり挙げ句の果てには全員強制的に合宿入りという「聞いてないよー」と叫びたくなるような事態になった。合宿入りして最初の方はかなりきつかったが、今となってはその生活が体にしみついて、UPの日にはいくら長時間眠ろうとしても必ず朝7時には目が覚めてしまう体になってしまった。長期OFFの時にはやる事がなくて暇をもてあましている。つまり僕にとってボートが全てであり、ボート命という感じになってしまっている。ボート抜きにしては自分は能なしである。体だけ鍛えて頭は

少しも使っていないことに気付いた僕は教養をつけるため、「現代」というぶ厚い月刊誌を買ったが、それも2カ月ぐらいで買わなくなり、それらの本は現在大部屋文庫に寄贈されている。

二回生 武田知也

ボート部に入部してもう早くも約1年半が過ぎようとしている。駆け足で来たのか、のんびり来たのか、どうもはっきりしないこれまでの日々を、ふり返ってみよう。

1回生4月のオリエンテーション時に勧誘され、試乗会をくり返すうちに気がつけば合宿所で寝起きし、ボート部員になっていた。そして、また気がつけば左手にどんぶり、右手にスポンジを持っている、これが雑用というものだった。毎日する雑用のくじ引きで当たるというささやかな喜びを糧にして、1回生の日々はめまぐるしく過ぎていった。このような忙しい毎日ではあったけれども、果たしてどのようなものが血となり肉となったのかはどうもはっきりしない。まあ、あと2、3年し社会に出たときにそれらが無形の財産として残ってくれるだろうと思いつつ、やっと2回生として軌道に乗り始めた部活動に、精を出そうと決意したのである。

二回生 吉野光治

僕も今や2回生となり合宿所生活も1年以上になる。しかし合宿所生活はいつまでたっても好きになれるものではない。ボートというスポーツの特質上合宿所生活は仕方のないことかもしれない。ボートはどこででもできるものではないし夜になれば危ないとなればやはり早朝練習ということにならざるを得ない。だけど僕は現在のようなボート中心の生活がはっきり言って嫌だ。もちろんボートをやりたくて入ってきたんだし、強くなりたいわけだから練習がきついのは当然だと思う。しかし現在の生活は早朝練習が終ると急いで学校へ行って帰ってくるというそれだけであり、学校のない時は合宿所で寝てるだけという全くもって非生産的な毎日を過ごしている。僕はボートがやりたくて入ってきたのだ。生活の中のボートを望んできたのにボート部が僕の生活となってしまっている。僕も来年は上回生。上の人達を見て変革をするのは難しいことは重々承知しているが何とかできるだけ生活改善を考えたい。

二回生 中山弘毅

早いものでボート部に入ってもう1年半が過ぎようとしている。このボート部にセレクションとして入って自分の目標もこの部の目標もまだ両方ともかなっていない。残された時間はあと2年弱しか

ない。幸い自分達の回生は力強い仲間が多くいる。このあと2年弱の間にこの仲間と共にどれだけ目標に近づくことが出来るか、また目標を達成することが出来るかは、やはり自分自身のがんばりにかかると思っている。先日も、全日本新人レガッタがあったが、散々な結果に終ってしまった。このボート部に入って敗けることに慣れてしまったようと思う。もう敗けるのは勘弁してもらいたい。これからは勝つ喜びを味わいたい。やはりスポーツをやるからには楽しくやらないといけないと思う。楽しくボートが出来るように辛い練習もがんばりたいと思う。

二回生 小林賢史

ボート部の一年について書きたいと思います。

まず、4月に入り、新入生を勧誘するためのオリエンテーション期間があり、この時期に新入生を言葉巧みに誘い、試乗会に来させます。これに参加したら、半分くらいの新人は入部します。そして5月に入ると、激しい荒波の中、朝日レガッタが行われます。今年は沈んだエイトもありました。そしてひたすら練習をしたあと、7月後半に関西選手権、そして8月にインカレがあります。この時期になると、暑さと練習の激しさのため、体重が4、5kg落ちます。乗艇する時間が長いため、手のひらには豆ができ、尻にはおできができるほどです。これが終わると、一応シーズンが終わり、来年に向けての体力作りが始まります。この時期中に、エルゴ計測という、漕手がもっとも嫌がるものがあります。2500m漕ぎ終わると、たいていの人は地面に倒れて5分ほど動けなくなります。

同志社ローイング・フォーエバー

二回生 和田将央

どんなときも

うしろを振りかえれば

しんじた部がある

しんじあえる友がいる

やめたくなる時

ろっこつの辺に手を廻して

うなずくだけで

いつでも心がかよう

ん、つづけるよ

ぐっと握った拳をぶつけあって、笑う

ふしぎなものだ

おもえば、皆と出逢ってまだ二年か

えいえんに続く

ぱくとうざ一九九二いつでも

あの頃へ

二回生 木原 聰

この同志社のボート部というのは、他の体育会のクラブとは少し違った生活を送っている為、あまりその練習風景や、雰囲気も、部外の人にはわかつてもらえないかもしれない。しかし合宿での共同生活といった、もし仮りに他の体育会系のクラブやサークルに入っていたら、経験しなかったであろう毎日を過ごすことによって、より一層ボート競技という団体スポーツに集中できているのかもしれない。これだけクラブそのものが一つの団体として活動して、ボート部を運営し続けて来ているのは実際いい事だと思う。この生活にはじめはかなり抵抗を感じたが、それもいつの間にかなくなり、逆にこの生活が普通であるかのような、異常な勘違いまでする始末である。ましてこの生活を基準に他の学生の生活を比較しあげると、ボート部にはまってしまっているのをひしひしと感じる。

二回生 山田 寛幸

ボート部に入って一年半になりますがやめていった人も多くいました。そのやめる時期あるいはやめたくなる時期はある程度決まっているようです。まず、1回生の春に一大決心をしてボート部に入ります。そして夏休み、第一関門です。今まで厳しい練習を重ねてきたところで天国のような一般人生活、これまでやめたくなったりします。現にやめた人もいました。なんとかここをのりきってもまだ関門はあります。それは春休みです。この時期は外界との接触も少なく、ボートに打ち込むため多くの人に症状が現れます。しかし、これをのりきってしまえばもう試合が続くのでやめたくなったりすることもありません。そしてそのまま卒業までボート部に身をまかせることになるでしょう。こうやって、一人前のボートマンが生みだされるのです。

二回生 漆迫 博之

このボート部に入部して約1年半余りが経った。入部のきっかけは、ただの興味半分で行った試乗会だった。その時ボートなどの様なスポーツかも知らなかったが、いざ乗艇してみると本当に面白く感じた事を今でも忘れない。入部すると瀬田杯の為の練習が初まった。その時は、サーキットが異常に苦しかった思い出がある。最初にサーキットの事を聞いた時には、こんなのが出来るか！と思っていたが、実際にやり初めると最後までやってしまっていた。あの時は慣れない生活で大変忙しい思いもしたが、結構毎日が充実していた気がする。あの頃が一番楽しかったのではないだろうか、などと今頃考えてしまう。もし戻れるとしたら、あの頃に戻りたいと思う。

ついでにボート部に入部してもう1年半が過ぎようとしている。自分がどの様子でそろそろでぬけ出る。自分の目標もこの船もまだ向かともかかっていない。丸された時間はあと少しある。

二回生 白田 圭助

今シーズンはずっと対校エイトのBowで試合を戦ってきた。Bowは全員の背中を見ながら漕ぐポジションなので常に後から声援を送り漕ぎながらクルーを盛り上げていく責任のあるポジションだと思う。艇が走っている時はさらに艇速を伸ばすべく盛り上げるべきだし、艇速があまり出すクルーの調子が低迷している時は、クルーの士気を高め、艇に活力を与えるのがBowの役目であると思う。

今シーズンはある程度の成績は残せたものの、インカレでは不本意な結果であったが、練習は常に全力で頑張って来たと思う。

しかしインカレで勝利する為には、今の自分の壁を、肉体的面と精神的面において乗り越えなければならないであろう。新鮮な気持を失わずに毎モーションに取り組み、勢いだけではない安定した強さを持つ同志社ボート部をつくってゆきたいと思う。

曖昧模糊で始めたボート。青息吐息で練習をして、住めば都の合宿所。酒池肉林の朝飯晩飯。商いは牛の涎というように、ボートも気長に辛抱強くが一番さ。臥薪嘗胆心に決めて、千里の道も一步から。長く厳しい勝利への道も切磋琢磨で歩いて行くさ。言うは易く、行うは難しといふけれど、志ある者は、事、竟に成る。晴耕雨読の誘惑すてよう。うかうか三十、きよろきよろ四十じゃないが、うかうか3回、きよろきよろ4回にならぬよう、明日のことは明日案ずるにして、日々精進。樂あれば苦あり、苦あれば樂あり。樂は苦の種、苦は樂の種。すべての道はローマに通す。さあ今日も、雨晴れれば笠を忘れるを目指して練習を始めますか。



1983.2月11日
Wild Rover Shimeta号 進水式にて

《マネージャー》

新主務として

三回生 新主務 西村泰隆

今年の四月に新人勧誘を行い、特に気にかかったことは人との接し方を知らない若者（といっても私と一つや二つほどしか年齢が変わりませんが）が増えていることです。これは受験戦争という日本社会において、人と接するより机に向かっている時間が長いという状況で過ごしたからでしょう。でも、人気ある大学に合格するにはそれぐらい勉強しなければならないのが現実です。かくいう私も二年前はこのような人間の人でした。

だが、ボート部の一員となり、今までの先輩達にいろいろなことを教えられました。大学は社会に出るまでの自分という人間を成長させる最後の場であると考える私にとって、この部を選んで本当に良かったと思います。

さてこの度、主務となり下級生を教える立場となりました。ここ数年合宿所のモラルが低下していると感じている私にとって、今年は細かく厳しく指導していこうと思います。

しかし、このことには大変プレッシャーがかかります。なぜなら下級生以上に私がきっちりとした合宿所生活を送らなければならないからです。いいかげんな人間の言葉の価値は極めて低いものです。私を含めた最上級生が態度に表して初めて下級生がついてくるものと信じています。

私がここまで合宿所生活についてこだわるのは、きっちりとした生活が効果的な練習につながると言っているからです。今シーズンは肉体的にだけでなく精神的にも強い充実したクルーを望み、そのためにはマネージャー一同、漕手達をバックアップしていきます。

これから的一年、主将・主務をはじめ同志社大学ボート部の全員が納得したシーズンを過ごせるよう頑張っていきます。

OBおよび選手の父兄の皆様、なにかとお世話になることが多いと思います。これからもよろしくお願いします。

副務・会計 三回生 佐伯 明

マネージャーの朝は遅い。起床コールで上の階がドタバタしている音で目ざめる時もあるが、それからまた1時間ぐらい眠ることができる。なぜなら朝食を作り始めるのが5時半ぐらいだからだ。そしてマネージャーの夜は遅い。11時過ぎに気持ちよく眠りかけた時、マネ部屋に電話が掛かってくる。そして電話に出る為に二段ベッドの上から降りる時、心臓が苦しそうに脈打っているのがわかる。またベッドに入り眠りにつこうとすると、別の電話が掛かってくる。またベッドから降りる。モーションをしたかのような疲れを感じながら眠りにつく。睡眠時間は結局選手と同じくらいなのだ。ビデ

オで艇を撮影する時がある。自転車で艇を追いかけて撮影すると、南郷から唐橋までの間に二回撮影できる。自転車で追いかける事がキツく感じる。本当に体力は簡単に落ちてしまうものだ。川を進んでゆく艇は本当に自由に見える。もちろん漕いでいる選手が苦しいのはわかる。それでも艇に乗っている者がうらやましく思える。スカル、ダブルスカル、ナックル、シェルフォア、エイト全部のレースを経験した。そして今はマネージャーをしている。本当にいろんな経験をさせてくれるクラブだと思う。これ以上の充実感はないと思う。毎日の生活を楽しんでボート部員を続けていきたい。

ボート部について

新副務・学連 三回生 伊藤 崇

今のボート部は僕が1回2回のときとはかなり違う。どこが違うかというと押しつけられて練習していないことだ。自主性がどんどんクラブを強くしている。この体制が続けばどんどん強くなるだろう。個人的には去年した練習で反省すべき点はほとんどない。強くなるにはどうしたらいいかを考えていれば自分は何をすればいいのか見えてくるものである。合宿生活でのまあ不満なんかは誰でもあると思うけど特にご飯が単調になりがちなんでメニューを考えていきたいと思う。

今後の目標としてはやはりマネージャーという立場上選手に勝てる状態で試合に臨んでもらえるようにサポートしていくということ。それと自分自身が納得してその日その日を生活していくこと。あと一年このボート部で今の自分にはないものをどんどん発見し、新しいものを吸収していくたいと思う。一つの事なかれは人と並んで入り、みんなに「どうして女子で子供を育むのか」とか「なぜ運営する事はありませんか?」などシーズンの試合を見て、その度に自分の想ひを人に語り或は書いたりしてみて、部員の生き方を見ても一人一人が、レースの結果よりも何よりも、自分たちが育てられる方になれる。

三回生 加藤文穂

四回の方が引退されて私達が最上回生となった今、これからは自分達がこの同志社大学ボート部を引っぱっていくんだという責任感をひしひしと感じている。また女子マネージャーとしても、私たちはこのクラブにとって必要な存在であるという自負感があることも、正直な気持ちである。この二つの感情を、うまくプラスの方向に作用させていくことが、女子マネージャーとしての私の今後一年間の課題だと感じている。そして部員にとって最高の環境を提供していくつもりであるから、部員にはそれを思う存分に利用かつ消費してもらいたい。各々の高レベルでのいわゆる“需要と供給”の関係のバランスがとれた時、同志社大学ボート部の全日本選手権優勝、インカレ優勝は決して夢ではないだろう。

通勤便二回のデモ船員として運航する機会をもつて、柏木智香さん

早いもので、もう私達が一番上の学年となってしまいました。いつのまにか、キュウリも素早く切れるようになっています。

今年は、初めての試みであるこの年誌の発行という仕事にたずさわり、いろいろな経験をしました。先輩方にも、本当にお世話になり、ここでもう一度お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

ボート部に入ったばかりの頃は、ただただ言われたことをやり、食事を作っているだけだったのに、こんな事が出来るようになるなんて、自分でもびっくりしています。

ボート部において、一番の喜びは、やはり、試合に勝つことなので、そのためにも、これからも縁の下の力持ちとなって、みんなが勝つことが出来るように、マネージャー全員、力を合わせてサポートしていきたいと思います。

ボート部の運営、全員運営の運営であると感じられていて、このまま運んで今後は運営の運営や運営の運営をしていきたいと思います。このまま運営をしていきたいと思います。

三回生 藤本 亜紀

O B 担当という O B 、 O G の先輩方との連絡をとる役割を任せられていますが、私達現役生とのつながりを大切に守り、その関係がより密なるものにならうと思っています。又お電話をしあげたり、お問い合わせしたり、と何かとお世話になることが多いですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

最上級生としての責任や自覚をひしひしと感じておりますが、部員の必要とすることをすればやくサポートし、強く、楽しく、頼もしいクラブであることを目標に、マネージャーとしてできる限りの全力尽くしたいと思います。

選手のみなさん、今年もがんばって下さい。そして先輩のみなさま、今年も応援よろしくお願ひいたします。

三回生 水谷 真理

ボートの運営、運営の運営、運営の運営など、運営の運営の運営の運営

三回生 二瓶 伸子

ボート部に所属してもう二年半になる。その間いろいろな事を考えてきた。クラブをやめたいと思ったことももちろんあったし、反対に普段以上にやる気になったこともあった。そして、女子マネージャーという立場の難しさも常々考えてきた。最上回生になった今、任された仕事は多く、自分なりに一生懸命仕事をこなしてきているのだが、いまひとつ満足感が得られない。それはやはり、マネージャーの仕事の成果というものが形になって表れにくいためであろうし、また、自分がクラブのこと、というよりボート競技そのものをあまりにも知らなすぎるためでもあると思う。

今後は、 motion の内容や、プレイヤーの考えている事などをもっと理解していきたいと思うし、欲をいえば、プレイヤーも、もっとマネージャーの仕事について理解を示してほしい。お互いの間に

理解、そして強い信頼関係が生まれた時、同志社大学ボート部は本当に強くなっていくのではないだろうか。

三回生 大西直子

どうしてボート部のマネージャーになったのかと聞かれことがある。そんなとき私はうまく答えることができない。入部当時の私は申し訳ない位ボートに関する知識がなく、ボート競技自体、勧誘を受けて初めて知ったというような状態であったからである。

それから早2年半が過ぎ、ついに最上回となってしまった。この間に、艇に関する事から、審判員としての視点から見るレース、その他クラブのマネジメントということを通して様々なことを教わり、学んだことも多い。また、ほんの数回だが実際に自分で漕ぎ、ボートの楽しさ、魅力を感じた。

練習にはとても耐えられそうもないのですが、漕手もいいなあと内心、少しうらやましく思っている。

まだまだ未熟者ではあるが、自分のもてる力を活かし、部の勝利へと貢献していきたい。そして、その中で自分自身を成長させていければと思う。

三回生 生水 真理

ボートの事なんてほとんど知らずに入り、みんなに「どうして女子マネになったの？」と言われつつ、とうとう今日までやってきました。唐橋を渡りながら、やめようと思った時もありましたが、今ここで後悔する事はありません。この2シーズンの試合を見て、その度に自分の事のように喜んだり悔しんだりしてきた事で、部員の生活を見ている一人として、レースの時も同じように緊張し、みんなを身近に感じられるようになりました。

今シーズンの好成績は、私にとってよい刺激になり、今以上に自分の仕事に責任を持たなくてはと思わせるものでした。4年間を、全てに満足し誇りを持てる時間にするために、身を粉にしてがんばりたいと思います。

最後に、「太った」「やせろ」といじめられながらも、そういうみんなを仲間にもつ私はとても幸せものだと思います。2回生18名みんなで、最後まで助け合いながら進んでいけたら、本当に最高の4年間になるでしょう。

三回生 水谷 真理

マネージャーとして思う事

二回生 杉 原 典 子

気が付くと、クラブではもう3回生となりました。もうやめた方がいいのかも思ったり、絶対にやめたくない thought 或いは なりました。その繰り返しでここまで来たように思います。

マネージャーという仕事は、本当に地味です。もっとこの時間を自分自身の為に使いたいと思った時もありました。正直言って今でもそんな気分になる時はあります。けれども試合が始まるといつも私の頭の中にそんな気持ちはひとかけらもなくなり、“本当に続けていて良かった”と思うのです。勝っても負けても同じ位にそう思います。勝敗の結果よりも自分にこんな大きな感動を与えてくれた事に対して思うのです。私はよくポーカーフェイスだと言われる方であまり人から見るとわからないと思いますが、試合中は同大の艇が走っているのを見ると体中に鳥肌が立ち、ゴール直前ではもう“神様お願い、どうにかして”（幼稚園からのキリスト教で大切な時にはすぐイエス様に頼ってしまう）という位の気分になります。そしてその鳥肌度と神様お願い度は同大ボート部にいる時間と比例してどんどん上昇しているのがわかるのです。

部員にも様々な個性を持った人がいるけれども、私は全員を尊敬しています。自分がもし男性でもあればだけの合宿生活を続ける精神力があるかどうか、自信が無いです。

最近ではかなり、クラブの仕事はたとえ私が艇に乗って試合に出なくても、自分の為だと素直に思える様になってきました。実際、私は部員（特に同回生）の色々な姿を客観的に見てきてとてもいい影響を受けているし、自分自身つらい事があっても気付かないうちにそれに励まされていました。

尊敬する先輩、気付かないうちに私に良い影響を与えてくれる同回生、下から支えてくれる心強い後輩、これらの人達に囲まれて過ごす私は本当に幸せだと思います。私は話す事があまり上手でなくて、同回生の部員にも私のこういう気持ちはあまり伝わっていないかもしれません。けれども自分のできる範囲内でできるだけの事は頑張ろうと思います。試合で少しでも良い結果を得る事は本人だけでなく、私達にも大きな感動を与えてくれます。部員の皆さん、これからも自分の為、そしてマネージャーの為にも頑張って下さい。私も、クラブの仕事も私自身の事も両方共、自分の為に頑張ろうと思います。

二回生 高橋 春彩

ポート部に入部してもう1年半になろうとしています。最近になってやっと、自分が合宿所にいることに違和感を感じなくなりました。今まででは合宿所にいること自体が、何か不自然で物足りない気持ちがしていました。私達の仕事は即結果に結びつかない分、その大切さに気付くのに時間がかかりました。自分が努力すればするだけ、必要とされ認められそれが結果として出てくる部員がとてもうらやましかったです。でも試合を重ねるにつれて、自分自身が気負いしすぎていることに気が付きまし

た。朝日、関選、インカレでのレースそして勝った時の部員を見ていると、自分の事よりもただ単純にうれしく思いました。私はボート部が好きです。だからマネージャーをしています。それだけでいいと思いました。引退まであと2年。かけがえのない思い出を沢山作ろうと思います。

二回生 桧田由美子

ボート部に入りたての頃は、なにもかもが新鮮で楽しく合宿所に行くのが樂しみでした。1年半が過ぎた今、新鮮さや新しいことを見つけるようなワクワクした気分は失ったけど、合宿所に来るとホッします。ボートというスポーツがどんなのかほとんどわからないまま1回生が過ぎ、2回生の始めに審判免許を取得してからボートというスポーツをより深く知ることができ、またちがった見方ができるようになりました。今までただ上回生についていくだけだったクラブ生活をこれからは、何をしたらいいか、自分で考えて行動していかなければいけないと思ってます。漕手が悩みや不安・不満をぶちまけてくれるようなマネージャーになるのが私の理想です。ボート部に入ってからますます行動が雑・大ざっぱになったと言われてますけど、これを生かせる場はボート部の厨房しかない！と思って、まずはおいしい食事を作れるようにしたいです。



女子マネ全員集合

《新入部員紹介》

ボート部に入ってひと夏がすぎ、シーズンオフに入って合宿所の生活にも慣れてきたと思います。高い向上心を持つつあんまり急がないで一定のペースでやっていきたいと思います。

法学部 一回生 梅野孝雄（同志社香里高校出身）

集中力を出し、だれことなく、やる気を持ってモーションにのぞみ、自らの能力を高めるべく練習に励む。

文学部 一回生 中園智英（同志社香里高校出身）
歴史のあるボート部の一員として籍を置き、その歴史に名を残すことを目標とし、“一意専心”的思想で精進していきたいです。

文学部 一回生 奥哲史（池田高校出身）

与えられた課題をこなしていくだけでなく積極的な姿勢で臨んでいこうと思います。どちら自分のことを主張するよりも、他の人の意見を尊重する事は本人だけではなく、チームとしての力も大きいです。

文学部 一回生 岡将行（阿武野高校出身）

これから与えられる一つ一つの課題を無事にクリアできるように頑張りたい。

工学部 一回生 斎木英人（瀬戸西高校出身）
瀬戸川の春夏秋冬それぞれの季節によりなす自然を味わいながら練習に励みたい。
自分が電気工学の仕事は結構楽に感じていて、その大切さに気付くのに時間がかかりました。自分が電力士になれるだけ、必要とされ認められそれが結果として出てくる選手がとてもうれしかったです。でも武道を通じるために、自分自身が成長していることに気が付きました。

商学部 一回生 伊藤浩史（岡谷南高校出身）

同志社大学ボート部入部してはや1シーズンが過ぎた。大学ボートというのが理解でき始めたと思う。入部した以上、一勝でも多く、勝利に貢献できるよう頑張りたいと思う。

法学部 一回生 関根佐和子（同志社高校出身）

ボートの知識も料理の腕もないまま入部して5ヶ月たちますが合宿所に行く度に勉強することが必ず一つはあり未熟さを実感します。3人の中で一番背が高くて動きの鈍い者が私です。どうぞよろしくお願い致します。

法学部 一回生 長森本周子（同志社高校出身）

ボート部に入って、5ヶ月ほどたちましたが、自分では、まだまだ仕事に慣れていないなあ、という感じです。でも、これからは、少しでも早く仕事を覚えて、みなさんの役に立てるよう頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

同志社女子大学 一回生 尾島綾子（米子東高校出身）

同志社大学ボート部の一員となり早くも5ヶ月たちました。マネージャーという仕事は思った以上に大変で、毎日てんてこまいです。早く上回生のように余裕を持って仕事をこなせるようになりたいです。よろしくお願いします。

現役部員活動報告

《1993年度 活動報告》

本年度も、多くの活動を重ねて、充実した一年となりました。

'92. 9. 16 幹部交代

10. 25 学内レガッタ 開会式

12. 25 競艇納会

'93. 1. 2 初漕ぎ

6 合宿入り

10 HEAD OF THE SETA



初漕ぎ

(最初の練習会) 先に 国道1号線よりスタートし、南郷を折り返す往復9kmのレース

30 WILD ROVER Shimeta号到着

31 栄養学講習会

大阪体育大学の木村みさか先生の栄養学講義を聞く。

2. 7 第5回全国エルゴメーター競漕大会(近畿大会) 伏見工高にて

11 WILD ROVER Shimeta号進水式

同志社艇友会総会

(追い出しコンペ) 全国一学年漕艇出走会 品川 智一他・海印高校出身

17~21 強化合宿期間(その1)

通常の練習とは内容を少し変え、体力、漕力強化を狙った。また、大阪大の食事もメニューが豊富だった。

27 第4回部内 2,500m エルゴ測定

3. 10~14 強化合宿期間(その2)

13 体育会祝勝会及び総会

4. 2~7 オリエンテーション期間

田辺校地にて新入部員の勧誘活動を行った。

4 審判免許試験(於 大阪スポーツ会館)

2回生女子マネージャー 植田、高橋の2人が受験。

17 試乗会、バーベキュー大会(於 合宿所) 田辺校地にて開催された。

1回生 17人が参加。

5. 1~4 朝日レガッタ(於 琵琶湖漁艇場)

5. 1 第1回 同志社大学ボート部父兄会開催(於 ロイヤルオークホテル)

新歓コンペ(第一回出走)

今年の新入部員は計10人(1回生10人、2回生1人)

6. 11~20 Jr. クルー強化合宿期間

17~20 全日本選手権競漕大会(於 戸田オリンピックコース)

出走 順位 1対校クルーのみ出走

6. 25 父兄会 開会式 田中 亮介 田中 亮介 田中 亮介

7. 4 対 京都大・立命館大レース

2,000mのレース。両レースとも圧勝。

7. 31 関西選手権・瀬田川杯

8. 1 第2回父兄会

現役部員・O B・父兄の総勢約70名があみ定で懇談の場をもった。

8. 15 埼玉県戸田へ出発

午後、市内の宿泊先・早瀬会館へ到着。

19~22 全日本大学選手権・オックスフォード盾レガッタ(於 戸田オリンピックコース)

大会終了後、戸田にて解散。

1993年シーズン終了。

優勝 田中 亮介 銀賞 中山 亮介

3位 井澤 伸也 2' 57" 36

4位 生駒雅友 3' 20" 10

5位 田中 亮介 1' 53" 06

6位 佐藤 伸也 1' 53" 10

7位 田中 亮介 1' 53" 15

8位 田中 亮介 1' 53" 20

9位 田中 亮介 1' 53" 25

10位 田中 亮介 1' 53" 30

11位 田中 亮介 1' 53" 35

12位 田中 亮介 1' 53" 40

13位 田中 亮介 1' 53" 45

14位 田中 亮介 1' 53" 50

15位 田中 亮介 1' 53" 55

16位 田中 亮介 1' 53" 60

17位 田中 亮介 1' 53" 65

18位 田中 亮介 1' 53" 70

19位 田中 亮介 1' 53" 75

20位 田中 亮介 1' 53" 80

21位 田中 亮介 1' 53" 85

22位 田中 亮介 1' 53" 90

23位 田中 亮介 1' 53" 95

24位 田中 亮介 1' 53" 100

25位 田中 亮介 1' 53" 105

26位 田中 亮介 1' 53" 110

27位 田中 亮介 1' 53" 115

28位 田中 亮介 1' 53" 120

29位 田中 亮介 1' 53" 125

30位 田中 亮介 1' 53" 130

31位 田中 亮介 1' 53" 135

32位 田中 亮介 1' 53" 140

33位 田中 亮介 1' 53" 145

34位 田中 亮介 1' 53" 150

35位 田中 亮介 1' 53" 155

36位 田中 亮介 1' 53" 160

37位 田中 亮介 1' 53" 165

38位 田中 亮介 1' 53" 170

39位 田中 亮介 1' 53" 175

40位 田中 亮介 1' 53" 180

41位 田中 亮介 1' 53" 185

42位 田中 亮介 1' 53" 190

43位 田中 亮介 1' 53" 195

44位 田中 亮介 1' 53" 198

45位 田中 亮介 1' 53" 200

46位 田中 亮介 1' 53" 205

47位 田中 亮介 1' 53" 210

48位 田中 亮介 1' 53" 215

49位 田中 亮介 1' 53" 218

50位 田中 亮介 1' 53" 220

51位 田中 亮介 1' 53" 225

52位 田中 亮介 1' 53" 230

53位 田中 亮介 1' 53" 235

54位 田中 亮介 1' 53" 238

55位 田中 亮介 1' 53" 240

56位 田中 亮介 1' 53" 245

57位 田中 亮介 1' 53" 250

58位 田中 亮介 1' 53" 255

59位 田中 亮介 1' 53" 260

60位 田中 亮介 1' 53" 265

61位 田中 亮介 1' 53" 270

62位 田中 亮介 1' 53" 275

63位 田中 亮介 1' 53" 280

64位 田中 亮介 1' 53" 285

65位 田中 亮介 1' 53" 290

66位 田中 亮介 1' 53" 295

67位 田中 亮介 1' 53" 300

68位 田中 亮介 1' 53" 305

69位 田中 亮介 1' 53" 310

70位 田中 亮介 1' 53" 315

71位 田中 亮介 1' 53" 320

72位 田中 亮介 1' 53" 325

73位 田中 亮介 1' 53" 330

74位 田中 亮介 1' 53" 335

75位 田中 亮介 1' 53" 340

76位 田中 亮介 1' 53" 345

77位 田中 亮介 1' 53" 350

78位 田中 亮介 1' 53" 355

79位 田中 亮介 1' 53" 360

80位 田中 亮介 1' 53" 365

81位 田中 亮介 1' 53" 370

82位 田中 亮介 1' 53" 375

83位 田中 亮介 1' 53" 380

84位 田中 亮介 1' 53" 385

85位 田中 亮介 1' 53" 390

86位 田中 亮介 1' 53" 395

87位 田中 亮介 1' 53" 400

88位 田中 亮介 1' 53" 405

89位 田中 亮介 1' 53" 410

90位 田中 亮介 1' 53" 415

91位 田中 亮介 1' 53" 420

92位 田中 亮介 1' 53" 425

93位 田中 亮介 1' 53" 430

94位 田中 亮介 1' 53" 435

95位 田中 亮介 1' 53" 440

96位 田中 亮介 1' 53" 445

97位 田中 亮介 1' 53" 450

98位 田中 亮介 1' 53" 455

99位 田中 亮介 1' 53" 460

100位 田中 亮介 1' 53" 465

101位 田中 亮介 1' 53" 468

102位 田中 亮介 1' 53" 470

103位 田中 亮介 1' 53" 475

104位 田中 亮介 1' 53" 480

105位 田中 亮介 1' 53" 485

106位 田中 亮介 1' 53" 490

107位 田中 亮介 1' 53" 495

108位 田中 亮介 1' 53" 500

109位 田中 亮介 1' 53" 505

110位 田中 亮介 1' 53" 510

111位 田中 亮介 1' 53" 515

112位 田中 亮介 1' 53" 520

113位 田中 亮介 1' 53" 525

114位 田中 亮介 1' 53" 530

115位 田中 亮介 1' 53" 535

116位 田中 亮介 1' 53" 538

117位 田中 亮介 1' 53" 540

118位 田中 亮介 1' 53" 542

119位 田中 亮介 1' 53" 545

120位 田中 亮介 1' 53" 560

121位 田中 亮介 1' 53" 570

《出漕クルー一覧》

(人子水間) 現役艇員活動報告(第6回)

《朝日レガッタ》

(対校エイト)	(Jr.エイト)	(フォア)	(ダブルスカル)	(シングルスカル)
S 山中 弘毅	S 武田 知也	S 森田 徳教	S 四家雄一郎	川勝 欣生
7 堀内 昭宏	7 小林 賢史	3 山田 寛幸	B 佐伯 明	木原 聰
6 藤井 啓宏	6 岡本 和彦	2 伊藤 浩志		
5 吉野 光治	5 中西 孝夫	B 山川 優		
4 小吹 悟	4 木内 良典	cox. 中澤 郁男		
3 渡辺 将常	3 金咲 越郎			
2 松城 敬	2 喜多 栄太			
B 白田 圭助	B 伊藤 崇			
cox. 藤牧 宏彰	cox. 和田 将央			



《全日本選手権競漕大会》

S 山中 弘毅	Bow. 白田 圭助
7 堀内 昭宏	Cox. 藤牧 宏彰
6 藤井 啓宏	
5 吉野 光治	
4 小吹 悟	
3 渡辺 将常	
2 松城 敬	



全日本選手権に出漕した対抗クルー

《関西選手権・瀬田川杯》

(対校エイト)	(Jr.エイト)	(フォア)	(シングルスカル)
S 山中 弘毅	S 岡本 和彦	S 森田 徳政	山川 優
7 堀内 昭宏	7 小林 賢史	3 山田 寛幸	木原 聰
6 伊藤 浩志	6 伊藤 崇	2 佐伯 明	
5 吉野 光治	5 藤井 啓宏	B 四家雄一郎	(ダブルスカル)
4 小吹 悟	4 喜多 栄太	cox. 漆迫 博之	
3 川勝 欣生	3 渡辺 将常		岡 将行
2 松城 敬	2 木内 良典		
B 白田 圭助	B 金咲 越郎		
cox. 藤牧 宏彰	cox. 中澤 郁男		

《インカレ、オックスフォード盾レガッタ》

(対校エイト)	(Jr.エイト)	(フォア)	(シングルスカル)
S 山中 弘毅	S 岡本 和彦	S 森田 徳政	山川 優
7 堀内 昭宏	7 小林 賢史	3 山田 寛幸	
6 伊藤 浩志	6 伊藤 崇	2 佐伯 明	
5 吉野 光治	5 藤井 啓宏	B 四家雄一郎	
4 小吹 悟	4 喜多 栄太	cox. 漆迫 博之	
3 川勝 欣生	3 渡辺 将常		
2 松城 敬	2 木内 良典		
B 白田 圭助	B 金咲 越郎		
cox. 藤牧 宏彰	cox. 中澤 郁男		

《'93年度 年間成績一覧》

第46回朝日レガッタ

1993年5月1・2・3・4日 於 琵琶湖漕艇場

《男子エイト》

(予選)	春闘九勇会(Jr.エイト)	① 2' 57" 38	生駒艇友会	③ 3' 08" 09
	千里艇友会	6 3' 20" 10	飛梅会	6 3' 13" 03
	瀬田RCボンバーズ	② 2' 57" 50	愛知大	4 3' 08" 19
	関西学院大	③ 3' 01" 40	大阪市立大	② 3' 05" 99
	京都大学Jr.	5 3' 09" 30	同志社大	① 2' 53" 91
	信貴艇友会	4 3' 07" 06	鹿児島碧漕会	5 3' 10" 58

《準々決勝》

関西大	3 3' 05" 03	紫紺艇友会	4 3' 28" 42
立命館大	① 3' 02" 33	九州大	3 3' 13" 29
春闘九勇会	② 3' 04" 09	同志社大	① 3' 04" 18
瀬田RCボンバーズ	失格	広島大	② 3' 09" 95
京都大古豪会	4 3' 05" 39	近畿大	棄権
立命艇友会	5 3' 12" 16		

《準決勝》

神戸大	4 2' 58" 40	広島大	5 3' 00" 33
立命館大	③ 2' 58" 11	滋賀大経済学部	4 2' 59" 26
三洋電機滋賀	① 2' 55" 77	N T T 東京・関西混	③ 2' 57" 12
中部電力	② 2' 56" 85	京都大	② 2' 55" 12
春闘九勇会	5 2' 58" 56	同志社大	① 2' 53" 54

(春闘九勇会レース展開)

スタートで中電・三洋についていけなかつた春闘九勇会は、前半からハイピッチでとばしていたにもかかわらず、彼らを視野から外してしまい、400m辺りから、神戸大・立命館大の3艇のレースにしてしまった。500mでは3位で通過したが、突然のうねりとともに弱さをさらけ出してしまい、立命館大に出られてしまった。数度の足蹴りが入ったがその位置は変わらず、ラストスパート勝負となった。限界まで蹴り上げ、立命館に並びそのままゴールに飛び込んだが、勝負強さが現れたのか、わずかの差で負けてしまった。



朝日レガッタでの Jr. クルー “春闘九勇会”

(決 勝)	中部電力	2' 58" 35
	立命館大	3' 08" 04
	NTT 東京・関西混	2' 56" 11
	京都大	3' 06" 67
	同志社大	2' 58" 73
	三洋電機滋賀	3' 01" 86

(優 勝) NTT 東京・関西混

〈対校・レース展開〉

対抗クルーは順調に勝ち進み決勝に挑んだ。スタートではかなり波が高かったが、持ち前の思いきりの良さで一気に飛び出した。しかしコンスタントに入り NTT が艇速を伸ばし、500m では半艇身程のリードを奪われた。これに必死に追いすがろうとするものの、焦りからなかなか差が縮まらない。スパートでの猛追もわずかに及ばず中電にもさされ、3位でゴール。精神面の弱さとラストスパートに課題が残るレースとなった。

Jr. エイトト4番 四回生 木内 良典

試合が近づくにつれて高まる緊張感がクルーの集中力を高め、クルーのまとまりはのほり調子でレースを迎えた。

予選では昨年の優勝クルーのボンバーズを敗って、タイムも2分台を出し、出だしは非常に快調であった。

次の準々決でもボンバーズとあたっていた。500mまでの前半はボンバーズの後を追い2番手につけていたが、500mでの10本の足蹴りがうまくきまらず、逆に全体のリズムが崩れてしまい、2 レーンの立命館に出られ、そのまま立て直しのきかないままズるずるとゴールしてしまった。

今回のレースを通じてこのクルーの強さや弱さを今まで以上に知ることができ、これから 8 月のレー

スに向けての motion に、大いに参考となった。まことに個人個人の体力、技術、精神力のレベルももっと上げていき、対校のシートをねらえる位置についてみたい。

Jr. エイト 2 番 四回生 喜多 栄太

Jr クルーは cox を含め 2 回生が 4 人をしめる若いクルーである。大会前から徐々に調子をあげていたものの、今シーズン初めてのレースであり、特に 2 回生にとっては入部以来初めての大会である。クルーの完成度もまだ 60% といったところ、一人一人の体力・技術のレベルも対校クルーと比較すると数段劣る。不安はあった。だが春合宿にハードな漕ぎこみを積み重ねてきた私たちには、自信とも誇りとも言えるようなものがあったと思う。そして結果 Jr. は、目標である決勝進出はなかったものの、出漕 3 レース中 2 レースで 2 台分のタイムを出すことができた。

反省点としては、ここぞという時の勝負に対する執着心、粘りが足りなかったことであり、これらの練習の課題ともなるだろう。そしてなによりも私たちが今大会で得たことは、去年の秋から練習してきたことが間違いではなかったことを確信し、夏に向けての手ごたえを感じることができたことである。



朝日レガッタでの対校クルー

対校エイト6番 四回生 藤井 啓宏

同志社大学対校クルーの、そして新艇の今期初のレースであったこの朝日レガッタ。第3位、銅メダル、2'53"台—これらは自分にとって今まで最高の成績である。しかし、素直に喜べない。一見すると順調に見えたであろうが、実際は力で押し切ったに過ぎず、この先2000mレースでは到底通用するものではない。

自分にとってこのレースは実に一年ぶりのもので、予選では会場の雰囲気、自分の中の不安感に飲み込まれてしまい、完璧にリズムを崩してしまったことが悔まれる。決勝も含めて、残りのレースも多少マシになった程度で、自分としても、クルーとしてもベストな艇速を出せたとは言えない。

決勝のレースでは、同志社対校クルーは5レーンで、1、2レーンよりもコンディションの悪さが目立った。しかし、それ以上にクルーの総合力の差がはっきりと現れたレースであった。スタート・スパートは出たが、その後のコンスタントに入るなり、NTTクルーは波・風に影響されない安定したストロークですうと抜け出しトップに立った。対校クルーは途中何度も足蹴りを入れるが、焦りから8人が今一つかみ合わず、艇を立て直し艇速を伸ばすまでに到らなかった。結局NTTを捕らえることはできず、最後の最後に中部電力にもかわされて3位でゴールとなった。勝つことへの意気込みではNTTにも、中部電力にも決して劣ってはいなかったと思うが、それを現実のものとするだけの技術を持ちあわせているか、いないかの差が現れたレースであった。漕歴という壁は厚い。

夏のインカレに向けての課題は多いが、この程度では終わりたくない。同志社対校クルーは非常に可能性を秘めたクルーだと思うから、日々の練習で確実に力を伸ばし、日本一を目指したい。

対校エイト4番 三回生 小吹 悟

朝日レガッタは今シーズンの開幕レースだったので、是非とも結果を残して夏のインカレへ向けてよいスタートを切りたいと思っていた。だから、社会人2クルーには敗れたものの学生1位という成績には満足がいくものであると思う。

新艇で挑んだ今回のレースはその威力が現れ、決勝まではぶっちぎりの完勝で上がった。スタートは荒削りではあるものの爆発力があり、他艇の頭を押さえることができ、レース展開はかなり楽なものであった。しかし、コンスタントで余裕のある安定したリズムがつくれず、急がしいフォワードになってしまった。スタートで上げた回転をコンスタントでも引きずり更に艇速を伸ばすことができなかつた。

思い切りよく漕ぐという目標はやり遂げた。後は、どれだけ落ち付いて基本を押された正確なローリングができるかが艇速を伸ばすカギとなると思う。どのクルーもボートの体を走らせる手を握っていたが、そのための10本の足蹴りがうまく当たらず、逆に全体のリズムが崩れてしまい、落とされた位置に出られ、そのまままで直しきれないまま心配になるとゴーカーしてしまった。

今回のレースを通してこのクルーの強さや弱さを今まで以上に知ることができ、これから8月のレ

〈一般男子舵手つきフォア〉

(予選) 京都大芝蘭会	5	3' 49"	72
同志社大	①	3' 19"	20
飛翔会	③	3' 43"	42
大阪府警		棄権	
秋桜	②	3' 41"	33
松江高専	4	3' 43"	63

〈レース展開〉

予選では自分達の力がどの程度かわからないのをまずスタートで出てしまい、あとは全力で漕ぐ展開で3分19秒の自己最高タイムを出した。

準々決勝では、予選でいまいちブレードが一致せず、リズムよく漕げていなかったことを反省して臨み、3位のタイムで準決勝へすすんだ。

準決勝はコンディションもよくこれまでの最高の漕ぎができたと思う。結果は滋賀医大に最後までついてこられたものの、一艇身の差をつけてゴール。

決勝は最悪のコンディションで大きく合わせて漕ぐことに注意して臨んだ。5位の龍谷について行ったが、差すことができず、約1秒の差で負けてしまった。タイムは3分25秒だった。

(準々決勝) 大阪市立大

高知大	4	3' 39"	36
同志社大	①	3' 27"	62
香川大	3	3' 39"	02
N K K福山	②	3' 38"	54
龍谷大	5	3' 44"	61

(準決勝) 香川選抜

関西電力	①	3' 17"	72
同志社大	②	3' 20"	52
滋賀医科大「湖神」	3	3' 22"	92
新潟大	4	3' 23"	46

(決勝) 東レ滋賀

中部電力	1	3' 14"	13
関西電力	2	3' 19"	16
中部電力岐阜	4	3' 22"	45
龍谷大藤紫会	5	3' 24"	44
同志社大	6	3' 25"	65

(優勝) 中部電力



フォアクルーの練習風景

舵手つきフォア3番 二回生 山田 寛幸

僕たちフォア・クルーが固定されたのは3月も終わりに近づいた頃だった。それから約1カ月間モーションを続けたが、各個人のオールがばらばらでレースにも不安を残して臨むことになった。予選一緊張と不安に押しつぶされそうになりながらスタートを待つ。スタートしてみると、やはり漕ぎがバラバラで非常につらかった。それでも断トツで1位。タイムでも3位という好成績だったので正直言って驚いた。こんな調子で準々決勝も勝ち、準決勝も通過し、ついに決勝にまで出てしまった。結局決勝では6位という結果だったが、決勝まで残ったというだけで良い経験になった。これからもこの感動を忘れないように、さらにこれ以上の感動が得られるように頑張っていこうと思った。

〈一般男子ダブルスカル〉

(予選)	N K K 福山	① 3' 36" 49
	近畿大	4 3' 42" 26
	月ヶ瀬漕艇部	② 3' 38" 31
	同志社大	5 3' 47" 50
	滋賀銀行	6 4' 02" 70
	名城大	③ 3' 41" 46
(決勝)	品川白煉瓦	3 3' 36" 46
	大阪ガス	6 4' 13" 59
	関西電力	2 3' 35" 09
	中国電力・松江RC	1 3' 31" 72
	本田爽風会	5 3' 40" 55
	龍谷大	4 3' 38" 07
(優勝)	中国電力・松江RC	

〈レース展開〉

スタート一本目から、整調のオールがはね上がってしまい大きく出遅れた。そこで焦りが出てしまい、スタートからコンスタントへもうまくつながらず、他の艇との差もあまり縮まらないまま500mを通過した。残り300m付近からスパートをかけたが、二人とも体力の消耗が激しく、なかなかピッチが上がらなかった。最後で差を詰めたが、順位を上げるには至らず、5着でゴールした。

ダブルスカル BOW 三回生 佐伯 明

朝日レガッタへダブルスカルで出場が決まり、調整する間もなく、とにかくレースピッチを出せるようにすることで精一杯という状態であった。今回二人だけとはいって、クルーリーダーという事で、練習メニューを考えなければならない立場であった。自分でメニューを考える事によって今までとはモーションに対する考え方も変わったと思う。なぜ練習するのか、それはレースに勝つ為である。そして勝つ為に考え抜いた練習メニューへの取り組みに、今まで以上に真剣になれたと思う。

勝つ為にやらねばならない最低限の時間しか自分達にはないのだという事が、自分でメニューを作ってみて一番感じた事だった。結果は負けであったが、ダブルスカルは最後までレースに向けて真剣に取り組み続ける事ができた。そして確実に成長していると感じながらモーションをする事ができた。今までで一番最高のクルーであったと思う。

〈一般男子シングルスカル〉

(予選)	稲田(龍谷大A)	③ 4' 14" 31
	井上(金沢大)	① 4' 02" 11
	木原(同志社大)	6 4' 38" 76
	池田(滋賀医科大)	4 4' 18" 69
	沖田(江津RC)	② 4' 02" 68
	富田(東レ滋賀)	5 4' 19" 10

スタートでの出遅れというのは、予めある程度の予測はしていた為、コンスタントに入ってからの一本一本を正確に漕ぐことで、自分のペースをつかむつもりだった。しかし実際のレースでは、スタートよりむしろその後のコンスタントに入ってきたの方が、他の艇に差をつけられる原因となつたように思う。水中から跳って安定させようとしたが、強くひこうとして上体を硬くさせる一方で、結局ピッチがあげられず、そのままゴールしたという感じだった。

二回生 木原聰

シングルスカルで試合に出る事が決まった直後は、何をすれば良いのか全くわからなかった。しかしレースまで実際一ヶ月しかないということで、まずスカルに慣れることから始めることにした。はじめは慣れない二本のオールで漕ぐこと、フォアやエイトに比べるとバランスをとり難いこと等の問題で、なかなかCatch、DRIVE、Finish、Forwardという一連の動作ができず、進歩は見られなかつた。しかし、体重返し、足での水中の運び等基本的なことを重視し、また数回沈することで序々に艇の進み具合が感じられるようになってきた。そこでそういった漕ぎの基本的な部分の確認といった面に重点を置きすぎてしまい、高ピッチでの漕ぎの練習があまり出来なかつた。

レースでは自己のベストタイムが出せず、良い結果が残せなかつたが、スカルで試合に出たことが単に経験に終わるのではなく、今後の漕ぎに良い部分を残していきたい。

（予選） 高谷(瀬田漕艇ク)

② 3' 49" 12
後藤(広島大)
山本(中部電力A)
川勝(同志社大)
布施(香川大)
北山(鳥取大医学部)

〈レース展開〉

スタートで先行することはできなかつたものの、そんなに悪くはなかつた。500m付近までは山本、高谷とほとんど並んでいたが、そこからしだいに差を広げられ、結局3位。しかし何とか予選は通過することができた。

準々決勝では、スタートで出ることができず背中を向けるレース展開となつた。コンスタントで1艇でも追い抜こうと全力を尽くしたが、焦る気持ちからか思うように艇が走らずそのまま5位でゴールした。

（準々決勝） 木村(立命館大)

4 4' 01" 70
間(松山大)
田中(三洋電機滋賀)
桐山(東レ滋賀)
川勝(同志社大)
狩谷(瀬田漕艇ク)

第71回全日本選手権競漕大会

二回生 川 勝 欣 生

今シーズン最初のレースであった朝日レガッタが終わった。9月から頑張ってやってきたが、けがの為エイトで出漕することはできなかった。

スカルでのレースは初めてだったので、いろいろ戸惑うこともあったが、とにかく大会まで1ヶ月あまりしかなかったのでなるべく長く乗艇した。艇に慣れるのは早かったが、ローイングを完成させることはできなかった。またしばらく練習を休んでいた為、体力の低下が目立ち、T・Tをやってもラスト500mで激しくタイム落ちするというパターンになっていた。

レースでは気力で1000mを漕いだが、結果としては満足できるものではなかった。

欲をいえばもう少し練習期間がほしかったが、この短期間で学んだことは多い。それらを十分に生かしていけるよう、さらに頑張っていきたい。



朝日レガッタ表彰式

第71回全日本選手権競漕大会

1993年 6月17・18・19・20日 於 戸田漕艇場

(大島正) 須崎

(大庭正) 本山

(大庭志) 鶴川

〈男子エイト〉

(予選)	同志社大	①	6' 46" 81
広島大		2	6' 52" 53
東京経済大		3	6' 53" 54

やや逆風の中、全日本選手権の予選がスタートした。同志社クルーは持ち前のスタートを生かし、500mで一艇身のリードを奪った。しかしコンスタントで十分な艇速が出せず、一艇身差のままゴール。翌々日の準決勝に駒を進めた。気合を入れて望んだ準決勝だったが、スタートで失敗し、法政と東北に先行され、この二艇を追う展開となつた。同志社はコンスタントの一本一本をがんばるが差はなかなか縮まらず、そのままスパート。しかしスパートも空しく空回り。最後には早大理工にもせり負け、四位でゴール。コンスタントにおける落ち着きの欠如が敗因であったと思われる。

(準決勝)	同志社大	4	6' 32" 21
東北大		2	6' 22" 47
早稲田大理工学部		3	6' 30" 69
法政大		①	6' 20" 46

今まで一度も負ける事ができた。そして最後に成長していく

(決勝) 法政大 4 6' 16" 46

慶應義塾大 3 6' 07" 52

東レ滋賀・東レローイングクラブ 1 5' 57" 22

N T T 東京 2 5' 59" 69

（優勝）東レ滋賀・東レローイングクラブ

（2位）東大、（3位）法政大

（4位）東大、（5位）東レローイングクラブ

（6位）東大、（7位）東大、（8位）東大

（9位）東大、（10位）東大、（11位）東大

（12位）東大、（13位）東大、（14位）東大

（15位）東大、（16位）東大、（17位）東大

（18位）東大、（19位）東大、（20位）東大

（21位）東大、（22位）東大、（23位）東大

（24位）東大、（25位）東大、（26位）東大

（27位）東大、（28位）東大、（29位）東大

（30位）東大、（31位）東大、（32位）東大

（33位）東大、（34位）東大、（35位）東大

（36位）東大、（37位）東大、（38位）東大

（39位）東大、（40位）東大、（41位）東大

（42位）東大、（43位）東大、（44位）東大

（45位）東大、（46位）東大、（47位）東大

（48位）東大、（49位）東大、（50位）東大

（51位）東大、（52位）東大、（53位）東大

（54位）東大、（55位）東大、（56位）東大

（57位）東大、（58位）東大、（59位）東大

（60位）東大、（61位）東大、（62位）東大

（63位）東大、（64位）東大、（65位）東大

（66位）東大、（67位）東大、（68位）東大

（69位）東大、（70位）東大、（71位）東大

（72位）東大、（73位）東大、（74位）東大

（75位）東大、（76位）東大、（77位）東大

（78位）東大、（79位）東大、（80位）東大

（81位）東大、（82位）東大、（83位）東大

（84位）東大、（85位）東大、（86位）東大

（87位）東大、（88位）東大、（89位）東大

（90位）東大、（91位）東大、（92位）東大

（93位）東大、（94位）東大、（95位）東大

（96位）東大、（97位）東大、（98位）東大

（99位）東大、（100位）東大、（101位）東大

(決 勝) 神戸大	4	5' 00" 01	スタートはそんなに悪くなかった。300m地点で徐々に京大に離された。1000m地点一艇身離された。ここは互いに根性くらべ、そしてスパート少しづつおいつき始めたが、ここまでだった。
京都大	1	4' 27" 01	
同志社大	2	4' 28" 80	
三洋電機滋賀	3	4' 29" 27	

しかしもまた力の差が大きかった。運転ものはかくとも、艇の運転技術が違うので、それが大きな要因だった。また、運転技術を失してしまった体力が原因で、艇の動きが遅くなってしまった。

対校エイト2番 四回生 松 城 敬

関選2位という結果に対して、自分は素直に喜ぶことはできない。力の差を見せつけられての2位ならまだ納得がいくかもしれないが、実力的にも負けてないクルーに負けたというのがどうしても納得いかないからである。確かにスタートの失敗など要因はあるが、それだけで結果が決まってしまうような情けないクルーでもなかったはずである。しかし結果がこうであったということは、日々の練習における意識の甘さがあったのかもしれない。それがレースにつめの甘さとして出てしまったのかもしれない。

全日本で惨敗し自分達の力のなさを痛感させられ、それから1月半。全日本の時より成長したことは事実ではあるが、関選で優勝できなかったのも事実である。このことを肝に命じて最後のレースインカレで120%の力を発揮し、納得のいくレースができるよう、やっていこうと思う。

対校エイト3番 川 勝 欣 生

ボート部に入部して、この関選が自分にとって最初のエイトでのレースだった。対校クルーの中では自分は技術、経験ともに浅かったが、それに萎縮することなく、リラックスして思いきって漕ぐことを心がけた。決勝のレースは、スタートでいきなり京大が飛び出し、それを必死に追い上げる展開となった。ラストスパートで三洋電機滋賀を引き離し、京大にも詰め寄ったものの、そのまま2位でゴールし、非常に悔しい結果に終わった。スタートの出遅れを詰めることが出来ぬまま敗れた感じだったが、コンスタント、そして勝負の足蹴りは負けていなかったと思う。自分達の弱かった点は素直に認め、そして良かった点はさらにのばしていくという意識を大切にしたいと思う。

(フォア) 鳥取大	4	5' 41" 75	(敗 復) 甲南大	3	5' 29" 06
(予 選) 鳥取大	4	5' 06" 06	大阪府警	4	5' 30" 77
東レ滋賀	1	5' 06" 06	滋賀大(教)	1	5' 12" 57
香川大	5	6' 03" 94	同志社大	2	5' 13" 71
同志社大	3	5' 20" 46	鳥取大	5	5' 31" 60
高知大	2	5' 13" 60			

運転技術が運転技術が抜群であったと思われる。

(準決勝) 長浜農高	5	5' 53" 27	(決 勝) 濑田漕C	3	5' 23" 54
滋賀大(教)	3	5' 19" 94	瀬田漕A	1	5' 09" 75
東レ滋賀	1	5' 00" 44	高知大	4	5' 27" 65
N T T関西	2	5' 15" 53	N T T関西	2	5' 18" 31

同志社大 4 5' 20" 84

(優 勝) 東レ滋賀

スキー、運転技術が運転技術が抜群であったと思われる。

二回生 木 原 聰

本格的にボートを始めて以来、二度目の大会であり、自分にとって今季最後のレースとなった関西選手権だった為、かなり意気込んで臨んでみたが、結果は前回の朝日レガッタ同様情けないものとして出た。

今回も引き続きスカルノでの出漕が決まってからは、ただ朝日レガッタでの悔しい気持ちを晴らすことだけを考えて練習した。もうスカルを漕ぎ始めて四ヶ月以上経つことでもあるので、慣れていないとか、経験不足であるなどということも言ってられなかった。その為技術練習の時間も、レースを想定したコース練習に割いた。しかしさう実際のレースとなると、自分のリズムだと展開そのものが全くつかめず、後半に於いては、それまで競り合っていた他艇にどんどん離される始末だった。

結局今シーズン一度も予選さえ通過できない結果となつたが、二度の大会に出漕した経験は今後に繋がるものとして活かそうと思う。

シングルスカルに乗り始めて1ヵ月で選抜という短期間で仕上げなければならない自然と練習にも熱が入った。しかし、始め1週間ぐらいに雨天が続き、流れが速くて十分な練習ができなかつた。そんな感じで大会に臨んだので、ぶっつけ本番という感じだった。予選はスタートで出られて、コンスタントもピッチが上がらず自分の未熟さが顕著に表わされた。敗戦ではコンディションが悪く、一本一本強く漕いだが、スタートで出られたまま結局0.4秒差で2位に終わった。これらのレースで自分の課題が明確になり、インカレへの良いステップとなると思う。

瀬田川杯

1993年7月31日、8月1日 於琵琶湖漕艇場

（Jr.エイト）

（予選） 同志社大 ① 4' 38" 17

神戸大TIDE 5' 17" 12

近畿大A ③ 4' 45" 20

山口大「巖流」 ② 4' 42" 96

滋賀大経「飛龍」 ④ 4' 46" 45

（準決勝） 名古屋大B 4 5' 08" 98

同志社大 ① 4' 39" 48

山口大「巖流」 2 4' 44" 88

大阪大 3 4' 49" 33

（決勝） 滋賀大経 ④ 4' 49" 72

立命大 大阪大 ⑤ 4' 52" 17

京大濃青会 山口 3 4' 48" 87

同志社大 滋賀 1 4' 40" 94

京大 大阪大 2 4' 46" 85

（優勝） 同志社大

Jr.エイト COX 四回生 中澤 郁男

朝日レガッタが終り、次の試合である瀬田川杯までの3ヶ月間、私は3つの目標を作って練習に望んできた。まず第一の目標は瀬田川でどれだけ強い勝ち方をするか、ということだったが、これは決勝でのレースで示したように強い勝ち方ができ、ox盾獲りへ希望の沸く結果を得ることができた。第二の目標は200mを漕ぎきる体力と技術を身につけるということだったが、体力面についてはハードな練習をすることによって、技術面についてはCREWで考え、コーチのアドバイスを大事にし、対校の選手から技術を盗むことによってかなり向上できた。しかしながら修正すべき点はたくさんある。これらを一つでも多く克服していくことがox盾に向けての課題である。第三の目標は調子の波を作らないということであった。朝日レガッタ当時に比べると随分良くなったとは思うが、まだまだ精神的に弱い部分がある。ox盾ではどのレースでも100%の実力を出さなければ勝てない。試合で100%の力を出せるように普段から強い意志を持ち練習に取り組んでいこうと思う。

Jr.エイト整調 二回生 岡本和彦

決勝のレース前には優勝することしか考えていなかった。優勝したクルーがゴール後、大喜びをしている姿を過去に何度か見たことがあったが、私もそうした感激を味わいたい、という気持ちでいっぱいだった。

そして、なっ!! なんと優勝してしまったのだ!! この喜びと満足感を味わえるのは、唯一、全てに勝ったクルーだけなのと思った。

私は、この2回生という時期に“優勝”という感激を経験できたことを通じて、本当に同じクルーの人達や、それを支えてくれた人達への感謝の気持ちでいっぱいだ。本来、一番前でクルーを引っぱってゆく立場にあるべき整調というポジションにあった未熟な私を、逆に後ろから支えてくれたクルーには、レースを終えてから“ありがとう”と心から思えた。

ボートが増々好きになった。本当に素晴らしいスポーツだ。これからも勝つために私は日々漕ぐ。

〈舵手つきフォア〉

		予選		決勝		優勝	
		②	①	(敗)	(復)	同志社大	岡山大A
近畿大		5' 26" 74				3' 42" 23	
岡山大B	5	5' 57" 32				5' 34" 56	
香川大「駿馬」	3	5' 38" 48				立命館大	5' 20" 40
同志社大	4	5' 52" 51				岡山大B	5' 43" 31
大阪大	①	5' 26" 06					
(決勝)		5' 48" 62					
膳所高	3	5' 48" 62					
山口大「鳳陽Ⅱ」	1	5' 31" 22					
京大	2	5' 36" 44					
(ダブルスカル)							
瀬田漕C	2	5' 19" 60		(敗)	(復)	岐阜大A	5' 53" 93
月ヶ瀬R C	3	5' 43" 72				ミズノ・セタ漕混成	5' 40" 62
東レ滋賀	①	5' 10" 97				膳所高	5' 44" 18
同志社大	4	6' 25" 57				同志社大	6' 12" 85
(決勝)		5' 37" 28					
大阪ガス	3	5' 37" 28					
京都選抜	2	5' 24" 60					
東レ滋賀	1	5' 18" 45					

ダブルスカル整調 一回生 奥 哲 史

私1回生の奥と岡は今年の瀬田杯にダブルスカルで出艇させて頂いた。2人とも初心者であり合宿入り後3週間程でレースに向けてスカルで練習するのは少しハードでした。その上今年は長雨で流れの速い瀬田川での乗艇が思うようにできず、バランスがとれて漕げるようになったぐらいで瀬田杯を迎えるました。練習の中でできた一番良い漕ぎを試合に出せれば…と思っていましたが本番では肩に力が入ってまともな漕ぎができず、船も曲がってしまい、レーンを守ってゴールするというので必死という有様でした。

未熟さを痛感し、さらに一層の精進をして次は素晴らしいレースをしたいと思います。

第20回全日本大学選手権競漕大会

		予選		決勝		優勝	
		②	①	(敗)	(復)	同志社大	岡山大A
1993年8月19・20・21・22日	於 戸田漕艇場						
〈男子エイト〉							
(予選)	同志社大	3	6' 26" 11				
	滋賀大経済学部	2	6' 23" 55				
	東京経済大	①	6' 16" 60				
(敗復)	同志社大	3	6' 07" 49				
	慶應義塾大	①	6' 02" 66				
	日本大	②	6' 04" 33				
	明治大	4	6' 10" 97				
(決勝)	中央大	1	5' 59" 95				
	東北大	2	6' 00" 82				
	日本大	3	6' 02" 16				
	東京大	4	6' 05" 42				
(優勝)	中央大学	2	6' 00" 49				
〈男子二四人〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子八人〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈女子八人〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈女子四人〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈女子二四人〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈女子八人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子二四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子二四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子二四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子二四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子二四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(決勝)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大	3	6' 27" 77				
	日本大	4	6' 27" 77				
(優勝)	中央大学	2	6' 27" 77				
〈男子四人艇〉							
(予選)	中央大	2	6' 27" 77				
	東北大						

〈男子舵手つきフォア〉

(予選)	同志社大	4	7' 21" 06	スタートから追う展開となった。
	名古屋市立大	5	7' 46" 55	全員のブレードワークがいまひとつそろわないままスタート・スパートを終え、コンスタントに入
	東京経済大	①	6' 58" 52	っても艇速の伸びはあまりなかった。500m、1000
	成城大	2	7' 03" 51	mと差を縮められないまま、水中のスピードも落ち、結局、順位を上げられず敗復へまわることに
	中央大理工学部	6	8' 04" 81	なった。
	東北学院大	3	7' 13" 45	
(敗復)	静岡大	4	7' 21" 83	敗復では、予選のときに比べてスタートがよく二位で出た。しかし、コンスタントの伸びがあいかわらずなく一位との差は縮まらなかった。1000
	愛知工業大	2	7' 20" 02	m付近でスパートをかけたが、一位のクルーもそれを見てスパートをかけ、逆に差が広まってしまった。最終的に、ラストスパートで三位のクルー
	立教大	①	7' 06" 88	にも抜かれ、敗復を勝ち上ることはできなかっ
	同志社大	3	7' 21" 04	た。
(決勝)	慶應義塾大	2	6' 42" 93	
	東北大	4	6' 47" 58	
	立教大	3	6' 47" 08	
	日本体育大	1	6' 42" 78	
(優勝)	日本体育大学			

（優勝）日本体育大学

舵手つきフォア 2番 三回生 佐伯 明

戸田で漕ぐのは初めての事だった。今まで2千mのレースを経験していなかったので、どんなレースになるか想像できなかった。一回戦、スタートで出遅れると、もうレースがどうなっているかわからなくなつて、いつのまにかレースが終わっていた。次の日の敗復では、6艇でレースをして4位で終った。2千のレースは苦しかったが、他に思い出となる事はあまりない。レースの中、他の艇まで見る余裕はなかった。ただ戸田でインカレのレースに出た事だけを思い出とするのもいいだろう。今回のレースが選手として最後になった。そして来シーズンはマネージャーとなる。そして戸田でレースを見た時には、同志社が勝っている姿を見たい。

〈男子シングルスカル〉

(予選)	山川(同志社大)	3	8' 42" 17	(敗復)	山川(同志社大)	3	8' 07" 84
	米山(岡山大)	2	8' 27" 98		三崎(鹿屋体育大)	2	7' 38" 31
	箕輪(法政大)	①	7' 59" 27		今村(龍谷大)	①	7' 33" 59

鈴木(青山学院大) 4 8' 17" 93

〈レース展開〉

三回生 戸田

会計室告白

二回生 山川 優

シングルスカルのレースは関選と合わせて二度目であるが、関選より500m長い、2000mのレースであったので、かなりきつい練習メニューであった。練習での目標はとにかくピッチ30で8分間こぎきることであったので、技術的な面での向上が不足していた。戸田に着いて、まずコースの2000mという長さに圧倒された。しかも、コースは混雑していてほとんどまともな練習ができなかった。まず予選では、スタートで艇が蛇行してしまい、先に出られてしまったので漕ぎがくずれて自分の漕ぎが出来なかった。敗復では予選で2000m漕ぎきったという自信と、自分の漕ぎが出来なかった反省とを生かして試合に臨んだ。スタートではまたしても出られたが、あせらずに我慢して付いて行き、持久的な練習を多くしてきたことを考えて後半に勝負しようと思った。結果的に準々決勝には上がれなかったが、戸田での経験がこれからの練習に大きく影響すると思う。

第33回オックスフォード盾レガッタ

1993年8月19・20・21・22日 於 戸田漕艇場

〈男子エイト〉

(予選)	同志社大	2	6' 26" 19	スタート、同志社と中部電力が一気に飛び出す。
	中部電力	①	6' 27" 77	同志社は一時、半艇身まで差をつけるが、1500m
	新潟大	3	6' 45" 64	から失速し始め、ラストスパートでさされる。
	清水あめんぽマリンボーズ	5	7' 14" 55	
	成城大	4	6' 55" 17	

(敗復)

(敗復)	青山学院大	2	6' 11" 38	スタートで青山学院に一艇身、さらに水をあけ、
	同志社大	①	6' 06" 54	ゴール。
	明治大B	4	6' 52" 47	準決勝では同志社と慶應が1000m付近まで一騎
	一橋大B	3	6' 31" 04	身の差をつけゴール。

(決勝)

(決勝)	京都大B	4	6' 29" 83	中部電力が先行、キャンバスの差。中盤で少し
	一橋大A	3	6' 27" 35	ずつはなされ、さらに京都大Bが半艇身までつめてくる。しか同志社は1500m付近の足蹴りで艇速
	中部電力	1	6' 17" 13	をのばし、ラストスパートで中部電力を半艇身に
	同志社大	2	6' 19" 64	まで追いつめるがそのままゴール。

(優勝)

中部電力

三回生 伊藤 崇

瀬田杯に優勝し、波にのっていたJr クルーはオッ盾もいけるぞという感じであった。実際自分も負ける気がしなかった。予選は中部電力だけが敵で他はいけるとふんだ。試合では予想通り中電が頭一つぬき出て負けた。これはものすごく悔しかったがしかし決勝進出はいけると思っていた。準決の慶應との勝負が今回の山場であった。特に試合前けり出しの時なぜか負ける気がしなかった。それだけ強気になっていたのかもしれない。準決が最後のレースになるのはやはりいやだったし、力的にも互角かそれ以上と思っていたので精神力の勝負になるのは必至と思われた。そして最高のローイングができ慶應を振り切った1500m付近まで相手を見ずひたすら前を見て漕いだ。ラスト近くでチラと見た時、よしと心の中でつぶやきそのままゴール。決勝でも満足のいくローイングができる、力を100%出すことができ悔いはなかった。



Jr. クルー オックスフォード盾レガッタでの Winning Row

《会計報告》

平成4年度収支決算書

自1月1日至12月31日

支 出		収 入	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
維持費	2,674,281	前繰越金	37,116
医療費	17,400	学友会預託金	970,000
遠征費	1,835,024	部費	99,600
合宿費	6,519,144	入部金	16,000
行事費	400	特別収入	2,700,000
分担金	236,000	補助金	150,000
交通費	225,908	受取利息	4,539
試合費	365,002	個人負担金	9,211,000
事務費	28,902	寄付金	2,400,000
什器備品費	65,920		
出張費	147,655		
涉外費	29,485		
消耗品費	46,116		
情宣費	43,372		
資料費	101,867		
通信費	782,224		
特別支出	353,913		
用具購入費	1,793,043		
練習費	202,389		
連盟費	111,411		
次期繰越金	8,799		
合 計	15,588,255	合 計	15,588,255

《設 備 一 覧》

艇の区分(種類)	艇の名称	製造年	製造元
シェルエイト	WILD ROVER	1992	EMPACHER
	Shimeta		
ク	WILD ROVER	1989	KUWANO
	XII世		
ク	WILD ROVER	1989	KUWANO
	XI世		
ク	WILD ROVER	1985	KUWANO
	X世 OPTEX		
ク	WILD ROVER	1982	DELTA
	IX世		
舵手付フォア	バージン		
	ブラッシュ	1988	KUWANO
	くにびき 6	1981	KUWANO
	わかとり 2号	不明	DELTA
ク	千鳥	1984	KUWANO
舵手なしペア	京都 C-5	1988	KUWANO
ク	京都 C-4	1888	KUWANO
ダブルスカル	A S T Y II	1985	KUWANO
シングルスカル	VERITAS	1987	KUWANO
	LIBERABIT VOS		
ク	京都 A-21	不明	KUWANO
ク	わかとり 3号	1984	DELTA
ク	アステイ	不明	KUWANO
	OPTEX	1985	KUWANO
ナックルフォア	くにびき	不明	KUWANO

《活動内容に関する資料》

93年度2,500mエルゴベスト記録

#	NAME	AGE	H/W	RECORD	DATE
B 1	堀内 昭宏	21	184/87	8' 14" 8	02/07/93
B 2	川勝 欣生	20	181/72	8' 25" 5	05/23/93
S 3	山中 弘毅	19	182/78	8' 26" 3	12/24/92
S 4	松城 敬	21	173/80	8' 30" 6	12/24/92
S 5	喜多 栄太	21	176/75	8' 33" 3	02/27/93
S 6	藤井 啓宏	21	186/74	8' 34" 8	05/23/93
S 7	小吹 悟	21	178/68	8' 35" 7	05/23/93
B 8	吉野 光治	20	189/80	8' 38" 3	11/22/92
B 9	渡辺 将常	19	181/73	8' 40" 7	02/27/93
S 10	佐伯 明	21	170/88	8' 40" 8	05/23/93
B 11	中西 孝夫	21	177/72	8' 41" 2	02/27/93
B 12	伊藤 浩史	18	182/76	8' 41" 7	05/23/93
B 13	白田 圭助	20	165/65	8' 43" 2	05/23/93
B 14	四家雄一郎	20	172/67	8' 46" 7	05/23/93
S 15	木内 良典	21	176/71	8' 48" 2	05/23/93
S 16	伊藤 崇	21	176/70	8' 52" 1	05/23/93
B 17	小林 賢史	19	181/74	8' 52" 5	05/23/93
B 18	山田 寛幸	19	178/70	8' 52" 6	12/24/92
S 19	武田 知也	18	181/72	8' 52" 9	05/23/93
S 20	岡本 和彦	19	181/71	8' 53" 1	12/24/92
B 21	金咲 越郎	20	172/68	8' 57" 4	05/23/93
B 22	山川 優	20	170/63	8' 59" 0	02/27/93
S 23	森田 徳教	21	171/69	9' 05" 4	05/23/93
S 24	木原 聰	18	176/67	9' 18" 1	02/27/93

《強化合宿のスケジュール》

1992年2月17日(水)～2月21日(日)

17日(水)	20日(土)
13:00 集合・除脂肪体重測定	7:00 起床・朝食
13:30 全体ミーティング	9:30 モーション(乗艇)・補強
14:30 モーション(乗艇)・補強	13:30 昼食
19:30 夕食	15:00 モーション(乗艇)
22:15 就寝	A) 18:30 夕食 20:00 H. W
18日(木)	B) 乗艇後 L. W C) 乗艇後 サーキット
6:30 起床・朝食	20:00 B・C夕食
9:00 モーション(乗艇) ゴルフ場T.T(脈測定)	22:45 就寝
13:30 昼食	
15:00 モーション(乗艇) A) 乗艇後 サーキット B) 18:30 夕食 20:00 H. W C) 乗艇後 L. W	21(日) 7:00 起床・朝食 9:30 モーション(乗艇) 13:30 昼食 15:00 モーション(内容未定) 18:00 全体ミーティング 解散(予定)
19日(金)	補 強
7:00 起床・朝食	a. アメリカン 10回×3
9:30 モーション(乗艇)	b. 懸垂 max × 3
13:30 昼食	c. ベンチ背筋 10回×3
15:00 モーション(乗艇) A) 乗艇後 L. W B) 乗艇後 サーキット C) 18:30 夕食 20:00 H. W	d. リバース 10回×3 e. リバレッジ 10回×3 (2人1組)
20:00 A. B夕食	
22:45 就寝	

《強化合宿のスケジュール》

1993年3月10日(水)～3月14日(日)

10日(水)	13日(土)
14:00 集合	6:30 起床・朝食
15:00 全体ミーティング	9:00 モーション(乗艇)・補強
19:30 夕食	13:00 昼食
21:00 4回生会(応接間)	15:00 モーション(乗艇)
22:00 就寝	A) 18:30 夕食 20:00 H. W
11日(木)	B) 乗艇→間食→L. W C) 乗艇→間食→サーキット
6:30 起床・朝食	20:00 B・C夕食
9:00 モーション(乗艇) 南郷RUN(脈測定)	22:45 就寝
13:00 昼食	
15:00 モーション(乗艇) A) 乗艇→間食→サーキット B) 18:30 夕食 20:00 H. W C) 乗艇→間食→L. W	14日(日)
20:00 A・C夕食	6:30 起床・朝食
22:45 就寝	9:00 モーション(乗艇)
13:00 昼食	13:00 昼食
15:00 モーション(内容未定)	15:00 モーション(内容未定)
18:00 全体ミーティング	18:00 解散(予定)
22:45 就寝	
12日(金)	補 強
6:30 起床・朝食	a. アメリカン 5回×4
9:00 モーション(乗艇)	b. 懸垂 max × 3
13:00 昼食	c. ベンチ背筋 15回×3
15:00 モーション(乗艇) A) 乗艇→間食→L. W B) 乗艇→間食→サーキット C) 18:30 夕食 20:00 H. W	d. リバース 20回×3 e. リバレッジ 20回×3 (2人1組) f. レッグカール10回×3 (2人1組)
20:00 A・B夕食	
22:45 就寝	

《強化合宿の食事メニュー》

2月17日(水)		2月19日(金)	
夕食	牛乳	朝食	牛乳
肉じゃが	00:10	ニラ豚のたまご炒め	00:10
チーズのベーコン巻揚げ	00:10	マカロニサラダ	00:10
小松菜のごま和え	00:10	ツナとさやいんげんのマスタードサラダ	00:10
サニーレタス	00:10	ゆでブロッコリー	00:10
なまたまご	00:10	味噌汁(キャベツ・油揚げ)	00:10
味噌汁(豆腐・ねぎ・わかめ)	00:10	牛乳	00:10
牛乳	00:10	昼食	牛乳
2月18日(木)	00:05	チンジャオロース(牛肉4kg)	00:05
朝食	00:05	春雨サラダ	00:05
たまねぎと挽き肉のいためもの	00:05	焼壳(あげ)	00:05
ほうれんそうとベーコン入りスパゲチ	00:05	ほうれんそうのおひたし	00:05
キムチ	00:05	中華風スープ	00:05
味噌汁(人参・大根・油揚げ)	00:05	リンゴ	00:05
かいわれ	00:05	オレンジジュース	00:05
牛乳	00:05	夕食	牛乳
昼食	00:05	たつたあげ 4.5kg	00:05
焼きうどん	00:05	ポテトサラダ	00:05
ひじきの炒め煮	00:05	酢のもの(ちくわ入り)	00:05
白菜とベーコンのスープ	00:05	高野豆腐のたまごとじ	00:05
なまたまご	00:05	サニーレタス	00:05
ヨーグルト	00:05	味噌汁(豆腐・えのき・ねぎ)	00:05
オレンジジュース	00:05	牛乳	00:05
夕食	00:05	2月20日(金)	00:05
豚レバー焼き肉風(豚4.0 レバー10kg)	00:05	朝食	牛乳
ジャーマンポテト	00:05	焼そば	00:05
大根と厚あげの煮物	00:05	スクランブルエッグ(チーズ・ハム)	00:05
納豆	00:05	切り干し大根	00:05
レタス	00:05	かいわれ	00:05
味噌汁(かぼちゃ・わかめ)	00:05	味噌汁(じゃがいも・わかめ)	00:05
牛乳	00:05	牛乳	00:05

1993年度春休みややかまし合宿の食事メニュー

2月20日(水)		2月21日(木)	
朝食	牛乳	朝食	牛乳
野菜炒め	00:10	野菜炒め	00:10
豚汁	00:10	野菜炒め	00:10
マカロニサラダ	00:10	マカロニサラダ	00:10
スクランブルエッグ(ハム・コーン)	00:10	スクランブルエッグ(ハム・コーン)	00:10
かいわれ	00:10	かいわれ	00:10
はっさく	00:10	はっさく	00:10
アップルジュース	00:10	アップルジュース	00:10
オレンジジュース	00:10	オレンジジュース	00:10
軽食		軽食	
バナナ	00:20	バナナ	00:20
菓子パン	00:20	菓子パン	00:20
ヨーグルト	00:20	ヨーグルト	00:20
※ 1993年度春休み中の強化合宿間での食事メニューを掲載しました。今後もよりいっそう栄養に関する知識を深め、合宿所での食生活の質を向上させていこうと考えています。	00:20	現在は、トレーナーと1回生女子マネージャーが中心となって栄養講習会などに参加し、効率のよい栄養摂取法を学び、それをメニュー作りの参考にしています。もちろん選手の希望ももっと考慮していこうと考えています。	00:20
2月21日(木)	00:05	朝食	牛乳
回鍋肉(ホイコーロー)	00:05	回鍋肉(ホイコーロー)	00:05
スパゲチナポリタン	00:05	スパゲチナポリタン	00:05
こふきいも	00:05	こふきいも	00:05
白菜のつけもの	00:05	白菜のつけもの	00:05
味噌汁(豆腐・油揚げ・わかめ・ねぎ)	00:05	味噌汁(豆腐・油揚げ・わかめ・ねぎ)	00:05
牛乳	00:05	牛乳	00:05

《関西選手権・瀬田川杯までのスケジュール》

パターン(1)乗艇・ウエイトサーキット

(2)乗艇・補強

(3)乗艇・HW

◆パターン(1)(2)

4:45	起床	6:30	起床
5:00	モーション(乗艇)【3 hrs】	7:00	朝食
8:30	朝食	9:30	モーション(乗艇)【3 1/2 hrs】
13:30	昼食	13:30	昼食
16:00	モーション(乗艇・C)【3 hrs】	17:00	モーション(HW)【2 hrs】
19:30	夕食	19:30	夕食
22:00	消灯	22:00	消灯

	対校	J r	フォア・スカル	1年生
23日(金)	2	3	1	1
24日(土)	3	1	2	1
25日(日)	3(LW)	2	3(LW)	1
26日(月)	1	3(LW)	2	1
27日(火)	1	1	1	1
28日(水)				
29日(木)			調整期間 (1)	
30日(金)				
31日(土)			予選	
1日(日)			準決勝・決勝	

◆補強メニュー

リバース	10×3
レバレッジ	10×3
シットアップ	10×3
ベンチ背筋	15×3
懸垂	MAX (~10) × 3

1993年度同志社大学ボート部活動について(7月8月)

1 目標

『全日本学生選手権(8/19~22)での優勝』

およびそれぞれ自分のクルーでベストの結果を残す。

2 スケジュール

	M	T	W	T	F	S	S	日
第1週	○5	6	7	8	9	10	11	12
								試験開始
第2週	○12	13	14	15	△16	17	18	19
第3週	19	20	○21	22	△23	24	25	26
								夏休み
第4週	26	27	28	29	30	31	1	2
								関選／瀬田杯
第5週	○2	3	4	5	6	7	△8	9
第6週	▲9	10	11	12	13	△14	▲15	16
								(戸田入)
第7週	16	17	18	19	20	21	22	23
								全日本学生選手権／OX盾

3 これまでの反省および改善すべき点

A)漕手

目的意識を明確に

フィードバックをしっかりおこなう(ビデオ・乗艇後の反省)

自己管理の徹底(体調・精神)

B)コックス

リギングへのこだわり

時間の有効な利用

漕手の健康管理

C)マネージメントおよびトレーナー

その他

戸田宿舎は早瀬会館

〈1993年度マネージメント体制〉

主務 早坂 真一
 副務・会計 竹内 秀暢
 副務・学連 押領司哲也
 (女子マネージャー)
 連絡・統制 北尾冬子、加藤文穂
 O B 担当 堀 智子、藤本亜紀、高橋 彩
 広報 余谷有紀枝、堀 智子、二瓶伸子、柏木智香、杉原典子
 会計補佐 田村麻理子、大西直子
 合宿所立て替え計画 余谷有紀枝、生水真理

〈1994年度マネージメント体制〉

主務 西村 泰隆
 副務・会計 佐伯 明
 副務・学連 伊藤 崇
 トレーナー 古山 裕基
 (女子マネージャー)
 連絡・統制 (女子マネージャー、父兄会、新人勧誘 等)
 加藤文穂、柳田由美子
 O B 担当 (O Bとの交流、住所変更管理 等)
 藤本亜紀、杉原典子
 広報 (年誌発行、その他広報関連の仕事)
 二瓶伸子、柏木智香、高橋 彩
 会計補佐 (会計事務の補助、艇友会費の集金)
 大西直子
 合宿所立て替え計画 (幹事会、企画委員会出席 等)
 生水真理
 栄養管理 森本周子、関根佐和子、尾島綾子

あなたの『広報通信』せんか??

現在ボート部のマネージメントにおいて、広報に関する仕事は女子マネージャー中心に行われています。その中のひとつとして、部員の生活意識全般の向上を目的とし、合宿所のフロア内に広報通信を掲示しています。このフロア通信は、2週に1回ぐらいの間隔で主に広報担当の女子マネージャーが制作しています。現在のところ vol. 15まで制作されていますが、その中のいくつかを掲載してみました。

朝モーション前の軽食の効果

朝おきてから、モーションの前に何か食べていますか? 食べていない人は、これから食べるよう心がけてください。食事をとらずに練習すると、練習の効果が上がらないばかりか、体にも悪影響を及ぼすことがあります。

朝目覚めたとき、血糖値はもっとも低い状態にあります。食事をとらずに練習した場合、さらに血糖値が低下し、体の機能障害やいろいろな意識障害が現れやすくなるのです。わかりやすくいえば、栄養不足の状態で練習すると、集中力が低下したりけがを起こしやすくなったりするということです。また、運動中に空腹になりすぎると、疲労感が強くなり、食欲減退につながることもあります。

それでは練習前にどのようなもの食べたらよいかという話になりますが、まず、糖質を取るようにしましょう。糖質は、血糖値をしばらく上げ、すぐにエネルギー源になることができます。したがって、キャラメルやチョコレートなどを吃るのは効果的です。(しかし、多くとりすぎると、逆に血糖を下げてしまい、効果がありません。) ジャムやバターをつけたパンや、おにぎり、肉まん等を吃るのもよいでしょう。また、寝ている間は水分損失が以外に多いので、水分補給もしたほうがよいでしょう。モーション後には、ジュースやはちみつ漬けレモンなどを少量取ってから、朝食を取ることも疲労回復に効果的です。

以上、簡単に説明させていただきましたが、これを参考にして、皆さん、自分なりにモーション前の食事を工夫してみてください。

(1992. 11. 15 広報通信 No 5)

昼食について

—外食の取り方—

大学で、飲食店で、合宿所以外で取る昼食にはどんなものをお食べになりますか？
ただ満腹感を得るだけではなく、食品の内容に少し気を使うだけで、午後のモーションに発揮できるエネルギーは随分と違って来ます。

1. 量を食べるよりもコンパクトにバランスを

食事の量は個人の身長、体重により様々ですが、摂取エネルギー量は約1250キロカロリーを目安とします。昼食は特に、消化吸収が良く、エネルギー効率の良い脂質や糖質を主体にしたメニューが好ましいでしょう。ご飯、パン、うどん、スパゲティーなど、好みの穀類で炭水化物を取り、消化に負担がかからない程度に『腹持ちの良い』食事にします。

脂肪も、エネルギー安定供給のために、ある程度必要です。植物油、バター、マーガリンなどを適度に使っている料理を取ることも良いでしょう。昼食にラーメンやザルソバなどで軽くすませてしまうと、一日に取るべき食品数が少なくなってしまいます。スポーツ選手はトレーニングにより筋肉群を動かすことが大いため、昼食時にも、タンパク質の適度な補給源として主菜となるものを忘れずに取るようにしましょう。

午後のモーションのことを考えると、胃がパンパンになるほど吃るのは賢明ではありません。むしろ量は控えめにしておき、穀類、肉か魚、そして野菜もそろって食べるようしましょう。

2. 一皿でも食品数の多く盛り合わせてあるもの

昼食では、丼物、カレーライス、チャーハン、ピラフ、ラーメンなどが多く取られています。特に野菜不足になりがちなので注意が必要です。

カレーライスも、ニンジン、ジャガイモたっぷりで、肉の姿が確認できる手作りの物なら、りっぱなワンディッシュの昼食です。焼きそばならそばだけでなく、キャベツ、ニンジン、モヤシなどが肉とともに半分以上を占めていれば良いでしょう。昼食では、ひとさらに6～7つくらいの食品を盛り込んだ料理に、飲み物がついていれば十分です。

モーションで最大限の効果を上げるために、各自で自己管理を心掛けてください。

〈広報通信 No11〉

あなたの目にアメーバはいませんか??

部員の中で、コンタクトレンズを使用している人はかなり多いと思います。コンタクトレンズは、直接目に触れるので時に大変な障害を生みますが、深刻な障害が少ないのが裏目に出使う方もルーズになります。そこで、今回はコンタクトレンズの障害防止法について考えてみました。

まず、第一に定期検査の重要性があげられます。定期検査はハードだと半年、ソフト3カ月に一度、しかし、障害は使用に慣れて警戒心が薄らぐ1年後に最も起きやすいといいます。また、コンタクトレンズの適否はレンズ内面のカーブが目にぴったり合っているかどうかがポイントで、合わないと傷つけたり酸素不足をまねいて細菌の繁殖を促したりします。

障害が起きるとハードだと症状が強いので外すことになりますが、ソフトタイプだと気まずかず深刻になることが多いのです。特に洗浄や消毒を規定どうり行わず、長時間装用すると障害発生率がてきめんに高まります。レンズケースを清潔にしておくことも大切で、ごくまれにアメーバが繁殖して失明することもあります。他にレンズの汚れや不適合などから黒目の表面に炎症がおき放置すると、びらん（ただれること）、潰瘍へと進むことがあります。またレンズの不適合などで、酸素が不足し白目が充血し、悪化すると血管が伸びて角膜に侵入し視力障害をおこしたり、上まぶた裏にアレルギー性の隆起が発生することもあります。

ともかく、障害があればまず何か症状がでます。“へんだな……？”と感じたらとりあえずすぐ外して、早く眼科医を訪れることが、コンタクトレンズによる深刻な障害を防ぐ一番の方法だといえます。コンタクトレンズをあまりみないで、危険性を自覚して使用して下さい。

卒業生のことば

俺はこれや

「やっぱり切り札もってなあかんのちゃう」先日同期の竹内と押領司と飲んで、空が白みはじめたころたどり付いた結論だ。彼女とうまいことやるには、という下世話な話だったのですが、何をするにしろ、やはり自分はこれだと言いきれるヤツのほうが圧倒的に分がいいと思うのだ。これはクラブをやっているときにもかねがね感じましたが、対校に乗って勝とうとすれば、他と同じことをやってもだめで、「そんなんはやって当たり前、オレはこれなんや」という連中が対校なりJr.なりの上のクルーに乗っていたと思います。そして対校が強烈な印象を持っているときのクルーはなぜか速かった。

いまこうして振り返ると、あまりに楽天的な自分が浮かんできます。もっと現実はシビアなのだ、
という厳しい分析をもっとしなけりゃいけないなとも思います。こんな風に自分を掘り下げる
ことができた意味でもポート部をやり遂げたことに満足しています。そして、いろいろな人たちと接して、
意見したり冗談を交したりできる仲間に会えたことが、なによりの宝です。

C'est la vie.

C'est la vie.

That's just the way you go.

— ROBBIE NEVIL.

副務・会計 竹内秀暢

同輩諸君、4年間お疲れ様。長い道のりではあったが、僕なりのやり方でここまでやってこれたことをたいへん誇りに思っている。クラブが終わってみるといろいろなことがまるで遠い昔のことのように思いだされる。今こうして北大路の下宿で瀬田に思いを馳せてみると、何かまるで自分の故郷を思いだしているようである。瀬田の山合いにひびきわたるCOXのかけ声、ローラックの音、合宿

所の雑然とした風景、すべてが懐かしく思いだされる。クラブが終わってみていぢばん強く思うことは、合宿所のなかには合宿所のなかにしかないものばかりであるということ。みんなの抱いている熱い気持ち、合宿所ならではのノリ、生活のルールももちろんそうであるけれども、それらがものすごく貴重なものであったと思う。クラブが終わればたしかに何でもやろうと思えばできる環境にあるけれども、それ以上にかけがえのない時をボート部において過ごしてきたんだと思う。後輩諸君にたいしたアドバイスもできないけれど、とにかく何にたいしても貧欲であることを望みます。それだけです。

最後になりましたが、横山監督はじめスタッフの方々にはたいへんお世話になりました。感謝しております。その他のOBの方々にもいろいろと御指導、御協力いただきありがとうございました。

第一の半期を終りたとき、(The first semester ended)第一回の定期試験が行なはれた。定期試験の結果、(The result of the examination was as follows.)

まず最初に私が同志社大学ポート部内外で関わってきた皆様方に厚く御礼申し上げます。

は「楽しい」と「楽」なことの違いです。両方とも「楽」という字を使いますがその中味は全然違うのです。

「スポーツ楽しく情熱的でないといけない。」これは私の基本的な考えです。最後の年など皆の Motion を合宿所から見ていると、のびのびとかつ楽しくいい雰囲気でやってるなあと感じました。私が部に入り立ての頃に比べ、Motion ならびに合宿所の雰囲気も変わってきたと思います。O B の方も足を運ばれるとおそらく随分変わったものだと思われるかもしれません。もしかしたら首をかしげる人もいることでしょう。

それではどの時代が本当のクラブのあるべき姿なのでしょうか。私はこれに答える事はできません。時代が変われば人も変わります。その時その時のスタイルが正しいものだと考えるからです。

今の世の中の風潮ですと楽しければ良いといったところでしょうか。私も多々賛成します。でも楽しさばかりを追求し過ぎて肝心なところを見失わないようにして下さい。私達は体育会です。学校の代表者です。競技者ですから勝ち負けにこだわるのは当然です。楽しさを追求するあまり、楽な方向にだけは絶対に流されないで下さい。それは「楽しい」ではなくて単なる「楽（らく）しい」です。甘い気持ちで勝てる程ボートは生易しいスポーツではありません。それは皆さんよくわかっているはずです。常に勝ちを意識して過ごして下さい。

最後にもう一度言います。楽しく、スマートに格好良く勝って下さい。
P.S.でも気持ちは楽にね！

主将 堀 内 昭 宏

引退する時に自分が考えたことは、なぜボートを漕いでいたのかです。なぜだろう？ 深く考えたこともありませんでした。好きだからと言ってしまえばそれまでですけれど、そんな単純な答えではかたづけられません。ではなぜ？ 引退した今でこそ思い付くことなんだろうけど、言葉では上手く言い表しにくい。何かこう、キャッチして、ファイナルまで水を押し続けている時、艇のスピードがあがる時、この時、何とも言えない空気が耳をかすめて、後ろに流れて行く。そうその感触。それがたまらない。泡を残して、艇が進んで行く。とかく、ボートの世界では、上手く言葉で説明しにくいものが多い。現役時代は、そんなこと考えもしなかった。何で漕いでるの？ そりゃ漕ぎたいからさ。で、かたづけていたことの方が多かった。現役の諸君には、そんなことは考えてほしくない。考えるよりも漕ぐこと。そこからどうやって勝つかを考えていってほしい。今、振り返ると初めてオールを握った日から、水の上の自分が本当の自分だと考えていた頃がとてもなつかしいし、その時の自分を、いつまでも忘れないと思っています。一番、自分が印象に残っていることは、一回生の春、ちょうど漕ぎ込みの時期でした。夕方からの練習。メニューはロングだったと思います。メニューが終わってインターバルの時、辺りは真っ暗になっていて、空を見上げると、でっかい星が光っていました。なぜかこのシーンは鮮烈に頭に焼きついています。長かった四年間だったけれど、想い出すのは、一瞬の出来事だから、とても短いように感じますが、水の上から見た瀬田の風景は一生忘れません。お世話になった先輩方にもお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。それからワイルドローバー十一世、十二世、七五三太四年間、御苦労様でした。心から、感謝します。ありがとうございます。

副将 喜 多 栄 太

俺がボートを始めようと思ったのは高校時代にテレビで早慶レガッタの中継を見た時でした。8本のオールを見ごとにそろえ、全力で水をかき艇を走らせているそれらのクルーはとても美しく、力強く、カッコよかった。そしてボートを始めた一回生の時、雑用で戸田に行き関東の強豪クルーをまたにした時の興奮は忘れることができません。強いクルーには風格が漂っていた。きびしい練習を積み重ねてきた者だけがもつ風格があった。その時おれもこんなクルーの1人になりたいと心に思った。以後クラブを引退するまでその思いは常に心の中にあった。それは辛い時には自分を励ますものであり、なによりも自分がボートを漕ぐ動機そのものであった。

今4年間をふりかえっていると、最終的にはオッ盾で準優勝することができたのであるがすべてに満足しているわけではない。最後の年に対校で漕ぐことができなかつたし、自分の理想とする副将の役割を完全に果たせたとも思わない。ただこれだけは言えるのは最後の1年間俺は練習で手をぬくことだけはしなかった。陸の上でも水の上でも常に自分の限界近くまで自分を追いこむことができた。これだけが自分の細やかな誇りであり自信である。後輩のみんなも自分たちがチャレンジャーである

ことを忘れないでほしい。ライバルとすべきは関東のクルーであり、インカレで勝つことを目標としていることを常に考え練習してほしい。そして見る者を惚れ惚れとさせるような強いクルーを作ってくれ。強いクルーは自然に出来上がるのではなく、クルー1人1人がそれを作ろうという強い意識のもとで、各自の役割を考え、存在感をアピールすることによって出来るものだと思う。最終的に決勝に勝ち残るのは強いクルーではなく、強いクルーです。最後に自己実現の場を与えてくれた同志社大学ボート部とそれを支えてくれた後輩たちに感謝します。

堀内 智子

入部から引退まで、本当に短かった。ボートというスポーツもろくに知らないまま友達に連れられて行った試乗会。そして入部。最初は、私も含め7人いた同回の女子マネージャーもそれぞれの理由でやめて行き、現在の4人となった。女子マネージャーの歴史が浅いこともあり、マネージャーとしても組織が完全でなく、ただただ夕飯を作っていた1回生の頃。2回生になると、百周年記念誌の担当になり、そこでは色々な事をOBの方々から学ばせて頂けた反面、もっと部員と一体感のもてる仕事がしたかった私は、それを理由に当時の主務、岡本さんに「やめたい」と言った。その時の岡本さんの言葉は「他にやりたい事があるならやめろ。今の仕事が嫌だからと言って逃げるのは責任放棄だから許さない」だった。視野が狭かった自分を今、恥ずかしく思う。その百周年の流れで、OB担当になった3回生。現役に対する貴重なご意見を頂き、それが年誌の発行へつながった。4回生になって、1つ1つのレースや行事が、あたり前だけど、最後のこととなり、一生懸命だった。

つらい事、嬉しい事もあったけど、それ以上にうれしい事、楽しい事があった。何よりもうれしかった事は、大学の違う私が、ボート部の一員であることを実感できたことだ。ボート部で女子マネージャーをしていて良かったと思った。

引退をした私から今、後輩のみんなに伝えたい事は、後悔しないよう、今自分ができる最大の事をして下さいという事です。特にマネージャーは何もしなくても時間は過ぎていきます。何もしなければ、何も得られません。折角、ボート部のマネージャーをしているのだから、何かをつかんで引退して下さい。

それでは最後に、部長先生、監督、コーチ諸先輩方、大変お世話になりましたがとうございました。いい先輩、同輩、後輩に恵まれて、幸せでした。

高校生の頃、電車が瀬田川を渡る時に左側に見える艇庫と合宿所を見て、「こんな所には、いったいどんな人達がいるのかな？ よくこんな所で生活しているね」とよく友達と言ったものでした。そう

言ってた私がボート部のマネージャーをするとは思いませんでした。

ボート部のマネージャーとしての4年間が「もう終わった」という気持ちと「やっと終わった」という気持ちが心の中にあって複雑な心境です。いろいろな想い出がよみがえってきます。嬉しかったこと、楽しかったこと、苦しかったこと、思い出したくもないようなつらかったこと。

私は入部当時の「力漕」の中で“自分でやってよかったと思い、あのマネージャーがいてよかったと思われたい”と書きましたが、正直なところ今は自分でそう思えるかどうかわかりません。まして私がいてよかったと思ってくれる人がいるのかどうか……。入部してよかったと思うことは、多くの人に会え、そして多くの人に助けられ励まされたことです。やめようかと悩んでいた時、一緒に悩んで考えてくれた人。落ち込んでいた時、元気づけてくれた人。就職活動でつらかった時、励ましてくれた人。そんな人達がいたからこそ、4年間続けることができたと思います。

今年の夏、最後なのに戸田に行けませんでした。予選が終わった日の夜、4回生の部員から電話がありました。少し話をしましたが、話をしているうちに涙が出てきて言葉につまりました。改めて戸田に行けなかったことを残念に思いました。最後の試合に参加できないなんて、何のために4年間続けてきたのだろうと。悲しい気持ちと悔しい気持ちでいっぱいでした。

4年間で、ボート部員としての姿しか見ることができなかっただ人、それ以外の全く別の姿を見て“こんな人だったの？”と不思議に思ったり、あるいはがっかりした人、いろんな人を見てきました。全員というのは無理でも、もっと多くのボート部員の“別の顔”を見たかったです。選手同志、マネージャー同志だけではなく、選手はマネージャーに、そしてマネージャーは選手にもっといろんな顔を見せてください。お互いに交流を深めて、思っていること、考えていること、悩んでいること、何でも話せるような信頼関係を作って下さい。そうすれば、いま以上に同志社大学ボート部は強くなると思います。

ボート部を通じて、多くの人に出会えたことを本当にうれしく思います。そして私を助け励ましてくれた人、すべてに感謝します。ありがとうございました。

北尾冬子

4年間を振り返ると、前を見れば長く、後を見れば短いものでした。4年間本当にがむしゃらに走り続けていた気がします。クラブで苦しみ、クラブで救われ、でこぼこ道をはじめは同輩の女子マネージャー3人と、4人で歩み始め、2年目には7人で、3年目には13人で、そして最後の年には16人で同じ道を走る事ができました。4年間一定のスピードで進む事はありませんでした。時には全く進まず足ぶみ状態で時間だけが流れていった時もありました。そうなると体力と気力だけが勝負になり、体力のない自分が憎らしく自分自身を恨んだりしました。この時助けてくれたのが同輩、後輩の女子マネージャーであったように思います。みんながかかえこんでいる問題は同じです。誰かが一人の手をひっぱりそしてまた一人……といった具合に、よくひっぱっていってくれました。本当に感謝して

います。ボート部を通して、協力する事の大切さを身をもって実感できた事が私の大学時代で最も幸せだった事です。人間一人の力は本当にしています。それを協力する事により一人の力以上のものを發揮できるのです。後輩のみなさん、自分を信頼し、先輩同輩後輩を信頼し、同志社大学ボート部のもっている可能性を磨いて、より光り輝かせて下さい。みなさんに期待しています。

この4年間、うれしかった事、後悔した事、つらかった事、本当にいろいろありましたがそれらすべてまとめて今、充実した大学生活を送る事ができたと思っています。最後になりましたが、今までお世話になりました諸先輩方、本当にありがとうございました。

余谷有紀枝

“長い様な短い様な”と本当に月並みだけれど、今心よりそう思う四年間でした。一体どれだけの月日が過ぎたのか実感できませんが、私のわずかな能力で出来る事は最大限有効に行ったと思うので悔いはありません。

体制が整うまで皆に色々な犠牲を強いてきたと思います。特に女子マネには将来が見えない中で黙ってついてきててくれて本当に感謝しています。クルーの皆は厳しい練習をよくここまで耐えてくれたと思います。本当に御苦労様でした。

学生組織というのは毎年始まりと終わりがあり、それは泣いても笑ってもレースが2000mしかないのと似ていると思います。だからその限界を常に念頭に置いておいて欲しい。でないと何もしないまま、レースが終わってしまうのではないかでしょうか。

私達はもうレースは終わってしまったけれど、現役の皆はまだこれから足けりも入れられるし、スパートも入れる事が出来るのです。ただ、残りあと何mあるかはこれから君達が日々どの様に過ごしていくかによります。

教える事には限界があり、学ぶ事は無限大の量があり、そして学びとる事はそのどちらにもなりえます。願わくば無限大となる様、スパートが入れられる様、頑張って下さい。

私達は一つの可能性、方向を示す事はできたと思います。が、それはあくまでも方向だけであって、道が出来た訳でも、ましてやそれに乗っかってしまえばよいエスカレーターを作った訳でもありません。道をどの様につくり、抜け、歩んでいくかは自分達で選びとらなければならないのです。監督やコーチは教えてくれませんし、又教えてもらう物でもないのです。

皆がたくましく自分で切り拓いていく事を祈っています。

藤井 啓 宏

怪我に泣き、負けて泣き、勝って泣いた。とにかく涙の多い4年間だった。個人的には悔いおこせば、たまたま誘われた試乗会に来たのが、このクラブとの関わり始めだった。入部後2年半は力不足と度重なる怪我のため、敗北を重ねるばかりか、レースに出られないこともあった。クラブにいる意味がわからず、何度も逃げ出そうと思ったが、同回生に背中を見せたくないなくて、ひたすら耐える日々が続いた。そして、ついに最後のシーズンが始まり、それまでの2年半の穴を埋めたくて、練習に打ち込んだ。もう二度と負けるつもりはなかった。とにかく勝ちたかった。メダルを手に入れたかった。No.1になりたかった。それまでの自分にはこの気持が希薄だったのだろう。このシーズンはツイている気がした。実力もついてきていた。しかし、やっと念願かなって対校クルーの一員となることができ、トップクルーにいることはとても快適だったが、「自分の艇」とはとても思えなかった。セレクションとの格の差がありすぎて、とても追いつけず、悔しかったが、徐々に諦めと反発が自分の中に生まれた。そんな状況の中での朝日レガッタ3位は素直に喜べる事ではなかった。全日本選手権でも完敗し、自分はJr.に降格になったが、むしろスッキリした気がした。その後の最後の2ヶ月間は、正直言って4年間で最も楽しかった。Jr.は対校よりも速い艇速を出せる艇に生まれ変わり、クルーは若く、経験も無いが、活気に溢れ、相手がどこでも負ける気がしなかった。事実、瀬田杯では優勝し、オッズでは2位になることができた。勝って泣いたことは生まれて初めてだった。下級生の皆は、とにかく怪我のないよう、粘り強く努力を重ねて欲しい。勝利を思う存分味わって欲しい。

最後に、敬愛する同回の皆へ。オッズ決勝のレースは皆の為に漕いた。この4年間、皆を目指しやってきた僕なりの恩返しです。ありがとう。

木内 良典

ボートというのは本当に究極の団体競技などと4年漕いできて、やっとわかってきた気がする。8人の動きが、呼吸が、魂がコックスのかけ声のもとに一つとなり、オールが水をつかんだ時にはじめて、艇は水上を滑るように進んでいく、8人の力が均等であればあるほど艇を速くはしらせる。93年夏私は、毎日の厳しい乗艇練習、陸上トレーニングをただその日、その時だけの練習に終らせないで、常にレースを想定して練習をつづけた。1000、1500、2000メートルとレースの距離によって、練習の内容もかえていった。レース前の調整も毎年あまり重視していなかったが、試合に向けてのシキを高めるために、しっかりととめりはりをつけてレースに臨んだ。結果、2つのレースで優勝、準優勝のメダルをとることができ、いい結果でボート部での生活をしめくくることができた。一回生のころ、ミーティングにおくれ、2ヶ月間皿洗いをさせられたことや、2月の超寒い中、ダブルスカルに乗っていて氷をしてしまい、30分間艇にまたがって、救助を待ちつづけ死にそうになったこともあったが、今となってはいい想い出である。4年間寝・起きを共にした同輩や、先輩、後輩、そしてボ

ートに出会えて本当に良かったと思う。これから的生活でボート部で学んだことを役立てて無駄にしないようにしていこうと思う。

中澤 郁男

私がボート部で一番心に残っていること、よかったと思うことは“勝ちに対する意識”です。私は高校までサッカーをしていたが、そのころはどちらかというと楽しければいい、という感じで試合に負けることは悔しかったが、内容が良ければそれで満足していた。大学に入りボート部に入部してからもその意識はあまり変わらず、負けたのはしょうがない、みんな仲良く頑張ってきたじゃないか、というところがあった。このような意識で練習をし試合に出ても勝てるはずではなく、全く結果を出すことができなかった。そんな私が3回生になったある時を境に勝ちにこだわるようになった。クラブの中で対校のシートを奪らなくてはならない。試合で絶対勝ちたいという思うようになった。勝つとおもしろくさらに勝ちにこだわるようになり、最終的にはOX盾で2位（学生では1位）になることができた。自分で勝ちにこだわる前と後で特に違ったことをしたおぼえはないが、おそらく自然にその意識が行動に現れ周りに伝わったのだろう？と思う。勝ちにこだわることは今後も必要なことだ。常に正々堂々と勝負していこうと思う。

もうあのような合宿生活を送ることはないだろう。合宿中はつらかったが、終わってみるといい思い出だ。これもお世話になった先輩方、何をしてあげられなかった後輩達、そして堀内、早坂、喜多、竹内、押領司、中西、松城、藤井、木内、北尾、堀、田村、余谷の同回の仲間達のおかげだ。どうもありがとうございました。

中西 孝夫

最後の夏のインカレ、私は漕いでなく陸から応援していた。引退した今、選手でありながらレースに出られなかったことが、やはり無念である。

しかし、陸からレースを見ることによって今まで選手としての視点からしかレースを見ていなかつたことに気付いた。選手に勝って貰いたいという意識でせわしく動き廻っているマネージャーなど裏方の大変さを見てあらためて我ボート部を組織として感じることができた。今まで、試合に勝ちたいという想いだけで私が、夢中でやってこれたのは、そういう環境を造ってくれた人達が、いたからこそであった。そして、ローカーの漕ぐ艇には乗っている人達だけでなく、それ以外の仲間達の夢も乗っていたことを痛感した。そして私は、四回生の選手でありながら最後、何もしてやれることが出来なかつた。引退した今、やはりそのことを悔しく想う。

私にとっての引退は、晴々したものではなかったが、現役時代の想い出は、楽しいことばかりが残っている。あの特殊な環境の中で、仲間と過ごした時間、殆ど人に話せない様な馬鹿をしていたことが多かった気がするが、たまには真面目なこと也有った。あの時間は私にとって大変貴重な体験だったと思う。本当に在部中あらゆる面で御世話になった皆さんに心より感謝します。

最後に現役後輩諸君、暮々も自己管理をしっかりとし、怪我のない様に頑張って下さい。そして引退までまだまだチャンスがあります。それをしっかりと掴んで、私が味わえなかった勝利の喜びを味わって下さい。応援しています。

松 城 伸 敬

ボート部での4年間を振り返ってみると、本当にいろんな事があったと思う。もともと自分は大学生とは、たまに学校に行くだけであとはバイトとか旅行にあけくれる生活を送るのだと考えていたのに、実際は、クラブにあけくれる生活と正反対の道を歩いてしまったわけなのだが、なぜあの時こっちを選んだのか今考えてみても不思議である。一年、二年の時、ボートのこともろくにわからず、練習は厳しい、朝は早い、雑用のことなどいやなことばかりで、大学へ行くまでの電車の中で何度も「やめたろか」などクラブの仲間と言いあったか数えきれない。3年、4年になってからは、そう考えることは減ったが、朝の起床時間の早さには我慢ができなかった。今考えてみても、自分が4時半に起きて練習をしていたなんて信じられない。しかし合宿生活全体を見てみると、休みが少ないし、自分の時間がもてないとかいやなところもあるが、トータル的にみたら、非常に楽しかったように思える。40人近くの人間が同じ場所で暮らすのだからおもしろくないわけがないと思う。今考えてみると本当にバカみたいなことを合宿所内でやっていたように思えるが、合宿所の中だからこそできたのだろうと思ってしまう。また、4年間同じ釜のめしを食い、寝食を共にした同僚とは、すごく深いつながりがこの4年間でできたと思うし、こういうクラブの仲間を大切にしたいと思う。

最後に、ボートに始まりボートに終わるという大学生活もなかなかいいものだし、それだけやったことが自分の自信につながり、自分をひとまわりもふたまわりも大きく成長させてるので、とにかく最後までやり遂げてほしいと、後輩諸君に言いたいです。

入ったクラブが『ボート部』で本当によかったと今思います。ありがとうございました。



(学内レガッタにて 1992.10.25)

お知らせ

ご結婚

1993. 平成3年度卒 佐藤 将人 先輩

1993. 4.10 昭和62年度卒 藤田 哲哉 先輩

1993. 平成2年度卒 朝倉 伸二 先輩、朝倉(旧制 川崎)優子 先輩

《ご結婚によせて》

"CONGRATULATIONS!!"

87年卒 高橋 良明

4月10日 吉日、我々87年卒の同期、藤田哲哉の結婚式がめでたく、漕艇場横のホテルにて行われた。(同期11人中、これで独身者は小生を含めて4人となった)

藤田哲哉という男、私が知っている範囲では、酒に強く、足が太く、臭く、物怖じせず肝のすわった心優しき男というイメージが強かったのですが、彼の結婚披露宴での緊張しきった態度は、そのイメージを一掃するものがありました。多分彼にとっては、結婚披露宴というものが、ボートでいうと試合でスタート地点に艇をつけて、スタートを待つ緊張感に似たものがあったかもしれません。

「哲ちん！ 本当におめでとう」

近い将来、同期11人プラス11人の夫婦さんプラス何人かの子供が集って昔話に花を咲かせる日を楽しみにしています。(それにはまず私が結婚しなければなりませんが……)

朝倉君と川崎さんのご結婚に寄せて

平成2年卒 石橋 雅信

ご結婚おめでとうございます。同期を代表して心よりお慶び申し上げます。

お二人には、1回生の春、ボート部の門をくぐって以来、大変にお世話になっております。朝倉君は主務としてクラブの良きまとめ役として活躍して頂き、川崎さんも女子マネとして公私にわたっていろいろと部員の面倒を見ていただいたことには、大変感謝しております。そんなお二人が居られたことが、我々の代で、クラブの好成績を残せた一助になったことは疑う余地がありません。今回、お二人が御結婚されるということで、同期一同大変に喜んでいます。

しかし、お二人が結婚されることを聞きまして、私自身、大変驚いたというのが正直なところでござ

ざいます。ボート部時代、お二人の交際を誰も知らなかつたのでございます。

しかし、噂が一時立っていたのは事実でありまして、それは2回生の夏、関西選手権に川崎さんがシングルスカルで挑戦されたときの出来事でございます。川崎さんはマネージャーとしての仕事もしながら、一度試合に出てみたいと言い出されまして、お昼間よく一人で乗艇練習をされていました。そんな時、朝倉君は時々一緒に艇を出して指導に当られていたようでした。それを見た周囲の者は、これは2人はいい仲じゃないだろうかと噂して、「伸二と優子の夫婦スカル」と囁き立てたものでした。

今にして思えば、あの時から今日まで約6年間、就職してからは、東京と京都に離れ離れになりながら、愛を育んでこられたことには感動の念を禁じ得ません。

どうぞ、明るく夢のある御家庭をお築き下さい。川崎さんは結婚されても今のお仕事を続けられるとのことです、お身体には十分気を付けられて家庭と仕事の両立がうまくいきますよう心よりお祈りいたします。

《お悔やみ》

- | | |
|----------|-----------------|
| 1992年4月 | 昭和16年卒 増子 惣一 先輩 |
| 1992年5月 | 大正9年卒 八木 重兵衛先輩 |
| 1992年9月 | 昭和26年卒 本間 満秋 先輩 |
| 1992年9月 | 昭和37年卒 金城 安則 先輩 |
| 1993年7月 | 昭和30年卒 赤塚 弘明 先輩 |
| 1993年12月 | 昭和16年卒 山崎 恒夫 先輩 |

“故 本間満秋先輩との思い出”



ボート部時代の本間先輩
(写真 上段中央)

故本間満秋先輩

昭. 27年卒 小野木 伸

人世は、すべて出会いである。

私と故本間満秋先輩とは、旧制中学の京都第一商業学校のボート部に入部した、昭和22年の春が、初の出会いでした。当時は、戦後の物不足にかかわらず、心は開放され自由奔放な気持で、ボート部の活動に情熱を燃やしたものでした。

本間さんは私の一年先輩で、翌年は主将として活躍され、第2回国体に京都代表に選ばされました。本間さんは在学中、主将としてリーダーシップを發揮し練習は勿論の事すべての行動にいたる迄、責任を持っておられた。何事をするにしても常に緻密な計画をたて積極的な行動力を起す人として部員からは深い信頼を得ていました。

本間さんが卒業される際に引継いだ練習ノートには、毎日の練習状況が細かく記録され、練習に対する注意事項や配慮すべき事まで事細かく記録されていたのを思い出します。

私もこれを、練習する為の、参考書として大いに活用させていただき、成果をあげる事ができました。この事が又後々にいたる迄、基本の重要性と何をするにしても、まず「PLAN-DO-SEE」を考えに置くと云う事を教えられました。

その後の本間さんは同志社経済専門学校（高商）に進まれ、経専（高商）のボート部で活躍されました。又、新制大学の当時の最強クルーの一員として活躍されました。これは同志社ローティング100年の座談会に載っています。)

同志社を卒業された本間さんは株富士洋紙に入社され、社会人として第一歩を踏み出されました。本間さんの勤勉で几帳面さと人一倍の努力家の性格は、何處においても皆に信頼され、その実力は必ず頭角を表わし、活躍される順調な毎日でしたが、或る日、突然、東山の日ノ岡で交通事故にまき込まれ鞭打ち症で2年間の闘病生活を余儀なくされました。

そのため会社も退き、リハビリ後、社会復帰のため会計士の勉強をされたり友人の染色会社に勤める等この十年間は本間さんの苦難の時代であったと思います。

しかし、反面、この時期の多くの経験が、きもの業界の染色作家として大成する道につながったものを判断できます。

社会復起の道として染色に対する关心が生れ、本人の情熱は寝ても醒めても染一筋に集中する毎日で、それに奥さんの静子さんが田畠喜八先生に学ばれていた事もあって、奥さんの縁で、昭和40年田畠喜八先生の門をくぐり訓導を受け、昭和45年株衣笠専工を創立され、今日迄、多くの作品を発表、現在では日本染織作家協会や工芸染匠等の展覧会等で多くの入賞作品を出し、業界では、染色家として第一人者の評価を受けられるようになりました。数年前、環歴を記念して、本間満秋作品集（三十年の歩み）を出版されました。

私も大丸の高級呉服を担当した者として興味深く観賞させていただきました。「きもの」という古い伝統の中の美の表現として、本間さんらしい新しい感覚を、色・デザインに獨得の技法により表現する一つ一つの作品に陶酔を憶え時の経つのを忘れ、見入ってしまいました。

本間さんと暫く疎遠になってしまったが、同志社ローティング100年の催に関連して二度三度お

会いできる機会がありました。然し胃癌で病床に臥しておられました。昨年の五月一度退院されたのを機に、昔のボート仲間等と食事を楽しむ事ができました。それから数ヶ月して再度入院し、9月18日腹膜炎で帰らぬ人となりました。

奥様から後でお聴きした事ですが、病床にあっても何時も仕事を考え、どんな時にも思いついたらすぐ仕事にかかり休止する事なく色や論稿に取組んでおられ、今もなお未発表の膨大な論稿が遺されているようです。

^(オアズマン)この静子さんは本間さんのボートマンとして活躍されていた頃からの付き合い相思相愛の大ロマンの末結婚され、その事は私もよく知っていました。

本間さんが苦労を重ね染色作家として大成された蔭で、静子さんの内助の功があればこそと世間では云われています。

本間さんの人世を思い浮かべてみると、何時如何なる中においても自分の強い意志と繊細な神経を使って常に新しい問題に対応して来られ大成されたこれは本人の持つて生れた性格と、オアズマンとして活躍された経験がいろんな面に生かされたものと思います。

私も、初盆を前に、洛北の衣笠山を背景に自然に恵まれた工房のある自宅を訪ね、御仏の前で経を唱え、御冥福をお祈りした請子さんと或る日の本間さんの思い出を語っている間に、山の影も深くなり、お宅を辞しました。

昭和2年　本間　攝氏　先輩



(故 本間先輩と奥様の静子さん)

○三) 藟盐首洋簡本

子の上

子の上

子の上

子の上

子の上

艇友会員名簿

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
大正15年	船 機 博四郎	603	(自) 京都市北区紫野下柳町13	075-491-9574	
大正15年	小 池 勝	883	(自) 宮崎県日向市細島町680	0982-52-3437	
昭和2年	荒 木 節 郎	164	インターナショナルインサレック (自) 東京都中野区中野3-43-17 中野ハイム403	03-3400-8271 03-3384-3519	
昭和2年	大 町 弘 藏	157	(自) 東京都世田谷区成城町4-1-11	03-3483-1317	
昭和3年	坂 野 公 夫	227	(自) 横浜市緑区恩田町1157	045-981-3117	顧問
昭和3年	市 田 勇	573	(自) 枚方市菊ヶ丘町10-13	0720-41-5827	名誉会長
昭和4年	西 邮 省 三	569	(自) 高槻市桜ヶ丘南町14-5	0726-96-4046	顧問
昭和6年	増 本 茂	215	(自) 川崎市麻生区百合丘3-3-1	044-966-2473	
昭和6年	松 下 勇	590	(自) 堺市赤坂台5-22-11	0722-98-6386	
昭和7年	片 岡 与三郎	520	(自) 大津市石山寺3-2-1	0775-37-0374	
昭和9年	松 見 孝一郎	602	(自) 京都市上京区今出川新町上ル東入ル 元新在家町163	075-441-1602	
昭和10年	樋 口 明	167	(自) 東京都杉並区清水3-19-5	03-3399-3642	
昭和11年	新 開 明 夫	770	ホテル白水園(自営) (自) 徳島市仲之町1-40	0886-22-9165	
昭和12年	大 宮 隆	600	京都市下京区四条通東洞院東入ル立売西町60 日生ビル	075-241-5111	
		612	宝酒造 (自) 京都市伏見区桃山水野左近東町74-1	075-611-0519	
昭和12年	内 藤 謙 二	194-01	(自) 東京都町田市鶴川4-34-10	0427-35-2686	
昭和13年	松 川 寿 久	340	(自) 埼玉県草加市谷塚町1760	0489-29-0560	
昭和13年	乾 正 治	424	(自) 清水市下野中9-1	0543-64-4185	
昭和14年	近 藤 憲 司	794 794	今治市宅間854-1 近藤織維工業(株) (自) 今治市宅間甲1941	0898-23-3921 0898-23-3775	顧問
昭和14年	高 橋 宗	520-21	(自) 大津市瀬田2-1-16	0775-45-1234	会長
昭和16年	平 井 弘 一	505 520	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉2097 東洋工機(株) (自) 大津市中央1-2-33	05742-5-4151 0775-22-1277	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和16年	吉 年 晃	5 8 6 5 8 6	河内長野市上原町770 吉年株 (自) 河内長野市長野町12-5	0721-53-3121 0721-52-2375	副会長
昭和16年	渡 辺 隆 譲	799-15 799-15	今治市桜井甲1041 桜井不動産株 (自) 今治市桜井甲1041	0898-48-0852 0898-48-0852	
昭和16年	萩 德 太 郎	5 7 3	(自) 枚方市養父ヶ丘2-16-8	0720-57-8285	
昭和16年	山 崎 恒 夫	799-31 799-31	愛媛県伊予市灘町62 山崎書店 (自) 愛媛県伊予市灘町62	0899-82-0218 0899-82-0218	
昭和17年	太 田 豊 彦	2 4 9	(自) 神奈川県逗子市桜山3-19-13	0468-71-1819	顧問
昭和17年	榎 坂 景 次	6 4 8 5 9 1	和歌山县橋本市向副654 紀の川苑 (自) 堺市日置荘西町725-9	07363-2-1000 0722-85-0629	
昭和17年	田 中 羊 一	8 0 1	(自) 北九州市門司区東門司2-19-27	093-321-3198	
昭和18年	渡 橋 透 安	7 3 0 7 3 2	広島市中区紙屋町2-2-8 (株)広島総合銀行 (自) 広島市東区光ヶ丘1番44号	082-242-7200 082-264-0401	
昭和18年	白 井 茂	5 2 0	(自) 大津市尾花川町13-48	0775-23-1355	
昭和18年	山 元 博	6 0 3	(自) 京都市北区紫野西野町10番地 山元マンション	075-415-0942	
昭和18年	杉 野 寿 男	7 0 8	(自) 岐阜県津市志戸部665-1	0868-23-3062	
昭和18年	金 小 路 芳 正	6 4 0 640-01	和歌山市小松原通1丁目 和歌山県庁 (自) 和歌山市西ノ庄684	0734-23-6111 0734-55-2573	
昭和19年	平 井 忠	6 0 5 5 2 0	京都市東山区福種上高松町 (株)松風 (自) 大津市中央1-2-42	075-561-1112 0775-22-7355	
昭和19年	鷺 田 平一郎	520-23	(自) 滋賀県野洲郡野洲町小篠原1389	07758-7-0020	
昭和19年	松 井 一 雄	6 0 0 6 0 0	京都市下京区高辻富小路西入雁金町160 松井金属工業 (自) 京都市下京区高辻富小路西入雁金町160	075-361-9341 075-361-9341	
昭和20年	北 島 健 一	8 1 6	(自) 大野城市南ヶ丘1-28-6	092-596-1961	
昭和21年	流 郷 吉 勝	2 3 2	(自) 横浜市南区永田みなみ台1-1-619	045-711-0230	
昭和22年	丸 井 博 嗣	6 0 0 6 0 0	京都市下京区岩上通綾小路下ル 布阜亀製造 (自) 京都市下京区岩上通綾小路下ル	075-811-2223 075-811-2223	
昭和23年	山 根 藤 策	7 0 0 7 0 0	岡山市表町3-1-26 岡山県漕艇協会 (自) 岡山市中央町10-26	0862-24-3265 0862-26-5532	
昭和23年	西 川 秋 弥	5 4 1 5 6 4	大阪市中央区東心斎橋1-3-19 五興貿易株 (自) 吹田市清和園町10-18	06-271-3436 06-383-7591	
昭和24年	土 肥 信 一郎	6 0 4 6 0 2	京都市中京区烏丸通蛸薬師下ル トキワ商事株 (自) 京都市上京区竹屋町通智恵光院東入主税町1252	075-211-3401 075-841-3544	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和24年	田 村 宏	6 7 3	(自) 明石市松ヶ丘5-12-12	078-914-8003	
昭和24年	高 井 正 明	4 5 5 4 6 1	名古屋市港区築盛町62-1 大藤運輸株 (自) 名古屋市東区出来町3-4-9	052-653-7311 052-723-0147	
昭和24年	毛 利 国 元	2 4 8	東京セール (自) 鎌倉市高野22-19	03-3281-0201 0467-44-4773	
昭和24年	嘉 村 良 輝	5 8 3	(自) 羽曳野市羽曳野ヶ丘1-5-4	0729-56-4306	
昭和25年	龟 井 量 太	6 6 5	亀井株式会社 (自) 宝塚市宝梅1-2-36	075-343-1781 0797-72-7873	
昭和25年	四 方 久 男	979-61 2 8 5	福島県東白川郡塙町大字伊香字高の平66 福島篠田ゴム工業株 (自) 千葉県佐倉市井野1562-1 シンフォニー勝田台205号	02474-3-2176 043-487-6268	
昭和25年	鷹 羽 昭	6 5 0 6 5 8	神戸市生田区加納町6丁目 神戸市役所 (自) 神戸市東灘区渦森台4-5-6	078-331-8181 078-841-7220	
昭和25年	山 田 善 一	5 3 0 666-01	大阪市北区東天満2-4-21 岩井町ビル 阪田産業株 (自) 川西市大和西4-15-10	06-356-2188 0727-94-8227	
昭和25年	森 島 昭 三	5 5 0 6 3 1	大阪市西区立売堀1-2-5 大阪森島商店株 (自) 奈良市百楽園3-11-5	06-532-4081 0742-47-8707	
昭和25年	山 田 昭 児	1 9 7	(自) 東京都秋川市草花2098-25	0425-59-3949	
昭和25年	平 井 貞 男	5 2 0 5 2 0	大津市園城寺町 園城寺 (自) 大津市中央1-8-26	0775-22-2238 0775-23-1613	
昭和26年	水 野 義 男	6 5 0	神戸市中央区山手通4-10-30 あさひや化粧品店 (自) 神戸市中央区山手通4-10-30	078-221-7541 078-221-7541	
昭和26年	西 田 稔	5 2 4 522-02	滋賀県守山市守山 滋賀県立守山高校 (自) 彦根市高宮町1189	0775-82-2287 0749-23-1067	
昭和26年	下 西 辰 男	6 0 2 6 0 2	京都市上京区立売通淨福寺西入2丁目上ル姥ヶ北町816 下西染工場(自営) (自) 京都市上京区立売通淨福寺西入2丁目上ル姥ヶ北町816	075-451-1129 075-451-1129	
昭和26年	堀 井 要 壇	6 0 1 6 0 1	京都市南区久世中久世町1-79 堀井疊店(自営) (自) 京都市南区久世中久世町1-79	075-931-0322 075-931-0322	
昭和26年	清 水 裕	5 5 0 5 4 5	大阪市西区南堀江3-10-6 清水産業株 (自) 大阪市阿倍野区旭町3-1-1	06-534-4061 06-532-4081	
昭和26年	中 西 寛	5 5 0 5 5 0	大阪市西区轟本町3-5-21 大商ユタカ商店 (自) 大阪市西区轟本町3-5-21	06-445-0848 06-445-0848	
昭和26年	竹 内 孝 三	6 1 6	(自) 京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町20-27	075-871-8284	
昭和27年	瀧 口 忠 夫	6 0 0 6 0 0	京都市下京区室町万寿寺角 濑口商店(自営) (自) 京都市下京区室町万寿寺角	075-351-2438 075-351-2438	
昭和28年	寺 元 弘	5 2 0 5 2 0	大津市馬場3-1-5 寺元鉄工所 (自) 天津市馬場3-1-5	0775-25-3845 0775-25-3845	
昭和28年	國 富 順 也	6 0 5	(自) 京都市東山区栗田口三条坊町19の1 ヒューマンズウェル京都207号	075-525-1431	顧問

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和28年	村山 幹夫	107 241	東京都港区赤坂2-17-58 福住ビル2F ニッポン(株) (自) 横浜市旭区若葉台1-12-803	03-3585-3050 045-921-4193	
昭和28年	西堀 龍雄	329-02	栃木県小山市栗の宮1452 西堀酒造(株) (自) 栃木県小山市栗の宮1452	0285-45-0035 0285-45-0035	
昭和28年	松本 欣二	530 662	大阪市北区東天満2-6-9 南森町中央ビル内 サカタインクス (自) 西宮市甲陽園本庄町7-23	06-356-2026 0798-72-6377 075-211-7131	
昭和28年	赤井 一夫	600 573	京都市下京区四条通東洞院東入ル立売西町60 日生ビル 京たから(株) (自) 松本市香里園山の手町2-53	075-211-7131 0720-31-3140	
昭和28年	加藤 草嗣	917 917	福井県小浜市川崎1-3-2 若狭湾観光 (自) 福井県小浜市小浜津島3 マンション若狭302	0770-52-3113 0770-53-3280	
昭和28年	長谷川 和之	607	琵琶湖汽船(株) (自) 京都市山科区北花山山田町87-1		
昭和29年	北尾 元載	690 690	松江市白湯本町71 (株)山陰エージェント (自) 松江市管田町138-7	0852-27-3110 0852-23-6902	
昭和29年	筒井 弘	558 546	大阪市住吉区可代西6-20 佐々木ホウダ(株)住吉工場 (自) 大阪市東住吉区東田辺1-4-16	06-672-0600 06-628-5784	
昭和29年	勝山 實	203 203	東久留米市南町4-8-5 日正パック(株) (自) 東京都東久留米市下里2-13-7	0424-74-4511 0424-72-3080	
昭和29年	小野木伸	617	(自) 長岡京市長法寺中畠8-37	075-952-1216	副会長
昭和29年	村井 利康	543	(自) 大阪市天王寺区城南寺町6-31 (自営) 淨心苑ビル303	06-763-0519	
昭和29年	北川 忠	510	四日市倉庫(株) (自) 三重県四日市市高花平1-1-114	0593-53-5211 0593-21-0349	
昭和30年	竹村 栄造	607	(自) 京都市山科区御陵原西町45	075-581-0382	
昭和30年	湯川 長保	600 617	京都市下京区四条通東洞院 日生ビル 宝酒造(株) (自) 向日市上植野町南開34-20	075-241-5111 075-921-2655	副会長
昭和30年	園 英明	611 520	宇治市槇島町目川173 タカラ貨物 (自) 大津市南滋賀町3-25-5	0774-20-0761 0775-24-6921	
昭和30年	内田 文章	516 516	伊勢市大湊町1222-91 内田造船(株)鳥羽ドック (自) 伊勢市藤里町698-3	0596-36-0155 0596-28-0094	
昭和30年	黒田 方辰	690 699-11	松江市母衣町55 県教育会館内 山陰ファミリー保険 (自) 島根県大原郡加茂町加茂中183	0852-24-2388 085449-6335	
昭和31年	浅田 孝	530 660	大阪市北区中之島5-3-68 ロイヤルホテル (自) 尼崎市浜田町3-88-11	06-448-1121 06-417-6261	
昭和31年	竹田 和彦	102 249	東京都千代田区六番町6 日本移動通信(株) (自) 逗子市久木4-14-8	03-3263-5312 0468-71-8268	
昭和31年	松崎 雄一	509 569	高槻市須賀町59-6 松崎商店(株) (自) 高槻市日吉台5番町11-7	0726-71-5725 0726-88-5030	
昭和31年	加藤 健雄	582	(自) 柏原市大塚2-6-2-202	0729-72-2251	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和31年	加畠 哲夫	600 617	京都市下京区室町仏光寺上ル 市田(株)京都支店 (自) 長岡京市滝の町2-4-14	075-361-3171 075-951-2888	年度代表
昭和31年	原田 貴三	615 615	京都市西京区桂良町17-2 原田商店 (自) 京都市西京区桂良町17-2	075-381-2325	
昭和31年	岩波 春喜	101 340	東京都千代田区猿楽2-8-16 (株)アブリコット (自) 埼玉県草加市旭町3-3-14-406	03-3294-7511 0489-36-8518	年度代表
昭和32年	小野 博善	603 603	京都市北区小山西上総町15 オクマ通商(株) (自) 京都市北区小山西上総町15	075-491-1370 075-491-1389	
昭和32年	脇方 勇	140 276	東京都品川区東品川1-37-3 (株)トキヨーパッカー内 イワテプリミート(株) (自) 千葉県八千代市大和田新田452-59	03-3472-1281 0474-59-2125	
昭和32年	阪田 良之助	520-11 520-11	滋賀県高島郡高島町勝野1750 大溝工業(株) (自) 滋賀県高島郡高島町勝野1565	0740-36-0030 0740-36-0011	幹事
昭和32年	田畠 良夫	659	資生堂明石支店 (自) 肯屋市翠ヶ丘町21-16	078-627-3221 0797-23-3066	
昭和32年	森口 迪治	194 194	東京都町田市小川3-4-16 多摩電子サービス (自) 東京都町田市小川3-4-16	0427-95-7941 0427-96-8290	
昭和32年	六嶋 博司	553 563	大阪市福島区福島4-3-22 大阪日産自動車(株) (自) 池田市伏尾台3-2-22	06-446-2130 0727-52-5282	
昭和33年	浅井 清治	616 616	京都市右京区嵯峨ふし原町20-30 更千(株) (自) 京都市右京区嵯峨ふし原町20-30	075-881-1116	
昭和33年	南 昌吾	577 636-01	東大阪市高井町西6-31 黒野精版(株) (自) 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺2-6-48	06-783-3031 07457-5-2116	
昭和33年	内田 順己	600 610-11	京都市下京区四条通東洞院 日生ビル 宝酒造(株) (自) 京都市西京区御陵大枝山町6-8-17	075-241-5111 075-333-1933	会計監事
昭和33年	畠山 純一	663 636-01	西宮市津門大箇町8-39 世界長ゴム(株)化成品部 (自) 奈良県生駒郡斑鳩町小吉田2-11-21	0798-26-5724 07457-4-1837	
昭和33年	大塙 享	105 180	東京都港区新橋1-18-16 日生新橋ビル ニッセイリース(株) (自) 東京都武蔵野市中町3-17-15-207	03-3593-3708 0422-54-4890	
昭和33年	八神 弘雄	460 458	名古屋市中区丸の内3丁目2番29号 八神国際貿易(株) (自) 名古屋市緑区神沢2-612	052-962-3811 052-877-0222	
昭和33年	庄山 章信	910 919-06	福井市濱町15-8 (株)フェニックス出版 (自) 福井県坂井郡金津町春宮2丁目2番40号	0776-35-7866 0776-73-0446	
昭和33年	矢野 功	540 665	大阪市東区京橋3-37 大林ビル25階 光世証券 (自) 宝塚市清荒神町2-18-2	06-943-6770 0797-85-0454	
昭和33年	加藤 智	519-05 516	三重県度会郡小俣町元町1648-10 大東自動車(株) (自) 伊勢市二俣4-1-9	0596-23-1155 0596-22-1536	
昭和33年	江原 裕明	709-45	(自) 岡山県苫田郡鏡野町薪森原7685 (自営)	08685-4-2604	
昭和33年	伊藤 竹美	104 154	東京都中央区銀座8-8-5 大陽ビル4階 三勝ハウジング (自) 東京都世田谷区下馬2-44-15 ザ・オーパークマンション405	03-5568-0471 03-3418-5346	
昭和33年	北村 久弥	541 612	大阪市中央区高麗橋1-5-9 内藤証券(株) (自) 京都市伏見区深草下川原町1-1 コトハイツC棟326	06-201-2321 075-641-7519	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和34年	市村敏昭	596 621-02	高槻市大畑町23-12 株栗田工務店 (自) 亀岡市本梅町平松谷ヶ奥1-29	0726-96-2434 07712-6-3899	
昭和34年	杉本茂雄	520	(自) 大津市千町3-830-2	0775-37-1451	幹事長
昭和34年	龍村和憲	612 612	京都市伏見区桃山町松平筑前10-1 タカラ物産(株) (自) 京都市伏見区川東町2-20	075-601-6267 075-621-3649	年度代表
昭和34年	中島俊一郎	550 540	大阪市中央区淡路町3-16 ナカボ(株) (自) 大阪市中央区十二軒町7-15 コーファセントラル702	06-202-2555 06-763-4386	会計監事
昭和34年	岡田光雄	604 600	京都市中京区東洞院通錦上ル 株大盛証券 (自) 京都市下京区若宮通六条上ル	075-221-5080 075-351-3884	会計事
昭和34年	安藤学	601 615	京都市南区上鳥羽尻町10 城東高周波京都工場 (自) 京都市西京区上桂森上町11-26	075-661-1691 075-391-9314	
昭和34年	大野準一郎	530 573	大阪市北区中之島3-6-32 株アサヒスチール (自) 枚方市楠葉花園町5-4-1206	06-443-5281	
昭和35年	伊藤章司	176 176	東京都練馬区田柄1-10-27 エース商会 (自) 東京都練馬区田柄1-10-27	03-3930-8481	
昭和35年	内貴康夫	650 662	神戸市中央区海岸通8 神港ビル 株大洋開発 (自) 西宮市神原1-3	078-333-1788 0798-74-0093	
昭和35年	松尾武嗣	610-01	(自) 京都府城陽市久世南垣内93	07745-2-2029	
昭和35年	岩崎匡利	656-15	酒類販売(自営) (自) 兵庫県津名郡一宮町江井3040	0799-86-0037	
昭和35年	和田久雄	164	健康保険組合 (自) 町田市東玉川学園1-31-16	03-3244-4259 0427-28-7214	
昭和35年	山添敏雄	601 603	京都市南区吉祥院石原京道町1-1 光伝導機(株) (自) 京都市北区出雲路松の下町28	075-661-0517 075-231-6673	
昭和35年	榎本昌浩	650 651-11	神戸市中央区東町123-1 大森廻漕店輸入部 (自) 神戸市北区南五葉4-1-5	078-391-7205 078-592-4489	年度代表
昭和35年	丸山信吾	652 662	神戸市兵庫区大開通9-1-14 (株)トヨタカローラ兵庫 (自) 西宮市六軒町12-3	078-576-5110 0798-74-1345	
昭和35年	佐野潤一	600 600	京都市下京区西七条東石ヶ坪町50 京都食品製造所 (自) 京都市下京区西七条東石ヶ坪町50	(FAX) 075-313-1077 075-313-1076	
昭和35年	小山隆治	530 674	大阪市北区芝田町2 かっぱ横町 バスナック sunny side (自) 明石市二見町東二見802-1 アルス明石東二見604	06-373-0597 078-941-7327	
昭和35年	大西治	460 489	名古屋市東区東新町10-1 中部電力工務部 (自) 濑戸市すみれ台1-26	052-951-8211 0561-48-2734	年度代表
昭和36年	田沢明	010 010	秋田市八橋本町1丁目1-32 八橋ビル (有)るつ基糸研究所 (自) 秋田市外旭川字前谷地53-1	0188-65-2780 0188-45-0470	
昭和36年	梅岡克次	520	梅岡印刷(自営) (自) 大津市平津1-20-1	0775-37-3737	
昭和36年	北野進	559 614	大阪市住之江区南港東5-1-2 高島屋関西流通センター内 (株)タフ (自) 京都府八幡市橋本愛宕山1-1	06-614-5451 075-981-0464	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和36年	森景経世	597 569	貝塚市脇浜678 (株)大阪製鎖造機 見積課 (自) 高槻市松ヶ丘4-21-9	0724-31-6225 0726-88-5352	幹事
昭和36年	菊岡慎一	610-01	製茶業(自営) (自) 京都府城陽市上津屋野上14-1	07745-2-2689	幹事
昭和36年	友高敏夫	541 533	大阪市中央区高麗橋1丁目6-6 (株)ナショナル証券大阪支店 関西ブロック担当 (自) 大阪市東淀川区菅原6-12-17	06-202-6421 06-329-5849	
昭和36年	有本豊	155	(自) 東京都世田谷区代田3-10-13		
昭和36年	神原頭次	102 241	東京都中央区日本橋2-15-15 (株)宝酒造東京支店 販売部 (自) 横浜市旭区鶴ヶ峰2-7-19 鶴ヶ峰ビューハイツ601	03-3271-4431	
昭和36年	上野洋一	536	大阪市城東区成育5-22-9 (株)サカエ金属工業 (自) 大阪府和泉市鶴山台3-1-43	06-933-5101 ~5106 0725-45-3830	
昭和37年	本荘崇郎	460 466	名古屋市中区上前津2-2-22 愛知マツダ(株) (自) 名古屋市昭和区五軒町19-10 グランドメゾン南山204号	052-331-7130 052-831-6001	
昭和37年	阪本厚	537 546	大阪市東成区深江町1丁目17-9 (株)関西ワードサービス (自) 大阪市東住吉区北田辺町6-12-18	06-622-7510	
昭和37年	中山俊彦	236 247	横浜市金沢区堀口120 (株)日平トヤマ横浜工場 (自) 横浜市栄区大山町24-16	045-781-2111 045-893-8707	年度代表
昭和37年	中田康夫	540 565	大阪市中央区南久宝寺町1-5-7 根来 (自) 吹田市古江台1-10-12	06-262-1111 @06-262-9945 06-872-4971	
昭和37年	三方茂	558 598	堺市陶器北1699 大阪日産自動車(株)佐野貝塚支店 (自) 泉佐野市大西1丁目21-1	0724-37-3323 0724-62-0067	
昭和37年	普門洋一	560	(株)ヤナセ大阪支店 (自) 豊中市本町6-2-37	06-797-1171 06-852-4451	
昭和37年	能勢啓	150 206	渋谷区渋谷2-11-13 松田ビル3F (株)ミクロネシアニアイ (自) 多摩市貝取2丁目2-2-18-101	03-3406-6191 0423-71-7417	
昭和37年	中川雅夫	565	豊中市新千里北町3-4 B25-307 西田設備工業 (自) 豊中市新千里北町3-4 B25-307	06-832-3445 06-832-3445	
昭和37年	松村晴夫	780 781-02	高知市桜井町2-1-22 (株)光事務機 (自) 高知市瀬戸東町2-43	0888-82-1340 0888-41-6406	
昭和37年	鉄谷高久	663	(自) 西宮市下大市東町59-1	0798-53-2738	
昭和37年	野田義男	543	(株)タムラ産業 (自) 大阪市天王寺区上汐5-1-2	06-773-4104 06-772-0579	
昭和37年	清水治	651 673	神戸市中央区布引町4-3-8 谷川ビル2F (株)協栄リンクス (自) 神戸市西区玉津町今津567-2	078-222-1866 078-914-2588	
昭和38年	広瀬恒善	655	(自) 神戸市垂水区大町5-3-13	078-705-2470	
昭和38年	路次二郎	160 236	東京都新宿区西新宿3-20-1 ロッテ商事(株)菓子営業部 (自) 横浜市金沢区並木1-10-16-103	03-3375-1211 045-774-3255	
昭和38年	大西義則	574 573	大東市三箇6-15-20 (株)ファイブメンテサービス (自) 枚方市西船橋2-46-10	0720-73-5575 0720-68-7225	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和38年	西村泰夫	107 520	東京都港区赤坂3丁目 住友生命ビル 富士ゼロックス(株) 人材開発課 (自) 大津市横木1-11-3-413	03-3585-3211 0775-22-0564	
昭和38年	鏡敏光	300	(自) 茨城県土浦町中神立町8-3 日本板硝子社宅136号	0298-32-1153	
昭和38年	寺田英二	166 181	東京都杉並区高円寺南3-37-1 花の木(自営) (自) 三鷹市井の頭2-32-3	03-3315-1238 0422-47-1196	
昭和38年	入江豊	606	入江工務店(自営) (自) 京都市左京区田中西大久保46	075-781-5703	
昭和38年	中村泰博	980 980	仙台市青葉区一番町4-11-1 (株)141 (自) 仙台市青葉区上杉2-4-32-501	022-268-0141 022-261-7925	
昭和38年	増谷昭夫	659	(自) 芦屋市三条町15-11	0797-31-2705	
昭和38年	平田隆司	604 565	京都市中京区寺町通御池上ル 日宝御池ビル アルキオーネメント(株) (自) 吹田市山田西2-8 A-8-816	075-255-6737 06-875-2819	
昭和38年	日野義樹	530 640	大阪市北区東天満2-6-7 高橋ビル東8号館8F 微電広営業部 (自) 和歌山市吹上4-4-46	06-354-1181 0734-25-6389	年度 代表
昭和38年	前田和男	671-11 675	姫路市広畑区高浜町2-25 オートラマライフ兵庫 (自) 加古川市野口町野口119-99	0792-36-2101 0794-26-6994	
昭和39年	池畠勇	105 240-01	東京都港区浜松町2-4-1 (株)日本チバガイギー (自) 横須賀市秋谷2-21-23	03-3435-5261 0468-57-8103	
昭和39年	加野豊司	569 520-21	高槻市芥川町2-7-1 摂津信用金庫芥川支店 (自) 大津市野郷原2-6-15	0726-81-1871 0775-45-6797	年度 代表
昭和39年	伊藤青悟	471 488	豊田市神池町2-1236 (株)丸和電子化学 (自) 尾張旭市緑ヶ丘100-8 本地ヶ原住宅3-202	0565-80-3245 0561-53-3425	
昭和39年	鷹野真臣	914 914	福井県敦賀市若泉町1 (株)栗田工業 (自) 福井県敦賀市清水町2-13-13-302	0770-25-0389 0770-22-3587	
昭和39年	峰尾元庸	530 630	大阪市北区大融寺町2-21 ニュープラザビル 光映出版(株) (自) 奈良市四条大路1-18-37	06-311-5028 0742-33-0091	年度 代表
昭和39年	中原克己	450 512	名古屋市中村区名駅4 積水化学工業(株) 中部支店 (自) 四日市市あかつき台1-3-54	052-583-6101 (3201) 0593-38-0862	
昭和39年	赤川雅俊	102 167	東京都千代田区3番町28-7 赤川英K.K. (自) 東京都杉並区西荻南4-20-12	03-3265-2301 03-3332-5328	
昭和40年	廣田恒夫	542 615	大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 (株)大丸心斎橋店 (自) 京都市右京区西京極南衣手町53	06-271-1231 075-315-1580	
昭和40年	石本君夫	553 553	大阪市福島区野田2-21-13 (株)石本メリヤス (自) 大阪市福島区野田2-21-6	06-462-3901 FAX 3902 06-461-0902	幹事
昭和40年	岡美知雄	690 683	松江市母衣町55-4 松江市商工会議所 (自) 米子市両三柳4603-15	0852-23-1616 0859-29-4440	
昭和40年	山田義弘	661	(自) 尼崎市潮江1丁目4-3-1007	06-499-3624	
昭和40年	内保忠勝	510 515-25	四日市市六呂見633 東海経連商事(株) (自) 三重県一志郡一志町庄村316-1	0593-46-7500 0592-93-6080	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和40年	津崎晴功	541 617	大阪市中央区博労町3-6-7 キヨーラク(株)大阪営業所 (自) 長岡京市友岡西山18	06-244-0471 075-951-7727	
昭和40年	木村正	020	(株)木村実業 (自) 盛岡市紺屋町4-28	0196-54-2737	
昭和40年	池田宜郎	530 673	大阪市北区西天満2-4-4 堂島関電ビル (株)積水化学工業 (自) 明石市中崎町1-1 マリンパレス明石702	06-365-4188 078-917-2416	幹事
昭和40年	西田稔	103 270-13	東京都中央区日本橋堀留町1-2-10 (株)新商 (自) 千葉県印旛郡印西町小倉台3-1-17-506	03-3231-0711 0476-47-0428	
昭和40年	稻垣謙介	542 560	大阪市中央区南船場1-1-17-28 ポプラ(株) (自) 豊中市東泉丘1-5-3-508	06-261-5171 06-849-1849	幹事
昭和40年	村田典彬	649-73 565	和歌山県橋本市隅田町真土39 小川工業企画室 (自) 吹田市春日2丁目1-4-707	0736-32-2225 06-386-7916	
昭和40年	丸山英敏	530 562	大阪市北区西天満2-10-2 幸田ビル10F 丸山法律事務所 (自) 箕面市桜ヶ丘3-10-4	06-365-6188 0727-23-4019	幹事
昭和41年	阪本章	550 550	大阪市西区九条1-11-10 花屋(自営) (自) 大阪市西区九条1-11-10	06-582-2110	
昭和41年	鷺北東	532 583	大阪市淀川区東三国5-5-28 (株)東洋精器工業 (自) 大阪府南河内郡太子町春日1438-8	06-392-5721 0721-98-1086	年度 代表
昭和41年	堀内正一	543 590-01	大阪市天王寺区上本町8-45 堀内株式会社 (自) 堺市桃山台2-18-5	06-772-4866 06-772-7665 0722-99-3649	
昭和41年	大宮久	600 612	京都市下京区四条通東洞院 日生ビル (株)宝酒造 (自) 京都市伏見区桃山長岡越中北町11	075-241-5100	
昭和41年	森岡正宏	100 133	東京都千代田区永田町2-1-1 衆議院第二議員会館423号 奥野誠亮事務所 (自) 東京都江戸川区西小岩3-35-4-501	03-3508-7423 03-3672-1800	幹事
昭和41年	寺西勲	460 454	名古屋市中区門前町3-8 潰戸信用金庫名古屋支店 (自) 名古屋市中川区広田町2-39	052-332-2361 052-353-3214	
昭和42年	長友毅嘉	887	(自営) (自) 日南市園田1-9-51	0987-22-2731	
昭和42年	新見康則	602 611	京都市上京区烏丸上長者町 K B S 京都放送 (自) 宇治市小倉町西山48-32	075-431-1111 0774-20-3803	
昭和42年	桜田東士	730	広島市中区鉄砲町5-16 サンケイビル8F (株)日商エレクトロニクス広島営業所 (自) 広島市中区上八丁堀8番26号 メープル八丁堀1006号	082-227-2981 082-228-3958	幹事
昭和42年	赤尾正明	500	(自営) (自) 岐阜市日の本町2-1	0582-51-6576	
昭和42年	松本洋	330 310	大宮市宮原町2-47-9 (株)松下电工埼玉営業所 (自) 茨城県水戸市元吉田町1762	0486-65-2131 0486-51-0473	
昭和42年	平井秀彦	806 805	北九州市八幡西区筒井町5-5 安田火災海上保険(株)八幡支店 (自) 北九州市八幡東区清田1-4-24	093-622-0707 093-652-0775	
昭和43年	柴崎竜	281 299-31	千葉市幕張町3-7716 小鳴塗料(株) (自) 千葉県土気町1809-154	0472-74-1721 04757-4-5661	
昭和43年	高橋潔	162 108	東京都千代田区こうじ町1-1 (株)ワコール インテリア事業部 (自) 東京都港区芝浦4-16-25 ワコール浜風ハイツ701	03-3239-1245 03-3453-9291	年度 代表

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和43年	富 田 孝 治	1 0 3 2 7 8	東京都中央区日本橋小伝町2-3 川島ビル3F (株)王子化工 (自)千葉県野田市山崎1594-124	03-3639-9715 0471-25-5259	
昭和43年	武 田 正 宏	6 8 3 6 8 3	米子市上後藤5-4-5 (株)赤名水産 (自)米子市後藤5-4-5	0859-44-1955 0859-24-0776	
昭和43年	江 花 錠 夫	9 6 5	議会事務局 会津若松市議会議員 (自)会津若松市東山町大字石山小字慶山758-1	0242-27-0074 0242-27-0509	
昭和43年	村 上 和 也	5 7 7 6 3 1	東大阪市足代2-1 (株)近鉄不動産布施営業所 (自)奈良市西登美ヶ丘1-12-17	06-783-6581 0742-44-9895	
昭和43年	中 島 靖 之	4 3 0 4 8 5	浜松市向宿二丁目1-7 ピュアビル3F (株)三晃金属工業浜松営業所 (自)小牧市古雅4-16-9	053-462-4330 0568-79-7213	
昭和43年	川 上 也 須 予	6 5 4	(自)神戸市須磨区高倉台2-10-1	078-734-0515	
昭和44年	浜 崎 潔	5 2 0 5 2 0	大津市長等3-2-24 浜崎鉄砲火薬店 (自)大津市国分2-362-6	0775-24-2751 0775-34-4826	
昭和44年	山 本 克 美	2 7 7	京都市上京区七本町 とようけ屋山本 (自)千葉県東葛飾郡沼南町大津ケ丘3-1-8-503	075-462-1315 0471-93-4334	
昭和44年	宮 城 博	4 5 0 3 3 2	名古屋市中村区名駅4-27-23 名古屋三井ビル東館7F (株)大陽石油 (自)川口市青木2-3-25 エビハラサングリーン川口202	052-581-3521 0482-58-4073	
昭和44年	松 平 忠 正 (旧姓 加藤)	619-02	(株)松下精工 住宅空調事業部 (自)相模郡木津町木津川台1-7-1	06-949-1521 07747-2-9408	年度表
昭和44年	洲 濱 柚 一	8 0 3	北九州市小倉北区高浜1丁目4-30 岩谷産業KK 北九州営業所 (自)北九州市小倉南区中恒二丁目10-2	093-521-5431 093-962-1718	年度表
昭和44年	藤 野 章	5 4 1 5 7 3	大阪市西区西本町2-3-6 山岡ビル 橋本化成(株)大阪営業所 (自)枚方市茄子作北町27-1	06-534-7707 0720-54-5813	
昭和44年	福 益 敏	6 0 6 6 0 6	京都市左京区下鴨蓼倉町22-17 タックスプランニングtacs (自営) (自)京都市左京区下鴨蓼倉町22-17	075-723-0590	
昭和44年	塚 本 和 夫	5 6 4	広和株式会社 (自)吹田市千里山西5-13-3	06-462-7155 06-384-4855	
昭和45年	村 井 富 雄	9 2 3 9 2 3	小松市能美町タ-154 (株)梯コンクリート (自)小松市浮柳町乙111-1	0761-23-1593 0761-22-8232	
昭和45年	金 沢 重 光	4 6 0 4 6 8	名古屋市中区錦2丁目15-22 あさひ銀行B L内 (株)蝶理 名古屋支店 (自)名古屋市天白区島田2-301 島田橋住宅2-712	052-202-2607 052-803-7371	
昭和45年	清 水 正 俊	5 4 0 5 7 2	大阪市中央区城見2-1-61 ナショナルタワー26F (株)松下電器産業 リビング営業本部商業営業部 (自)寝屋川市香里南之町21-20-703	06-949-2120 0720-34-5035	
昭和45年	新 井 喜 範	6 0 0	京都市下京区五条通西洞院東入ル鍛冶町3 京阪シルク (自)京都市下京区五条通西洞院東入ル鍛冶町3	075-351-4208	幹事
昭和45年	田 中 重次郎	5 5 8 5 3 1	大阪市住吉区清水丘2-23-18 (自)大阪市北区大淀中1-12-7 インペリアル大淀403	06-675-8792 06-453-9150	幹事
昭和45年	高 橋 滋	6 0 0 520-21	京都下京区四条高倉 (株)大丸京都店外商 (自)大津市瀬田3-20-21	075-211-8111 0775-45-6845	幹事
昭和45年	荒 井 英 之	5 0 5 5 0 5	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉 (株)佐合木材造園部 (自)美濃加茂市田島町2-1-16	05742-5-3233 05742-6-1744	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和45年	服 部 周 三	5 5 3 610-01	大阪市福島区3-1-59 イカリビル5F 日立造船エンジニアリング (自)城陽市寺田尼塚14-22 桜ヶ丘団地	06-453-6618 07745-3-5066	
昭和45年	小 林 徹	5 2 0 5 2 0	大津市におの浜3-4 オブテックス (自)大津市千石台7-7	0775-24-1900 0775-25-7359	
昭和46年	稻 垣 茂 春	8 7 0 870-11	大分市中央町2-9-24 三井生命大分ビル内 (株)栗田工業大分営業所 (自)大分市松ヶ丘85-3	0975-34-4367 0975-41-1555	年度代表
昭和46年	大 橋 行 正	3 2 3 329-01	栃木県小山市大塚480 (株)昭和アルミ (自)栃木県都賀郡野木町大字若林53-12	0285-30-1476 0280-56-0313	
昭和46年	佐々木 讓	666-01	(株)クラレ産業資材販売2部 (自)川西市水明台1-1-139	03-3277-3111 0727-92-5463	
昭和46年	鈴 木 文 治	1 0 0 5 9 1	東京都千代田区大手町1-1-2 あさひ銀行本店営業部 (自)千葉県茂原市国府関1843-4	03-3287-2111 0745-25-7789	
昭和46年	中 田 二 三 男	4 7 1 444-21	豊田市豊田町1 (株)トヨタ自工本社 「トヨタ工業高等学園」で呼びだす (自)岡崎市上里町3-20-25	0565-28-2121 0564-22-3034	
昭和46年	宮 川 滋	6 0 0 6 1 6	京都市下京区高倉 (株)大丸京都店 (自)京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川20-54	075-211-8111 075-872-0937	
昭和47年	岡 田 一 夫	9 2 3 9 2 3	小松市今江町9-574 岡田鉄工 (自)小松市細工町33	0761-22-0519 0761-22-5800	
昭和47年	山 岸 進	5 4 2 5 2 3	大阪市南区西清水8 (株)大丸心斎橋店クレジット業務 (自)近江八幡市篠原町3-2-14	06-561-3461 0748-33-8224	
昭和47年	横 山 基 嗣	675-01 6 5 5	兵庫県加古郡播磨町新島23 (株)王子製作所 (自)神戸市垂水区霞ヶ丘1-5-19	0794-37-1221 078-708-9981	幹事
昭和48年	小 島 康 正	5 7 9 630-02	東大阪市日下町7-1-7 東孔舎衛小学校 (自)生駒市小瀬町659-5	0729-88-1471 07437-6-6026	
昭和48年	山 口 俊 郎	5 6 4	(株)長瀬産業人事部 (自)吹田市江坂町5-15-7 サンライス緑地公園501	06-535-2071 06-339-4959	
昭和48年	若 菜 英 作	5 4 1 6 5 8	大阪市中央区今橋4-5-15 (株)レナウン大阪支店 ヘンリーコットンズ事業部 (自)神戸市東灘区住吉山手8-7 シャルマンコーポ御影204	06-202-1361 078-842-1751	年度代表
昭和49年	中 村 喜 光	4 2 4 4 2 4	清水市島崎町6-15 (株)事代丸漁業 (自)清水市草薙350-51	0543-53-3461 0543-47-0847	
昭和49年	五十嵐 純 也	5 7 8 5 7 2	東大阪市ひょうたん山郵便局 ひょうたん山郵便局 (自)大阪府寝屋川市豊野町4-7	0729-85-4393 0720-22-9418	
昭和49年	小 松 研 一	889-21 8 8 0	宮崎市大字熊野宇藤兵衛中洲 宮崎県総合青少年センター (自)宮崎市小松台東1-14-12	0985-58-1711 0985-48-0788	
昭和49年	植 西 信 子 (旧姓 河林)	6 0 7	(自)京都市山科区四ノ宮鎌手町21-7	075-592-7409	
昭和49年	太 田 実	1 0 8 2 4 5	東京都港区芝4-8-2 松下電工 (自)横浜市戸塚区泳沢510-601	03-3454-6162 045-862-1372	年度代表
昭和49年	長 友 清 利	8 8 0 889-21	宮崎市橘通西1-1-1 宮崎市役所学校教育課 (自)宮崎市大字熊野10569	0985-25-2111 0985-58-0632	
昭和49年	山 形 彰 人	9 2 3	山形損害保険事務所 (自営) (自)小松市南浅井町85 ハ-5	0761-21-7228	年度代表

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和49年	山本晃弘	215	伊藤忠商事 (自)川崎市麻生区高石4-17-1-720	044-953-6190	
昭和49年	楠戸俊宣	710 710	倉敷市大島365 倉敷ビバリーテニスクラブ (自)倉敷市羽島733-7	0864-25-0525 0864-22-7198	
昭和49年	寄藤辰夫	650 650	神戸市中央区元町通3-9-4 しぐれ茶屋 (自)神戸市中央区中山手通4丁目17-6-804	078-331-0070 078-271-7393	
昭和49年	花森節夫 (旧姓西村)	675-01 701-32	兵庫県加古郡播磨町新島23 株王子製作所 (自)和氣郡日生町日生1648	0794-37-1600 0869-72-2506	
昭和49年	山森良枝	612	(自)京都市伏見区稻荷木橋1	075-641-2407	
昭和50年	宮地信行	596 586	岸和田市五軒家町15-10 住友銀行岸和田支店 (自)河内長野市南花台5-24-6	0724-22-3881 0721-63-5543	
昭和50年	鎌田博	015	(自)秋田県本荘市出戸町2番塙138		
昭和50年	植野誠之	107 359	東京都港区元赤坂1-2-3 サントリー株輸入酒部 (自)所沢市上安松252-12	03-3470-1183 0429-94-3091	
昭和50年	早川勝	103 410	東京都中央区日本橋室町1-7-1 株駿河銀行 営業企画部 (自)沼津市真砂町212	03-3279-5525 0559-62-3022	
昭和50年	上田達彦	651 662	神戸市中央区磯上通8-3-7 明治生命神戸支店 (自)西宮市仁川百合野7-13 明生仁川百合野ハイムB-101	078-231-4501 0798-54-1941	
昭和50年	梅田雅昌		不 明		
昭和51年	湊良三	160 112	東京都新宿区信濃町20 住友銀行信濃町 (自)東京都文京区千石2-20-3-172	03-3274-1080 03-3944-8184	
昭和51年	坂本雄二	615 601-02	京都市西京区かたぎ原芋町21-2 株北桑木材京都営業所 (自)京都府北桑田郡京北町周山下寺田18-4	075-391-1585 07715-2-0611	
昭和51年	畠敏	028-32	岩手県稗貫郡大迫町大迫3-170 株畠製材所 (自)岩手県稗貫郡大迫町大迫3-170	0198-48-3620	
昭和51年	武尾豊	532 583	大阪市淀川区西中島4-1-1 株日清食品統轄本部 人事課 (自)羽曳野市高鷲4-9-4-416 藤井寺グリーンハイツ	06-305-1111 0729-38-8016	年 度 代 表
昭和51年	湊裕子 (旧姓林)	180	(自)東京都文京区千石2-20-3-172	03-3944-8184	
昭和51年	坂本美恵子 (旧姓浜松)	601-02	(自)京都府北桑田郡京北町周山下寺田18-4	07715-2-0611	
昭和52年	山口忠博	520 525	大津市御陵町4-1 滋賀県文化体育振興事業団県立スポーツ会館 (自)草津市上笠町4-30-25	0775-22-0301 0775-63-5570	
昭和52年	荻野義明	107 563	東京都港区元赤坂1-2-3 株サントリー (自)池田市伏尾台3-1-25	03-3470-1208 0727-51-5360	幹 事
昭和52年	中野貴夫	103 124 399-02	東京都中央区日本橋小舟5-1 株長瀬産業合成樹脂第3部 (自)東京都葛飾区奥戸2-8-10-809 長野県諏訪郡上諏訪町 下諏訪町役場	03-3665-3234 03-3697-8410 0266-27-1111 内線321 0266-72-8837	年 度 代 表
昭和52年	矢島正恒	391-02	(自)長野県茅野市豊平2718-1		

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和52年	河畠宜伸	541 604	大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル スミセイ・リース株式会社 (自)京都市中京区西ノ京馬代町12-36	06-245-6855 075-463-8817	
昭和52年	馬杉淳一	105 272	東京都港区芝浦1-13-10 株ワコール芝店 (自)市川市中山1-28-10 ワコール第2中山社宅102号	03-3325-1171 0473-34-8361	
昭和53年	桶田英俊	550 545	大阪市西区新町3丁目1番31号 株レナウン第二営業所 第四商品課 (自)大阪市阿倍野区阿倍野筋5-3-15	06-543-1361 06-623-8234	年 度 代 表
昭和53年	石鍋寿寛	239 120	横須賀市鴨居3-9-19 觀音崎水産生物研究所 (自)東京都足立区千住宮元町5-7	0468-41-1533 03-3882-7224	
昭和54年	木村俊雄	600 520-21	京都市下京区四条通高倉 大丸京都店外商企画部 (自)大津市瀬田1-26-17	075-211-8111 0775-43-4757	
昭和54年	高橋正樹	651 663	神戸市中央区磯辺通4-2-26 新英路ビル セキスイ化学工業株 (自)西宮市上田中町4-26	078-251-8921 0798-46-5289	
昭和54年	松川信之	448 447	刈谷市幸町2 知立市商工会 (自)愛知県緑南市幸町1丁目59番地	0566-81-0904 0566-48-3141	
昭和54年	森信秀	607 607	京都市山科区西ノ山中臣町20 福田金属 (自)京都市左京区田中上吉川町34-35 メゾン高野206号	075-581-2161 075-721-9875	
昭和54年	村田市郎	101 336	住友銀行お茶の水支店 (自)埼玉県浦和市南浦和3-36-19-102	03-3295-6601 048-885-4540	
昭和54年	小笠原司	020 020	岩手県筑波郡矢幡町岩手流通センター南3-4-20(自) (自)岩手県筑波郡矢幡町岩手流通センター南4-1-19	0196-38-4305 0196-38-5794	
昭和54年	藤井浩	600 612	京都市下京区木屋町通松原上ル2丁目天満橋170 伏見信用金庫 河原町支店 (自)京都市伏見区納所北城堀37-38	075-361-8211 075-631-9550	
昭和54年	幸田龍一	036 036	弘前市在府町36 朝精小学校 (自)弘前市青山2丁目3-8	0172-32-3647 0172-36-6732	
昭和54年	永坂隆明	500 500	岐阜市神田町6-11-1 太平洋証券 (自)岐阜市市橋3-11-17 サンハイツ広瀬110	0582-65-3421 0582-74-2601	
昭和55年	城生清孝	904	(自)沖縄市胡屋6-11-10	098-933-1457	年 度 代 表
昭和55年	小関隆一	104 272-01	東京都中央区銀座5-13-12 株ホクサン東京事業所 (自)市川市塩焼3-11-5 第1パークファミリア105	03-3543-6028 0473-98-2618	
昭和55年	石鍋寿明	567 662	茨木市西駅前町5-1 株協和醸酵工業 (自)西宮市南越木岩町2-2-106	0726-26-1385 0798-71-1644	
昭和55年	益田秀仁	658	神戸市中央区東川崎町1丁目7-2 株神戸阪急 (自)神戸市東灘区御影町石屋字朝后581 メゾン天神309	078-341-2611 078-841-2089	
昭和55年	井頭感	165	山一証券 多摩プラザ支店 (自)東京都中野区鷺ノ宮6-20-1 サニーハイツ203	045-903-1181 03-3825-0827	
昭和55年	根木寛明	543	日本長期信用銀行 ロサンゼルス支店 (自)浜松市上浅田1-12-40	213-629-5777 053-453-7359	
昭和55年	水野正成	640 640	和歌山市園部1133-1 サンキプリン202号 (自) 和歌山市次郎丸78-1	0734-61-7344 0734-55-5073	
昭和55年	玄道秀明	732 731-01	広島市東区光町1-12-16 荣泉広島ビル6F YSテクノシステム (自) 広島市安佐南区緑井7-16-68	082-262-6711 082-870-5315	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和55年	桜井 隆夫	380 399	長野市広瀬743-4 教員住宅 (自)松本市寿白瀬1201-4	0262-39-2719	
昭和55年	北川 浩二	525 520-21	草津市野路町2-2-75-3 松下電器産業エアコン事業生産技術部技術課 (自)大津市神領2丁目5-69	0775-63-5211 0775-45-4939	
昭和55年	上浦 英明		不 明		
昭和56年	池谷 晋	253	住友生命 (自)神奈川県茅ヶ崎市矢畑136-1-104	0467-57-0349	
昭和56年	荒山 元秀	607 527	京都市山科区東野北上町5-22 京セラ本社勤務(K.S.E室) (自)滋賀県八日市札の辻1-3-9	075-592-3851 0748-24-1804	
昭和56年	細見 博	601 610-01	京都市南区西九条河原城12 伏見信用金庫 (自)京都府城陽市寺田榎尻12番地の33	075-672-2111 07745-5-6861	
昭和56年	坂井 俊夫	760 760	高松市番町3-1-1 香川県立高松高校 (自)高松市浜の町60-67-1011	0878-31-7251 0878-51-8542	
昭和56年	中辻 努	588 648	堺市西野237-1 桃山学院大学学長室 (自)和歌山県橋本市小峰台1丁目13-2	0722-36-1181 0736-36-1384	年度代表
昭和56年	中住慎一	720-03 791	広島県沼隈郡沼隈町常石1083 三浦工業株式会社用設計課 (自)松山市辰巳町1-8	0899-79-1111 0899-53-3207	
昭和56年	石田 雄治	135 134	東京都江東区東陽2-2-15 明治生命保険相互会社情報システム部 (自)東京都江戸川区西葛西3-12-15 アーバンハイツ西葛西303	03-5690-6292 03-3687-5762	
昭和56年	内海 久俊	812 816-52	福岡市博多区博多駅東2-13-34 (株)ミサワホームヤマエ ヤマエ久野 熊本市小島市下町523-1	092-473-6261 096-329-1987	
昭和56年	野瀬 正治	541 662	大阪市中央区高麗橋4-6-2 銀泉横堀ビル 住友ビジネスコンサルティング(株) (自)西宮市五月ヶ丘9-21 グランドムール甲陽園302	06-227-2485 0798-72-3468	
昭和57年	目片 雅喜	530 520	大阪市北区曾根崎新地1-1-49 滋賀銀行梅田支店 (自)天津市杉浦9-21	0775-37-2512	
昭和57年	河毛 樹	731-51 738	広島市佐伯区美鈴ヶ丘南1-12-1 広島市立美鈴ヶ丘中学校 (自)広島県佐伯郡甘日市町原1362	0829-28-2161 0829-39-6136	
昭和57年	森 保二	105 227	東京都港区虎ノ門1-1-28 トートビル6F (株)東陶機器東京支社 (自)横浜市緑区市ヶ尾町1481-5 ハイブリッジ107	03-3345-6730 045-974-0289	
昭和57年	林圭介	520 520-30	大津市浜町1-38 滋賀銀行業務推進部 (自)滋賀県栗太郡栗東町大字北中小路365-12	0775-21-2283 0775-54-1451	幹事
昭和57年	林田 尚之		大丸フランス 在フランス		
昭和57年	久保智之	530 577	大阪市中央区久太郎町3-6-8 御堂筋ダイワビル4F 第一企画株式会社 (自)東大阪市森河内623-1	06-241-8651 06-787-5680	
昭和57年	山本 健也		ワコール(株) Flote 14th Floor Nam Tien Mansion 18C TaiKooshing Road Tai Kooshing HONG KONG	001-852-8864 -260	
昭和57年	松山 厚志	103 220	東京都中央区日本橋室町2-2-1 東レ(株) (自)横浜市西区浅間台91-1 東レ横浜社宅A203号	03-3245-5691 045-316-6185	
昭和57年	永野 嶽	520-02 520-02	大津市仰木里1-23-1 北大津高校 (自)大津市仰木	0775-73-5881 0775-72-1914	

卒業年度	氏 名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和58年	杉木 英男	410	住友生命 沼津市営業所 (自)沼津市花園町12-15 花園社宅102	0559-62-1770 0559-26-2779	
昭和58年	小森 進治	530 592	大阪市北区梅田1-11-4-1500 大阪駅前第4ビル15F (株)島精機製作所大阪支店 (自)高石市西取石1-7-23 ウエストロード302号	06-344-0511 0722-63-8247	
昭和58年	和田 学	105-91 247	東京都港区虎ノ門2-1-1 大阪商船三井船舶㈱東京支店 鎌倉市玉縄2-9-19-204	03-3587-7094	
昭和58年	武田 泰一	065 069-01	札幌市西区発寒11条14-1067-13 武田紙器 (自)北海道江別市野幌町15-13	011-664-1155 011-383-6056	
昭和58年	阿部 和久		中日新聞		
昭和58年	松田 弘一	600 520-02	京都市下京区四条通高倉 京都大丸人事部 (自)大津市堅田1-2-74	075-211-8111 0775-73-7549	
昭和58年	田中 秀昭	330 336	大宮市中町3-13-1 住友生命大宮第二ビル (株)東陶機器 大宮営業所 (自)浦和市南浦和3-9-25	048-642-1001 048-887-4615	
昭和58年	高山 一也	352	㈱星光堂 (自)埼玉県新座市東北2-3-6 レジデンス神谷505号		
昭和58年	吉田 寛伸	104 272	東京都中央区八重洲2-3-14 京セラ半導体部品営業 (自)市川市新田5-4-7 カーサ中黒店3045	03-274-1551 03-274-1557 0473-23-1557	
昭和58年	明石 逸二	743 745	山口県光市三井1-7-20 親和紙器(株) (自)山口県徳山市桜馬場3-20-606	0833-71-0020 0834-31-6063	年度代表
昭和58年	貝賀 俊之	652 665	神戸市兵庫区和田崎町1-1-2 三菱電機(株)制御製作所 (自)神戸市垂水区塩屋町1-5-26 コウアハイツ2F-16	078-652-2121 内線2982 078-751-4765	
昭和59年	米村 康弘	862	肥後ファミリー銀行 (自)熊本市画園町下江港3	03-3257-9555 096-379-0225	
昭和59年	松村 熱	108 167	東京都港区港南3-8 森永乳業(株)東京支社特販部 (自)東京都杉並区南荻窪1-42-8 第一都ガーデンハウス1-3	03-5479-4681 03-3333-2185	
昭和59年	河南 潤治	750 751	下関市豊前田町2-8-10 安田火災海上(株) (自)下関市後田町4-23-18 アーバンハイツ405	0832-32-0090 0832-23-0168	
昭和59年	谷口 幸一	103 220	東京都中央区日本橋室町2-2-1 東レビル 東レ(株)東京本社 製品事業部特需課 (自)横浜市西区浅間台91-1 東レ横浜社宅B-308	03-3245-5386 045-324-1986	
昭和59年	前谷 浩	692 683	安来市神田町756-1 足立ビル2F (株)新日本海新聞社 安来支局 (自)米子市彦名町70-3 県営住宅2-303	0854-23-1825 0859-29-8413	
昭和59年	作間 秀樹	579 554	東大阪市池島町6-3-8 池島高校 (自)大阪市此花区春日出北1-9-21	0729-87-3302 06-468-3934	年度代表
昭和59年	松本 収平	640 640	和歌山市中野39-2 松本タンス(自営) 和歌山市大谷845-15	0734-55-4968 0734-51-0955	
昭和60年	伊藤 寛	553	ティップス (自)大阪市福島区玉川2-3-16-807 ユニライフ福島	03-3464-3531 06-441-6468	年度代表
昭和60年	小山 一	796 796	八幡浜市新町3丁目 小山文具店(自営) (自)八幡浜市新町3丁目	0894-24-3188 0894-24-3188	
昭和60年	石鍋 寿久	471 471	豊田市農田町1 技術本部 (株)トヨタ自動車 (自)豊田市農田町523 第3平山農和寮10107	0565-28-2121 0565-28-4080	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和60年	矢野英明	160 228	東京都新宿区西新宿3-4-7 栗田工業(株) (自)相模原市麻溝台8-18-80 サンモール相模202	03-3347-3111 0429-66-0641	
昭和60年	岸本伸司	154	東京都世田谷区弦巻5-27-7 日本中央競馬会競走馬総合研究所 (自)東京都世田谷区弦巻5-27-7	03-3429-6568 03-3429-2311	
昭和61年	川崎五代嗣	602 536	京都市上京区堀川通寺内通4丁目 (株)大日本スクリーン 製造労務課 (自)大阪市城東区鶴野西3-5-41 サイハイツ近江201号	075-414-7123 06-961-7496	
昭和61年	田中義力	471 446	豊田市トヨタ一番地(株)トヨタ自動車 (自)愛知県安城市池浦町池浦98-23 エスペランス池浦A-303	0565-23-2541 0566-77-7087	
昭和61年	今井智	253 251	茅ヶ崎市中海岸3-11-11 (株)シーワークス 藤沢市鵠沼桜ヶ丘1-5-26 レオパレス鵠沼108	0467-74-7766 0466-24-2982	
昭和61年	高下康治	100 154	東京都千代田区大手町1-6-1 (株)協和醸酵 バイオプロダクツ事業部 (自)東京都世田谷区若林3-5-9 若林寮	03-3282-0088 03-3412-2801	
昭和61年	松原久能	1242	東京都渋谷区渋谷3-26-18 (株)不二サッシ (自)神奈川県大和市下鶴間2966-22 カーサリーカーロ	03-3797-1241 0462-77-7396	
昭和61年	磯田秀樹	520 520-21	大津市栗津町10-11 滋賀銀行本店事務集中部 (自)滋賀県大津市瀬田1-23-6	0775-21-2460 0775-21-2453 0775-45-0938	
昭和61年	田中薰	531 619-02	大阪市大淀区大淀町南3-2-25 (株)スポーツニッポン新聞社写真部 (自)相楽郡木津町相楽台7-1-1-1-204号	06-458-5988 07747-3-3287	
昭和61年	谷川真司	530 568	大阪市北区太融寺町5-15 梅田東邦生命ビル (株)船井総合研究所 組織運営本部 (自)茨木市錢原264	06-314-3901 内線 26 0726-49-3604	
昭和61年	今井崇雄	101 272	東京都千代田区東神田1-17-6 (株)吉田 (自)千葉県市川市平田2-22-16 パインバース菅野203	03-3862-1021 0473-24-2940	
昭和61年	中村俊裕	520-30 520	栗太郡栗東町安養寺7-2-20 スナック アルビン (自)大津市螢谷8-5	0775-53-4781 0775-33-3323	幹事
昭和61年	安田智雄	544 544	大阪市生野区巽北1-16-21 安田鉄工(株) (自)大阪市生野区中川東2-16-4-211	06-751-4441 06-752-9384	
昭和61年	安田克裕		不 明		
昭和62年	城生栄二	101 211	東京都千代田区神田保町1-69-1 千代田グラビア第一ビル (株)住友商事 (自)神奈川県川崎市中原区上小田中1681 セントラルマンション301	03-3296-4945 044-733-8820	
昭和62年	奥谷勇人	541-01 545	大阪市中央区今橋3-5-12 日本生命契約第一課 (自)大阪市阿倍野区阪南町7-3-33 日生英鳳荘1-A8	06-209-5335 06-606-0346	
昭和62年	高橋良明	460 468	名古屋市中区錦1-5-11 伊藤忠商事(株)穀物部穀物第一課 (自)名古屋市天白区原1-1512 伊藤忠商事(株)天白寮104号	052-203-2432 052-804-8904	
昭和62年	樋口健一郎	282 100	成田市三里塚御料牧場1-1 第一勧業銀行本店業務部外国為替業務グループ輸出課 (自)東京都千代田区門幸町1-1-5	0476-32-5771 03-3596-6051	
昭和62年	安田一郎	223 143	横浜市港北区綱島東4-3-1 松下通信工業電波事業部 (自)東京都大田区大森中2-1-20-402	045-531-1231 03-3767-1543	
昭和62年	後藤嘉樹	683 683	米子市安倍183-1 (株)福間商事 (自)米子市永江260番54-1 357号	0859-29-2101 0859-26-4665	
昭和62年	森川博有	919-13 919-13	福井県三方郡三方町中央1-2 三方町教育委員会 (自)福井県三方郡三方町横渡8-3-3	0770-45-2222 0770-45-1411	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
昭和62年	大沼弘幸		不 明 (H 3. 9)		
昭和62年	屋久浩典	331 338	大宮市桜木町1-9-18 田中ビル3F 住友林業(株)北関東営業所 (自)埼玉県浦和市上大久保62-1 アーバンルミネ102	048-647-8691 048-852-7764	
昭和62年	藤田哲哉	617 520	長岡市天神2-26-10 (株)村田製作所 (自)滋賀県大津市柳川1-4-20 ハイツルビナス203号	075-951-9111 0775-21-8471	幹事
昭和62年	志賀理	567	同志社大学大学院 (自)茨木市太田3-12-2	0726-24-5663	
昭和63年	阿江克彦	192	福岡市中央区天神2-14-8 野村証券(株)八王支店 (自)東京都八王子市久保山町2-34-7	0426-46-8277 0426-91-7242	年 度 代 表
昭和63年	斎藤繁明	152 940-23	東京都目黒区自由ヶ丘2-9-17 千代田生命保険相互会社長岡営業所 (自)新潟県三島郡三島町逆谷838	0258-32-0395 0258-42-3214	
昭和63年	佐藤亘	998 395	山形県酒田市上本町7-10 山形県立酒田商業高校 (自)長野県飯田市白山通り2-338-5 教職員飯田寮35号	0234-22-0444	
昭和63年	原一雅	656-01 656	兵庫県三原郡綠町広田552-1 イズミフードマシナリー(株) (自)洲本市本町7-2-33	0799-45-1121 0799-22-1131	
昭和63年	平松靖之	520-21 520-21	大津市大将軍1-13-1 瀬田北中学校 (自)大津市瀬田1-16-1	0775-43-2073 0775-45-0221	
昭和63年	星沢慎二	600 536	京都市下京区四条通高倉 (株)大丸京都店婦人服第1部 (自)大阪市城東区今福西2-14-17	075-211-8111 06-933-5097	
平成元年	関谷晴彦	456 477	名古屋市熱田区桜田町19-18 (株)東邦ガス (自)東海市高横須賀町浅間2-15 東邦ガス(株)横須賀独身寮	052-872-9213 (呼) 0562-33-5400	年 度 代 表
平成元年	末瀬雅巳	857	佐世保市平瀬町官有無番地 護衛艦さわかぜ (自)佐世保市平瀬町官有無番地		
平成元年	石田政隆	553 604	大阪市福島区鶴洲本通3-6-29 (株)ミズノ (自)京都市中京区壬生坊町66 セモア30-4 A	06-454-5276 075-801-4814	
平成元年	西田智明	540 606	大阪市中央区城見2-1-3 (株)松下電工 (自)京都市左京区北白川東平井町8 サンビーム43-305	06-942-7541 075-723-7981	0775-22-17673
平成元年	桜井昭子	107	東京都港区赤坂9-7-45 防衛庁調達実施本部 (自)東京都世田谷区池尻1-2-15-306	06-408-5211 03-5481-0913	
平成元年	井上周一	743 743	山口県光市島田3434 新日鉄製鉄所 (自)山口県光市室種 沖田アパート1-35	0833-71-5068 0833-79-1512	
平成2年	朝倉伸二	163 227	東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル (自)横浜市緑区青葉台2-36-1 キヤノン第2青葉台寮	03-3348-2121 045-982-5527	
平成2年	石橋雅信	559 592	大阪市住之江区粉浜2-14-27 住友銀行 (自)堺市浜寺元町3-213 住友銀行白修寮	06-672-0501 0722-63-2235	
平成2年	坂本龍一	520 144	(株)日本航空 東京都大田区西蒲田1-10-1 日航乗員訓練生宿舎03-375	03-3720-8733	
平成2年	佐伯誠	472 472	知立市昭和4-3-5 (自営) (自)知立市昭和4-3-5	0566-81-3259 0566-81-3259	
平成2年	島田恭典	110 180	東京都台東区上野1-1-10 (株)三洋電機 (自)東京都武蔵野市緑町2-1-4 武蔵野三洋寮B-312	03-3837-6290 0422-37-6377	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
平成2年	北村正樹 (旧姓内藤)	600 606	京都市下京区四条河原町西入ル真町52 (株)高島屋京都店 (自)京都市左京区岡崎天王町32-10	075-221-8811 075-752-4195	
平成2年	西田利彦	631 520-32 577	奈良市学園北1-1-4 (株)三和銀行 滋賀県甲賀郡甲西町岩根3574 東大阪市上小阪町2-5-26 三和銀行小阪寮	0742-46-2511 07487-2-2670 0729-46-4044	
平成2年	配川隆司	100 151	東京都千代田区丸の内2-7-1 (株)三菱銀行システム部 (自)東京都渋谷区大山町27-15 華谷寮	03-3240-4364 03-3469-7446	
平成2年	前田崇	634	(自)櫻原市久米町1138-8	07442-7-1047	
平成2年	米原栄一	652 655	兵庫県兵庫区和田崎町1-1-1 (株)三菱重工 (自)神戸市垂水区星陵台3-4-3-311号	078-672-5032 078-785-8629	
平成2年	川崎優子	600 614	京都市下京区四条河原町西入真町52 (株)高島屋京都店 (自)八幡市男山泉14-4	075-221-8811 075-982-6905	
平成2年	喜多隆博	105-91 182	東京都港区虎ノ門2-1-1 (株)商船三井 (自)東京都調布市菊野台3-45 商船三井柴崎寮215号	03-3587-7087 0424-98-0437	
平成3年	乾健治	592 630-01	高石市羽衣1-14-5 (株)三和銀行羽衣支店 (自)生駒市真弓4-13-18	0722-61-6521 0722-61-6527	
平成3年	大竹宏	448 448	刈谷市昭和町1-1 日本電装(株) (自)刈谷市小山町3-18 第一小山寮1400号	0566-27-4572	
平成3年	岡田太一郎	253-01 860	神奈川県高座郡寒川町岡田6-4-6 日本鉱業 (自)熊本市横手5-4921(実家)	0467-75-4965 096-355-5554	
平成3年	小原隆史	600 600	京都市下京区四条通高倉 (株)大丸京都店 (自)京都市下京区高倉松原下ル樋ノ下町34番地 コーポセイション205号	075-211-8111 075-352-3245	
平成3年	重松健一	939-26	(自)富山県婦負郡婦中町小長沢2385	0764-69-3354	
平成3年	榎原雅也	541 581	大阪市中央区本町3丁目5-7 御堂筋本町ビル5F (株)日立製作所 (自)大阪府八尾市山本町北3-7-1 (株)日立製作所八尾寮A-204	06-261-1111 0729-96-1655	
平成3年	佐藤将人	630 630	奈良県油阪町1-1 (株)サントリー奈良支店 (自)奈良市大宮町4-273-1 奈良スカイハイツ507号	0742-27-1501 0742-33-8226	
平成3年	杉山伸	580 578	松原市高見の里4-766 (株)住友銀行松原支店 (自)東大阪市花園町2-15-4 住友銀行花園寮	0723-33-0501 0729-66-8216	
平成3年	津島泰	469	名古屋市中区錦1-2-1 三井海上火災保険(株) (自)名古屋市名東区貴船1-118 ユーハウス上社3-D	052-203-3041 052-703-7683	
平成3年	三上和彦	602 070	同志社大学大学院 京都市上京区寺町鞍馬口下ル高穂寺町358 大塩方 旭川市神居6条17丁目(実家)	075-256-4001 0166-62-0533	
平成3年	山下進	790	(自)松山市余戸南4-9-28 FUTABA寮1-2	0879-72-9823	
平成3年	井上京子	532 533	大阪市淀川区西中島5-4-20 中央ビル 横河ヒューレットパッカード(株)西部支店第2営業部 (自)大阪市東淀川区東淡路1-5-4-725	06-304-6021 06-327-7436	
平成3年	中村祥子	617 560	京都市上京区烏丸今出川上ル西 京都YMCA (自)豊中市南桜塚1-6-13	075-441-2773 06-844-0482	
平成4年	宮崎寿春	520	NTT関西 (自)大津市竜ヶ丘24-15 NTT社宅111号	0775-27-1150	

卒業年度	氏名	郵便番号	住所・勤務先及び連絡先	TEL	備考
平成4年	岡本竜人	192-03	新日本製鐵 (自)東京都八王子堀之内2431-1 新日鉄第2堀之内寮105号	0426-77-6330	
平成4年	谷昌二郎	763	三菱電機 (自)香川県丸亀市新浜町2-6-1 三菱電機蓬莱会館B-306	0877-24-8231	
平成4年	小林重之	100 201	東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱化成機能樹脂事業部エンジニア樹脂営業グループ (自)東京都狛江市緑方4-9-4 三菱化成多摩寮	03-3283-6935 (呼) 03-3480-8531	
平成4年	下田亨	450 450	名古屋市中村区那古野1-47-1 国際センタービル13第2営業ルーム 大広名古屋支店 (自)名古屋市中区富士現町5-23 ライオンズマンション上前津1003号	052-564-8113 052-332-2993	
平成4年	小田切拓	156	映像館 (自)東京都世田谷区船橋3-9-18	03-3428-1864	
平成4年	加藤康	454	(自)名古屋市中川区荒子町大門東76	052-361-3022	
平成4年	功力英俊	981	仙台市青葉区上杉2-3-11 味の素 東北支店営業二課 (自)仙台市青葉区台原4-5-34-301	022-227-3117 022-275-4342	
平成4年	小林俊樹	465	株ホンダ二輪中部 (自)名古屋市名東区牧の里1-803 アーバンライフ牧の里401号	052-704-4312	
平成4年	嶋本貴夫	230 211	横浜市鶴見区鶴見中央1-3-17 三菱銀行鶴見支店 (自)川崎市中原区今井仲町242 三菱銀行川崎今井寮22	045-501-6531	
平成4年	勝本肇	634	大阪府警 (自)櫻原市東坊城町207	07442-7-0893	
平成4年	吉田武史	520	日清食品 (自)大津市大谷町4-12	0775-26-0622	
平成4年	吉田拓生	861-32	(自)熊本県上益城郡御船町滝川122	096-282-0254	
平成4年	米山尚吾	602	(自)京都市上京区寺ノ内町西入ル下ル真倉町740	075-441-5438	
平成5年	宇戸大輔	314-02 314-02	茨城県鹿島郡神栖町東和田25番地 旭硝子(株)鹿島工場 (自)茨城県鹿島郡神栖町知手中央5-1 旭硝子知手社宅2号棟-503	(呼) 0299-96-6874	
平成5年	内田琢也	100 201	東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱化成(株)医薬本部医薬事業部 (自)狛江市緑方4-9-4 三菱化成多摩寮110号	03-3488-9507	
平成5年	原田昌彦	604	(自)京都市中京区二条通油小路西入矢幡町308	075-212-9315	
平成5年	井上賢二	606	(自)京都市左京区下鴨松ノ木町85 草田様方	075-723-0486	

現 役 名 簿

役員名	氏 名	郵 便 号	住 所	T E L
部 長	岡 本 博 公	5 3 5	大阪市旭区新森4丁目6番16号 研究室 075-251-3706	06-955-3633
監 督	横 山 基 嗣	6 5 5	神戸市垂水区霞ヶ丘1-5-19	078-708-9981
監 督 佐	高 橋 滋	520-21	大津市瀬田3-20-21	0775-45-6845
コ ーチ	山 口 忠 博	5 2 5	草津市上笠町4-30-25	0775-63-5570
△	中 村 俊 裕	5 2 0	大津市螢谷8-5	0775-33-3323
△	榎 原 雅 也	5 8 1	大阪府八尾市山本町北3-7-1 (株)日立製作所八尾寮A-204	0729-95-1655

〈卒業生〉

現役部員	氏 名	出身校	現 住 所 ・ 帰 省 先	T E L
卒業生	押領司 哲 也 (法・政)	紫 野	(帰) 〒603 京都市北区鷹峯土天井町23-1 北山スカイハイツ110	075-493-1048
卒業生	木 内 良 典 (経)	浪 速	(現) 〒602 京都市上京区寺之内通淨福寺西入下ル観倉町740 米山方 (帰) 〒599-02 和泉市緑が丘66-8	075-441-5438 0725-54-2982
卒業生	喜 多 栄 太 (経)	智弁学園	(帰) 〒649-72 和歌山県伊都郡高野口町伏原403	0736-43-1217
卒業生	竹 内 秀 暢 (経)	静岡県立浜北西	(現) 〒603 京都市北区紫竹上梅ノ木町55 (帰) 〒434 浜北市小松377	075-493-2913 05358-7-2162
卒業生	中 泽 郁 男 (商)	兵庫県立川西明峰	(帰) 666-01 川西市湯山台2-1-17	0727-92-0457
卒業生	中 西 孝 夫 (文・史)	同志社国際	(現) 〒602 京都市上京区寺之内通淨福寺西入下ル観倉町740 米山方 (帰) 〒631 奈良市菖蒲池南7-853-3	075-441-5438 0742-48-6512
卒業生	早 坂 真 一 (商)	同志社国際	(現) 〒603 京都市北区紫竹上梅ノ木町55 横口方 (帰) 〒815 福岡市南区若久5-18-15	075-493-4076 092-552-6029
卒業生	藤 井 啓 宏 (法)	愛知県立旭野	(現) 〒602 京都市上京区寺之内通淨福寺西入下ル観倉町740 米山方 (帰) 濑戸市太子町131	075-441-5438 0561-21-2090
卒業生	堀 内 昭 宏 (商)	山科県立富士河口湖	(現) 〒603 京都市北区紫竹下芝本町23 エルセル北山201 (帰) 〒401-03 山梨県南都留郡勝山村3739	075-493-9933 0555-83-2481
卒業生	松 城 敬 (文・史)	同志社国際	(帰) 〒582 柏原市旭が丘3-15-52	0729-76-0352
卒業生	北 尾 冬 子 (経)	同志社女子	(帰) 〒616 京都市右京区竜安寺五反田町10-12	075-464-9236

現役部員	氏 名	出身校	現 住 所 ・ 帰 省 先	T E L
卒業生	田 村 麻理子 (経)	滋賀県立石山	(帰) 〒520-21 大津市一里山2-26-17	0775-45-6112
卒業生	堀 智 子 (女・英)	京都女子	(帰) 〒520 大津市高砂町20-17	0775-22-3413
卒業生	余 谷 有紀枝 (商)	愛知県立千種	(現) 京都市北区小山東元町20 コーポタクミ403号室 (帰) 名古屋市中川区九重町9-4	075-495-3769 052-353-6023

〈現役部員〉

現役部員	氏名	出身校	現住所・帰省先	TEL
3回生	伊藤 崇 (文・哲)	高槻北	(現) 〒569 大阪府高槻市日吉台5番町9-21	0726-88-2476
3回生	金 咲 越郎 (法・律)	大阪貿易学院	(現) 〒631 奈良市西登美ヶ丘5-1-17	0742-46-9619
3回生	小吹 悟 (商)	麻溝台	(現) 〒606 京都市左京区下鴨蓼倉町58-8 吉川方 (帰) 〒228 神奈川県相模原市相模台6-29-9	075-724-2620 0427-45-1597
3回生	古山裕基 (法・II)	尼崎北	(現) 〒661 兵庫県尼崎市塚口町2-11-5	06-421-4151
3回生	佐伯 明 (商)	川之江	(現) 〒 京都市左京区田中大柳町 青山第二キャッスル26号 (帰) 〒799-01 愛媛県川之江市川之江町2928-3	075-724-0417 0896-56-5385
3回生	西村泰隆 (商)	塔南	(現) 〒601 京都市南区久世中久世町4-56	075-933-5663
3回生	藤牧宏彰 (文・哲)	岡谷南	(現) 〒603 京都市北区紫野上策山町32 ハイツ (帰) 〒393 長野県諏訪郡下諏訪町清水町4555-94	075-431-0390 0266-27-1323
3回生	森田徳教 (法・律)	中村	(現) 〒612 京都市伏見区京町3丁目196 細川方 (帰) 〒491 愛知県一宮市千秋町東沼43-10	075-702-2165 0586-76-8095
3回生	大西直子 (経)	米子西	(現) 〒606 京都市左京区下鴨松原町22-1 アオイハウス201号 (帰) 〒684 鳥取県境港市上道町300	075-724-4499 0859-44-3463
3回生	加藤文穂 (文・英)	磐田南	(現) 〒606 京都市左京区下鴨松原町22-1 アオイハウス202号 (帰) 〒437-12 静岡県磐田郡福田町福田5154	075-721-6876 0588-55-2628
3回生	二瓶伸子 (文・英)	磐田南	(現) 〒606 京都市左京区下鴨宮河町51-1 エルフローラ下鴨106号室 (帰) 〒438 静岡県磐田郡豊田町宮之一色1129	075-722-1547 0538-34-6183
3回生	藤本亜紀 (経)	同志社	(現) 〒614 京都府八幡市男山奥2-17	075-971-0182
3回生	柏木智香 (商)	天王寺	(現) 〒558 大阪市住吉区上住吉1丁目10-18	06-672-5733
2回生	高橋彩 (文・文化・文化史)	同志社国際	(現) 〒520-21 大津市瀬田2-1-16	0775-43-6650
2回生	武田知也 (経)	富山東	(現) 〒617 向日市物集女町長野5-107	075-921-2102
2回生	漆追博之 (経)	同志社国際	(現) 〒636 奈良県北葛城郡河合町高塚台2-34-8	0745-32-8498
2回生	山田寛幸 (経)	名古屋市立向陽	(現) 〒610-03 田辺町三山木西ノ河原46 村上ハイツ505 (帰) 〒921 金沢市横川5丁目67	07746-3-7146 0762-44-1514
2回生	山川優 (法・法律)	天王寺	(現) 〒612 京都市伏見区向島立河原町50 高千穂寮3号室 (帰) 〒547 大阪市平野区流町1-1-3	075-603-7923 06-708-8118
2回生	山中弘毅 (文・文化・文化史)	膳所	(現) 〒520 大津市朝日ヶ丘2丁目10-45	0775-25-7760
2回生	吉野光治 (法・政治)	比叡山	(現) 〒520-01 大津市坂本7丁目3-30	0775-79-4869

現役部員	氏名	出身校	現住所・帰省先	TEL
2回生	和田将央 (商)	専大松戸	(現) 〒606 京都市左京区岡崎北御所町5 田中方 (帰) 〒301 茨城県竜ヶ崎市松葉3-6-11	(呼) 075-771-1836 0297-66-4735
2回生	渡辺将常 (文・社会・産関)	富士河口湖	(現) 〒612 京都市伏見区竹田醍醐町竹吉莊 (帰) 〒403 山梨県富士吉田市旭3丁目14-4	075-602-8965 0555-23-8781
2回生	岡本和彦 (商)	報徳学園	(現) 〒664 兵庫県伊丹市西台3-8-16 601	0727-75-1568
2回生	白田圭助 (経)	本郷	(現) 〒612 京都市伏見区深草大龜谷万帖敷町171 谷村方 (帰) 〒271 千葉県松戸市松戸新田3-11-206	075-641-6506 0473-63-0619
2回生	川勝欣生 (商)	西乙訓	(現) 〒617 長岡京市うぐいす台82	075-951-5014
2回生	木原聰 (法・法律)	同志社香里	(現) 〒573-01 大阪府枚方市春日北町1-38-1	0720-58-3037
2回生	小林賢史 (商)	渋川	(現) 〒610-03 田辺町興戸若宮26-1 信栄アルテハイム田辺201 (帰) 〒370-36 群馬県北群馬郡吉岡町漆原1289-3	07746-2-5570 0279-54-2297
2回生	舛田由美子 (文・英文)	同志社女子	(現) 〒661 宇治市南陵町2-2-4	0774-23-8858
2回生	押谷菊治	同志社香里		
2回生	四家雄一郎 (経)	磐城	(現) 〒603 京都市北区新町鞍馬口下ル140 佐川方 (帰) 〒971 福島県いわき市鹿島町米田字家の前19	0246-29-7630
2回生	杉原典子 (文・文化・文化史)	同志社	(現) 〒600 京都市下京区万寿寺通り寺町西入ル647-2	075-351-7153
2回生	生水真理 (文・英文)	同志社女子	(現) 〒520-01 大津市木の岡町35-21	0775-79-6328
1回生	伊藤浩史 (商)	岡谷南	(現) 〒612 京都市伏見区帶屋町923-2 (帰) 〒391 長野県茅野市宮川7459-54	0266-73-0231
1回生	奥哲史 (文・社・福祉)	池田	(現) 〒563-01 大阪府豊能郡能勢町下田尻	0727-37-1243
1回生	斎木英人 (工・機械工)	瀬戸西	(現) 〒611 宇治市広野町寺山14 広野荘36号 (帰) 〒489 愛知県瀬戸市八幡台7-151	0774-45-2312 0561-84-4335
1回生	梅野孝雄 (法・法律)	同志社香里	(現) 〒614 八幡市橋本栗ヶ谷42-16	075-983-0879
1回生	岡将行 (文・英文)	阿武野	(現) 〒569 大阪府高槻市川西町1-12-6	0726-83-8663
1回生	中園智英 (文・文化・心理)	同志社香里	(現) 〒618 大阪府三島郡島本町青葉1-15-22	06-961-5390
1回生	森本周子 (法・法律)	同志社	(現) 〒554 大阪市此花区梅香3-30-22	06-463-5298
1回生	関根佐和子 (法・法律)	同志社	(現) 〒631 奈良市神功一丁目4-73	0742-72-0528
1回生	尾島綾子 (同女・英文)	米子東		

〈連絡先不明〉

卒業年度	氏名	学年	山本信蔵	田中正三
昭和7 高商	川本見悦	24 経専	船木重徳	
8 高商	飯田正充	25 大英	西田蔵	
9 高商	今村大三	27	藤森慎治	
9 高商	河原幸男	29	富田潤	
10 高商	三村茂	31	奥野茂	
10 高商	蜂須賀文人	33	難波孝也	
11 高商	水谷伴治	33	木村憲司	
15 大経	小杉良平	34	川田泰久	
15 高商	八木茂	37	漆原英定	
15 高商	吉津孝甫	42	山口隆史	
16 高商	西田正大	43	田口長	
16 高商	辻昇	51	佐藤和弘	
16 高商	中野靖夫			
17 大法	宮本清			
18 大経	高橋明			
18 高商	小山隆			
19 高商	苅田芳郎			
21 大経	湊修一			
22 大経	清原清二			
22 経専	雨宮清之			

〈物故者名〉

卒業年度	氏名	大正14	西条信之	昭和4	猿丸元	昭和11	宇高芳丸
大正5	河原政勝	14	遠藤重順	4	人見健造	11	上田正三
5	京口謙一郎	14	酒井猛夫	5	松居清	12	大西二三男
5	塚本純一	15	池尾孝正	5	榎原忠一	12	北川寛一郎
6	林孝一	15	安井義人	5	鈴木淳蔵	13	京谷祐弘
6	日下部純吉	15	若村直三	5	津田清(札作)	13	松島誠
7	西村伍一郎	昭和2	武津真佐太	5	田伏徳次	13	初田助太郎
7	堀野喜七	2	桜井弥一郎	6	松岡秀三	13	橋井半次
7	梅村数之助	2	南本虎一	6	壇上春清	14	青木喜三
8	青山彦五郎	2	杉浦良太郎	6	寺田耕吉	14	楠(円尾)紀
8	松井七郎	2	西村昌二	7	辻武夫	14	寺田英夫
8	関目成通	3	元持勝一	7	神田重太郎	14	堀井
10	村井藤十郎	3	東田多喜男	9	清田博	15	市谷光之助
10	喜多一二郎	3	保土田憲吉	10	西尾孝二	15	山村剛一
10	北脇鴻造	3	北野耕藏	10	久木弥一郎	15	久世一三
12	平瀬四郎	3	愛敬元成	11	井上金吾	15	水野
12	大崎艇介	3	武口公一	11	大橋通三郎	15	永島正(旧姓佐々田)
13	東辻嘉三郎	4	鮎川浩	11	村上敏道	15	牟田博人
13	中川孝史	4	大谷保	11	森田信雄	16	吉益四郎
13	渡辺勇	4	北村國治郎	11	山辺正	16	荒木茂治
14	黒川俊夫	4	太田博	11	川口勝	16	百合実

卒業年	氏名	昭和18	宮川正夫	昭和19	佐野新吾	昭和33	八田勇吉
昭和16	山本善之助	18	加藤勝彦	20	坂邦夫	33	石田
16	吉川久雄	19	太田誠一郎	22	野々垣明	36	村瀬宗一
16	井上謙蔵	19	神野理策	26	田中清	39	山路清
16	増子惣一	19	寺本不二雄	29	辻井耕三郎		
17	武田喜蔵	19	大林一	32	小野木利男		

〈明治時代活躍された方々（順序不同）〉

福井大三郎	枚野虎次	高橋彦太郎	加藤太郎松	岡本桜	二宮峯男
小林峯三	郡淳	大石七郎	塩津龍治郎	都留信郎	清水
ト部	沢田	山本	小野寺松	島寛三郎	鈴木吉満
津下紋太郎	服部祐一	平田留造			

〈歴代部長〉

木島誠三	林源三郎	速水藤助	吉川秀造	出石邦保	中村宏治
------	------	------	------	------	------

編集後記

～「力漕」創刊にあたって～

本年度より、同志社大学ボート部では、クラブの活動内容や成績などをまとめた、年誌「力漕」を年一回発行することになりました。この「力漕」の発行は、日頃ご支援、ご指導をいただきしております、ボート部OBの方々、ボート部関係者の方々との交流をより深め、我がボート部の一層の発展を推し進めていくことを目的としています。

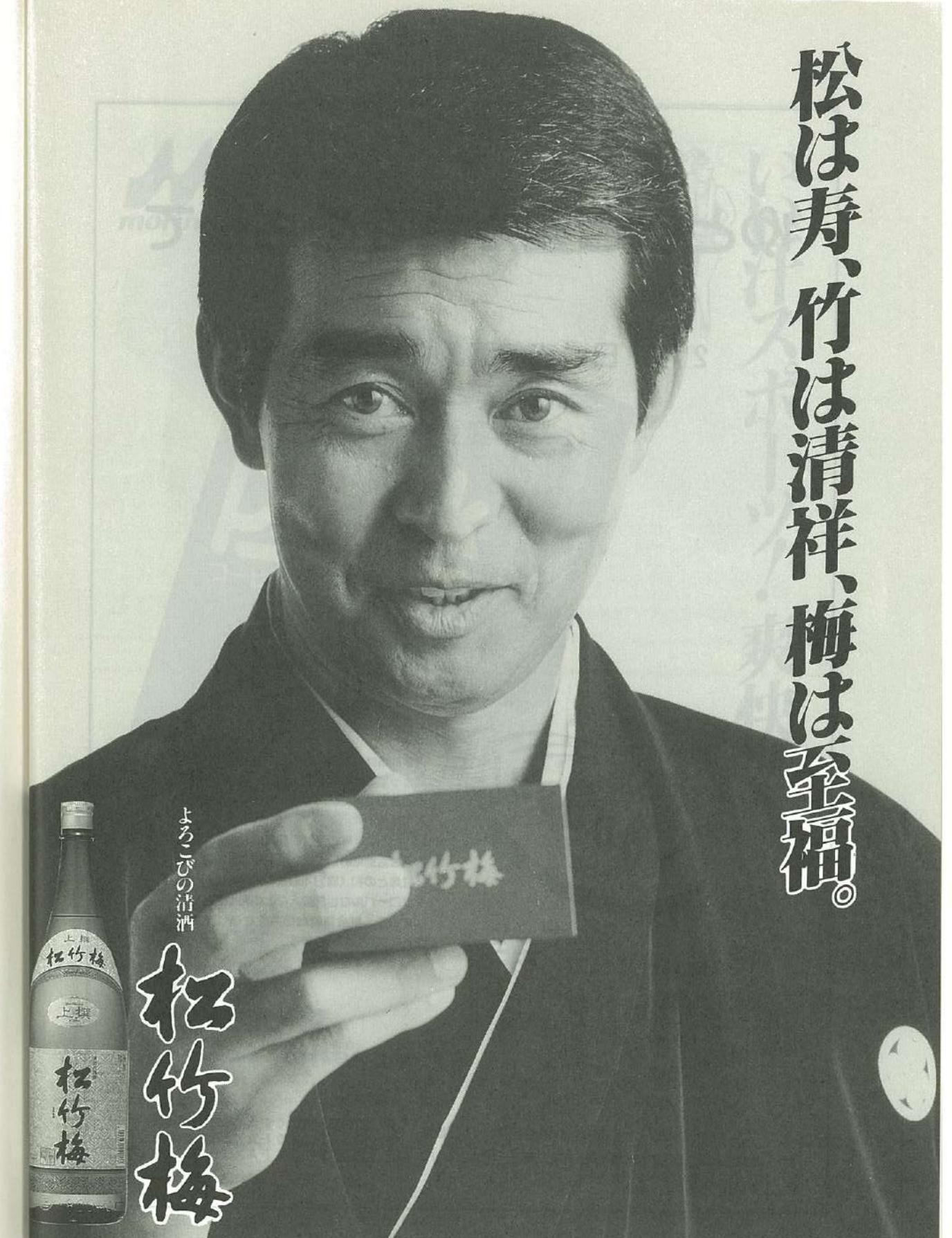
今回は、創刊号ということで、冊子作成の知識も十分でなく、制作中にさまざまな問題に衝突し、作業が中断してしまうこともしばしばありました。そのため、発行時期が予定よりも遅れましたことを皆様に深くお詫び申し上げます。また、内容に関しましても、まだ不十分な点が多いとは思いますが、今後、みなさまのご意見、ご感想などを参考にして来年度から、より密度の濃い「力漕」を作成していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の発行に際し、多大なるご理解、ご支援を戴きましたOBの方々、各企業の方々、そして、ご多忙中でありながらご寄稿いただいた方々に対し、厚く御礼申し上げるとともに、今後も御支援、御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

同志社大学ボート部

広報担当 二瓶伸子
柏木智香
杉原典子
高橋彩

松は寿、竹は清様、梅は至福。



同志社大学ボート部部報「力漕」

1994年1月20日発行

発行者 同志社大学ボート部

〒520-21 滋賀県大津市瀬田3-2-30

(TEL) 0775-45-0702

(FAX) 0775-43-1194

広告費振込先：三和銀行 京都支店

普通預金口座番号 3962403

口座名 同志社大学ボート部「力漕」

お酒は20歳を過ぎてから。

—いい飲み方、あなたと考えたい。—

20歳からはじまる、お酒とのおつきあい。いつまでも健やかにお酒を
楽しむためには、体調を考えて飲む。ハンドルを握るときは、飲まない。
TaKaRaは、「いいお酒の飲み方」を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

ゆとりと豊かさをめざして

2月1日、吉年可鍛鑄鉄株式会社に
「株式会社 吉 年」に
社名変更いたしました



大きな輪は、人と人との心の絆で結ばれた輪
によってできる「和」のある関係をイメージし、
私たちの経営に囲んで大切にしていく姿勢を
示すものです。

右上にある3本の輪状の曲線は、吉年の
経営活動において深い関係を形成する ——
「社員との和(輪)」「地域の人々との和(輪)」
「グローバルな世界の人々との和(輪)」を意味
しており、社会環境との共生を願う私たちの
気持ちを表現しております。

本 社 〒586 大阪府河内長野市上原町770番地 TEL(0721)53-3121㈹ FAX(0721)54-1814
東京営業所 〒103 東京都中央区日本橋3丁目3-4(乃起ビル3F) TEL(03)3273-7881㈹ FAX(03)3273-7880

M
morinaga



- コーヒー
- ヨーグドリンク
- フルーツ
- ストロベリー
- ヨーグルトタイプ
- カフェ・オ・レ

僕たち
飲むなら
ピクニック

ピクニックは、スポーツを愛する若い感性にピッタリ
のファッショントinkingです。
それぞれのおいしさの中からお好きな味をお選び
ください。

ピクニック
piknik®

おいしいをデザインする
森永乳業

いつでもどこでもスッキリさわやか
—さわやかさはいつもロツテから—



かんだ後は紙に包んでくずかごに捨てましょう。

LOTTE

同志社大学ボート部年誌発刊おめでとうございます

国体優勝目指して頑張っています

もうすぐ創部50年 大丸京都店体育会ボート部

S 29年卒	小野木 伸		S 54年卒	木村 俊雄	京都店
S 40年卒	広田 恒夫	心斎橋店	S 57年卒	林田 尚之	パリ大丸
S 45年卒	高橋 滋	京都店	S 58年卒	松田 弘一	京都店
S 46年卒	宮川 滋	京都店	S 63年卒	星沢 慎二	京都店
S 47年卒	山岸 進	丸の内店	H 3年卒	小原 隆史	京都店



株式会社 入江工務店

〒606 京都市左京区田中西大久保町46
TEL. (075) 781-5703 FAX. (075) 712-0025

代表取締役

入 江 豊

(S 38. 卒)

一級建築士

夢 中になれる
何かがある。 O'PAL

SKY & MARINE OUTDOOR SPORTS CLUB

会員募集中!



●これからは 持つ より 使う 時代です。

●O'PALなら 持つ 必要は一切なく
クラブ所有の

150点もの道具

無料でご利用いただけます。



・入会金
30万円
・月会費
1.5万円
(中間会員の場合)

さまざまな
150点もの
道具
利用OK



お問い合わせ先
オーパル・スカイアンドマリン
アウトドアスポーツクラブ
TEL 0775-79-7111
(受付時間 10:00~17:00)
オーパル・オブテクス株式会社
〒456-01 愛知県大府市緑町5-100

理科機器
SCIENCE

体力科学機器
PHYSICAL SCIENCE

産業科学機器
INDUSTRIAL SCIENCE

八神国際貿易株式会社 平成 10年7月1日登記
HEAD OFFICE: NO.3-29, 3-CHOME, MARUOUCHI, NAKA-KU, NAGOYA 460, JAPAN
TEL.(052) 962-3611 / FAX.(052) 971-1398 / TEL.0444-7507 YAGAMI J
CABLE ADDRESS: "YRCOT", NAGOYA

元気な仲間達のチームワークを応援します



チームウェアーオーダー

- オーダージャンバー
- トレーナー •ヨットバーカ
- ボロシャツ
- Tシャツ •キャップ
- ETC



京都:SACRA 1/80▶075-231-7484

梅田:エスト 11/80▶06-374-3473

難波:なんばピア 1/80▶06-633-7760

神戸:東急ハンズ 1/80▶078-332-0057

1/80カタログ「VOICE」ご希望の方は、お電話で上記各店、又は右記住所まで。〒661 兵庫県尼崎市南塙口町8-8-55 (株)エイティズ TEL:06-421-3103

贊助

佐野 閏一 (S 35卒)

入江 豊 (S 38卒)

横山 基嗣 (S 47卒)

瀬田 食糧

ローソン瀬田一丁目店

かまどや唐橋店

北村 自転車

お食事処

麻其
麻其



一般建築用材、住宅内装材、土地造成販売

大溝工業株式会社

一般建築用材、住宅内装材、土地造成販売
外壁・屋根・基礎・土木工事
工事用機械販売・工事用機器販売

代表取締役 阪田良之助

本社 滋賀県高島郡高島町大字勝野

TEL (0740) 36-0030 (代)

営業所 滋賀県大津市馬場3丁目15の12

TEL (0775) 24-2912 (代)

HOLIDAY INN KAWAGUCHIKO
HOTEL & RESTAURANT

Yesterday イエスター



みなさまの楽しいひとときを
奥河口湖イエスタディで！

学生のスポーツ合宿ゼミ合宿に最適です。

Phone

0555-83-2481

山梨県、河口湖畔 勝山村 3739

元気な仲間達のチームワークを応援します

祝100周年



株式会社 王子製作所

船舶用機器部品・建設機械部品
並びに各種製缶加工・一般建築鉄骨施工

本社 兵庫県加古郡播磨町新島23番地
電話 加古川(0794)37-1600(代)
FAX (0794)35-6181

丸亀工場 香川県丸亀市垂水町2747番地
電話 丸亀 (0877)28-7004
FAX (0877)28-5162

大久保自動車整備工場

大阪陸運局指定民間車検工場
自動車整備・钣金・塗装・販売・保険代理店

兵庫県加古郡播磨町新島23番地
電話 加古川(0794)37-1221(代)
FAX (0794)35-6181

近くて便利な



南部自動車学校
☎0596-23-1155(代)

 オートザム伊勢
〒519-05 三重県度会郡小俣町元町1648-10
AUTOZAM TEL:0596-27-3236 FAX:0596-27-3706

大東自動車株式会社

BCVS 井山園 牧野口園 桑原山

お食事処

麒麟亭
Kirin-tei

京・七条大宮

TEL 075(371)0058
FAX 075(344)3270



京阪シルク株式会社

代表取締役

新井 喜範

京都市下京区五条通西洞院東入
電話 075-351-2340(円600)
FAX 075-351-4352

祝年誌「力漕」発行

高橋宗

〒520-21 大津市瀬田二丁目一一一六
電話 (075)451-1234番

ROWING SHOP

コンセプト・ファイブ・インク

〒590-02 大阪府和泉市唐国町1314-47
☎(0725) 53-0881 FAX(0725) 53-0881

日本酒とビール・
ウイスキーの店



北井酒店

カット&パーマ
サロンドノダ

営業時間

A.M.9:00～P.M.7:00

(定休日毎週月曜日・第3日曜日・第1火曜日)

土曜・日曜は予約制

(予約は無料です)

大津市鳥居川町 6 の 32

(専用駐車場あり)

ミナ イ クサンバツ

☎(0775) 37-1938

The image shows a vertical advertisement for the Seiyu Kishiwada store. At the top, the word "SEIYU" is written in large white letters on a black background. Below it, the store's name "西友 石山店" is displayed in large Japanese characters, with the phone number "0775-37-3001" underneath. A box below the store name contains the text "中学・高校・大学受験のための本格的進学指導". The bottom section features a logo with the letters "KS" inside a shield-like shape, followed by the text "関西進学セミナー". The phone number "0775-33-4888" is also present. The address "大津市石山栄町2-5" is at the very bottom.

This image is a collage of tourism-related logos and text from brochures. It includes:

- A circular logo for '政府登録国際観光旅館' (Government-registered International Tourism Hotel) featuring a stylized building.
- A large graphic of two fans with the letter 'T' at the top.
- The text 'びわ湖瀬田川畔' (Biwa Lake Seita Riverbank).
- The text 'あみ舟 元祖' (Ami舟 Original).
- A stylized illustration of a traditional Japanese boat (umi-kko).
- A large, bold, stylized font reading 'あみ 定' (Ami-Tei).
- Text in the background: '近くて便利な' (Convenient), 'ROWNE-SHOP', '南部自動車' (Southern Automotives), '1156代', '宇摩一郎', '大津市瀬田二丁目', '三重県立会津小俣町元町1648-10', 'TEL 0775-32326', 'FAX 0596-27-3705'.
- Text at the bottom right: '大津市唐橋町 23-1', 'TEL (0775) 37-1780(代)', 'FAX (0775) 37-1791'.

加藤内科胃腸科

SEIYU

石本メリヤス株式会社

吉山口

1008-マニ-ガマヨ

のまきのまき宇大・外系・中
西田基1008本

代表取締役 石本君夫

〒553 大阪市福島区野田2丁目21番13号
TEL (06) 462-3901番
FAX (06) 462-3902番

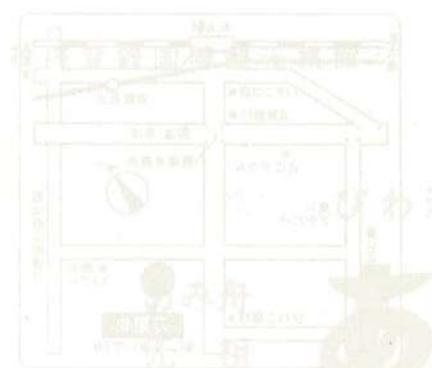
FEEL AT EASE
WILD ROVER CREW



マーガレット

岸本希利子

〒530 大阪市北区堂島1-4-6
和光ビル3F
TEL (06) 348-1718



桑野造船株式会社
大津市堅田1丁目21番2号
TEL (0775) 37-1750(代)
FAX (0775) 37-1751

精良骨格内装

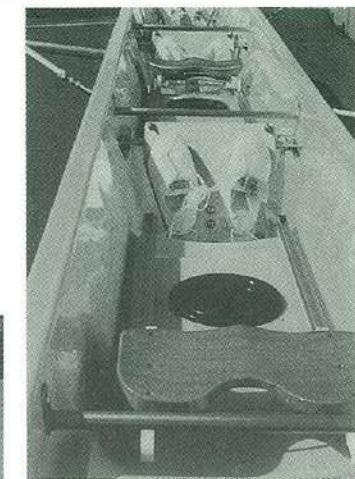
みどり

TEL (0775) 37-1750(代)
FAX (0775) 37-1751

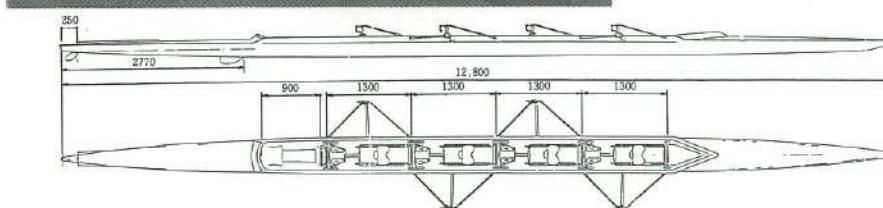
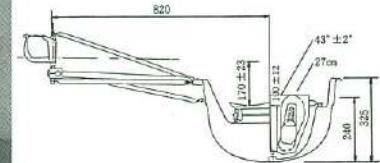
祝 年誌「力漕」創刊

新規開発高級素材舵手付フォア

全長	12.87m
幅	0.48m
深さ	0.25m
総重量	53-55kg
キール	特殊プラスチック
フレーム	チタンアルミ合金
外板	カーボンケブラー
デッキ	カーボンケブラー
リガード	3点式
ステー	チタンアルミ合金
ローワック	外傾角調整可能



〈内部構造〉



お問合せは

KIWANO

桑野造船株式会社

本社 大津市浜大津4丁目3-25
TEL (0775) 22-4367(代) FAX (0775) 22-4320
工場技術部 大津市堅田1丁目21番2号
TEL & FAX (0775) 73-3265

